

339
701



始





現代出燠田

掘井汀水着

339-701



例言

一、本書は秋田縣現代の縣勢一斑を紹介すべく其の概觀を努めて實際的に記述し、
し毫も獨斷的の論評を下さざることとせり、

一、産業状態は縣當局の責任ある統計並びに縣治概要其他を根底として記述せ
るが故に決して杜撰ならざるべきを信ず、

一、市郡の卷は單に其の郡勢の一斑を紹介せんとする概觀的記述に止めたるが
故に或は其餘りに不忠實なるを稱せんも本書の目的は縣勢の紹介に重きを

置きたるを以て郡市の記述は大に之れを省略せり、

一、景勝の卷も之れを詳述すべくんば數百頁を重ねざるべからざるを以て其最
も重なる部分のみを摘録するに止めて其詳細は更に出版せんとする「秋田景
勝大觀」に於て之れを記述すべし、

大正
5. 5. 9
内交

一、本書は實に縣勢概觀の目次を編輯せるが如きものに過ぎず之れを詳述せんとすれば少なくとも千頁以上を重ねざるべからず更に適當なる機會に於て其の素志を徹せんことを期す、

一、本書は第二版以下に於て漸次其の足らざるを補ひ誤れるを訂正すべきを以て普く高教を給はらんことを希望す、

大正五年春

編者 堀井汀水識

現代の秋田目次

地理上の秋田……………一

管轄……地勢……山岳……河川……湖沼……原野……山林……鑛山……道路……

海路……鐵道……郡邑……氣候……產物

歴史上の秋田……………九

沿革の概要……秋田縣廳の創設……歴代の縣長官

現代の縣勢……………一一

町村數……人口戸數……生産的人口……土地生産と負擔……縣の財政……郡の財政……市町村の財政……縣有財產……郡有財產……市町村基本財産……縣權災救助基金……縣慈善基金……縣債……貯蓄及び金融

本縣重要五問題の解決……………一七

船川築港……船川鐵道……羽越沿岸鐵道……陸羽橫斷線……治水問題

水道及び水力……………二二

水力……秋田市の水道……縣下の電燈瓦斯界

産業の秋田.....二五

産業人

農業の秋田.....二五

現在の概要.....耕地整理.....開墾.....米産と検査.....肥料.....麥産額.....雜穀産額.....特用農産物.....果樹.....蔬菜と花卉.....蠶工品

蠶業の秋田.....三二

蠶業の發達.....雜蠶共同飼育.....秋田式栽桑.....繭絲産額其他

畜産の秋田.....三五

産馬.....産牛及羊豚.....家禽

縣農會と山林會.....三八

縣農會の事業.....秋田山林會

林産の秋田.....四〇

森林.....製材.....漆器其他.....雜木の利用

鑛山の秋田.....四四

鑛床の分布.....鑛産額.....石油事業の發展.....石炭.....土瀝青.....重要鑛山

水産の秋田.....五一

水産の概況.....十和田湖の養魚.....留意すべき出稼漁業

工業の秋田.....五四

工業の大勢.....織物.....有望なる清酒.....金銀細工.....銅器鐵器.....漆器.....樺細工.....木通蔓細工.....竹細工.....曲木細工其他.....釣針.....工産雜類

商業の秋田.....六〇

現在の大勢.....會社.....港灣輸出入額.....鐵道輸出入額.....産業組合.....秋田物産館

教育の秋田.....六三

縣下の教育界.....縣立圖書館.....育英會.....縣教育會.....青年會.....武徳會.....婦人會.....褒賞

慈善事業の秋田.....六八

感恩講の由來發達.....保育院.....秋田縣陶育院.....福田學校.....秋田出獄人保護所.....秋田就業會.....秋田労働者慰藉會.....秋田縣慈善協會.....爾餘の施設

兵事上の秋田……………四

陸海軍人数……壯丁の學力及健康……海軍志願者……在郷軍人会……遺族廢兵……赤十字支部及び愛國婦人会支部……………七四

宗教の秋田……………七六

神社……神職……寺院と住職……教會……………

衛生と消防……………七七

衛生……火災消防……………

新聞及び雜誌……………七八

現代の新聞……秋田魁新報……秋田時事新聞……秋田毎日新聞……羽後新報……北羽新報……能代實業新聞……仙北新報……本莊時報……秋田民報……中央新聞……………

秋田支局……北辰公論……石油アスファルト時報……其他……………

市郡の卷……………八一

秋田市の概観……南秋田郡勢概観……山本郡勢概観……北秋田郡勢概観……鹿角郡勢概観……河邊郡勢概観……仙北郡勢概観……平鹿郡勢概観……雄勝郡勢概観……………

由利郡勢概観……………

景勝の秋田……………一二八

山水の連続……景勝と特色……縣南の山水……秋田市附近……由利街道……南秋田方面……山本郡方面……北秋田郡方面……鹿角郡方面……………

秋田縣の三勝地……………一三九

三勝の特色……十和田湖……趣味ある傳説……田澤湖……男鹿半嶋の奇峭……………

各地の公園……………一五〇

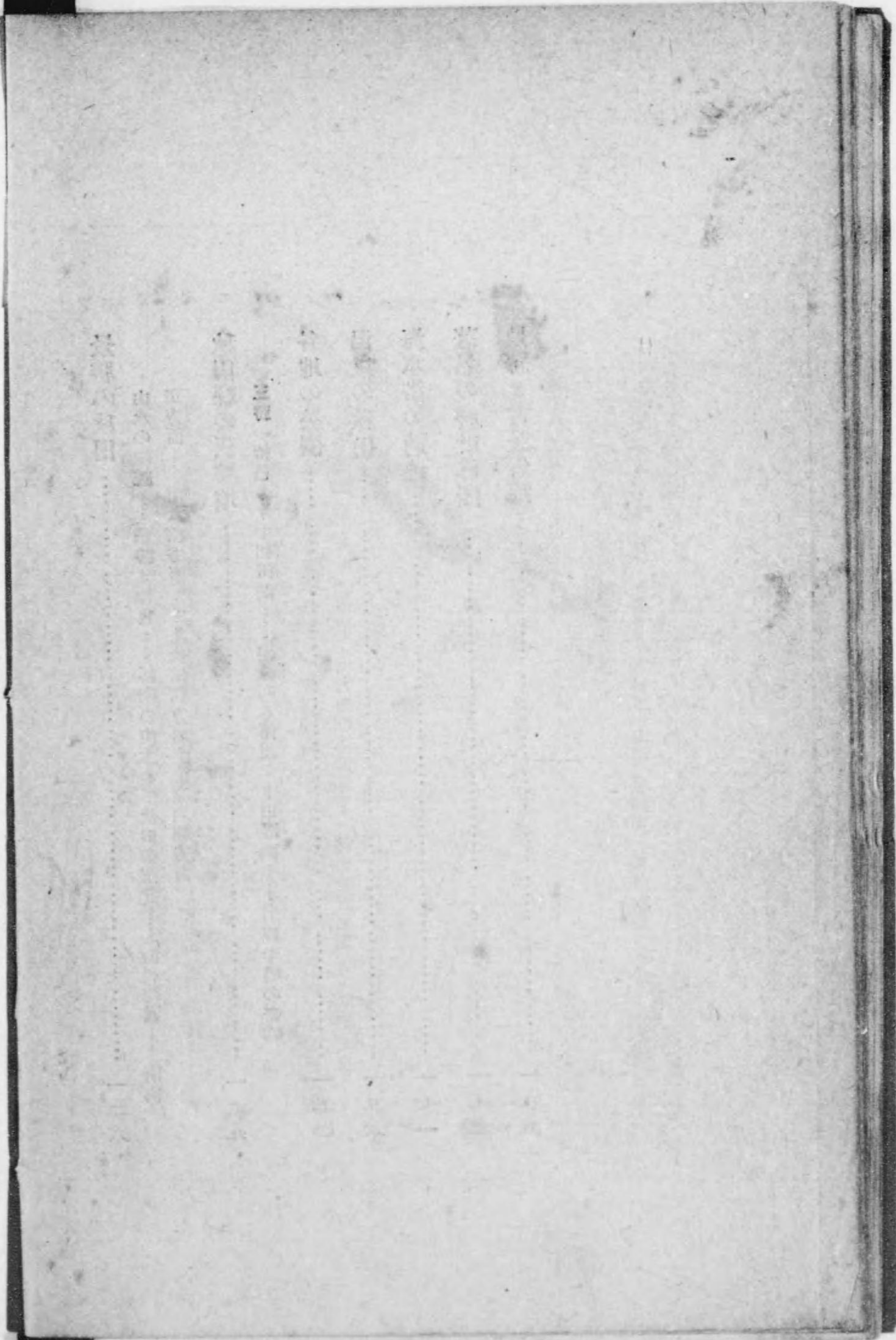
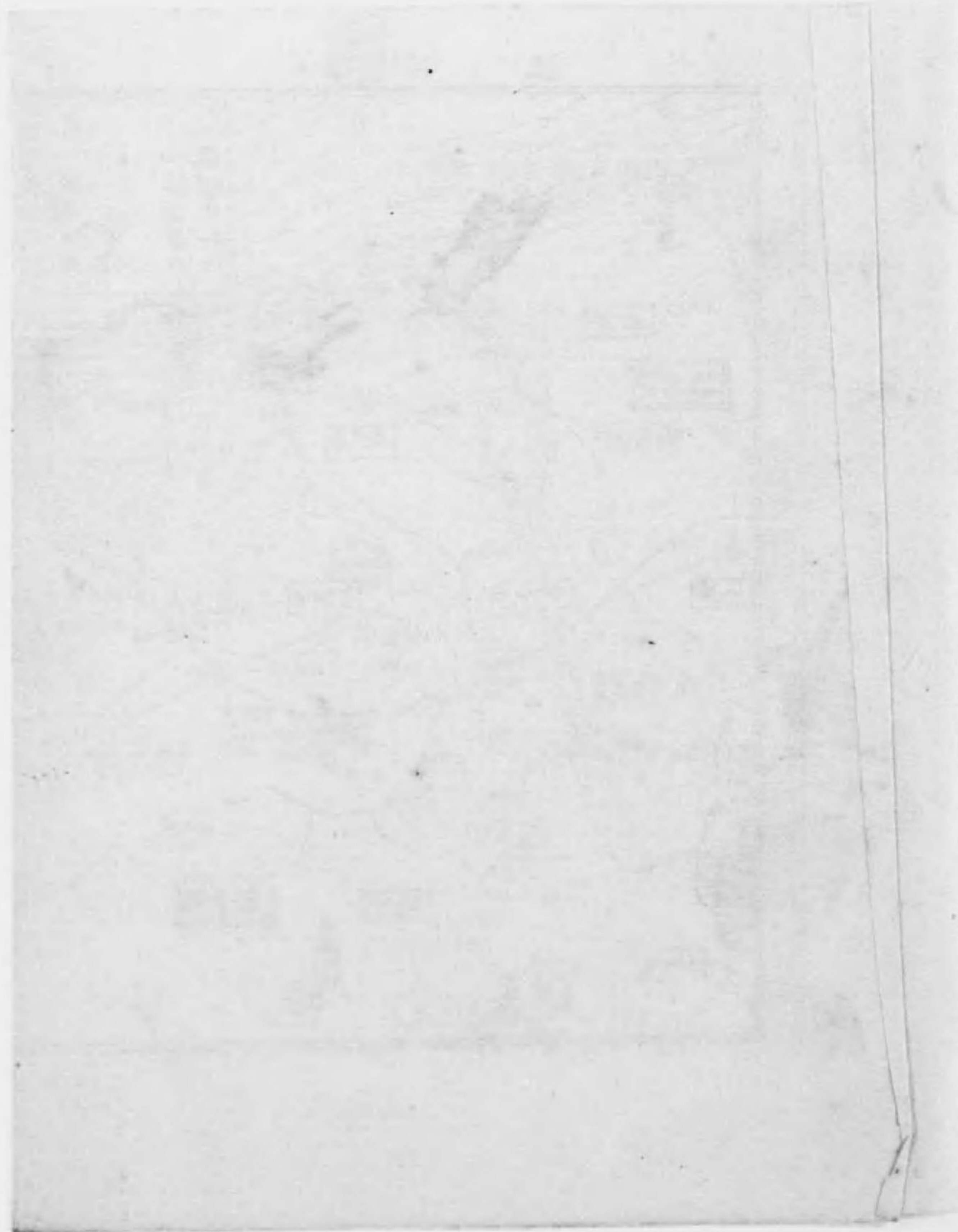
温泉の秋田……………一五六

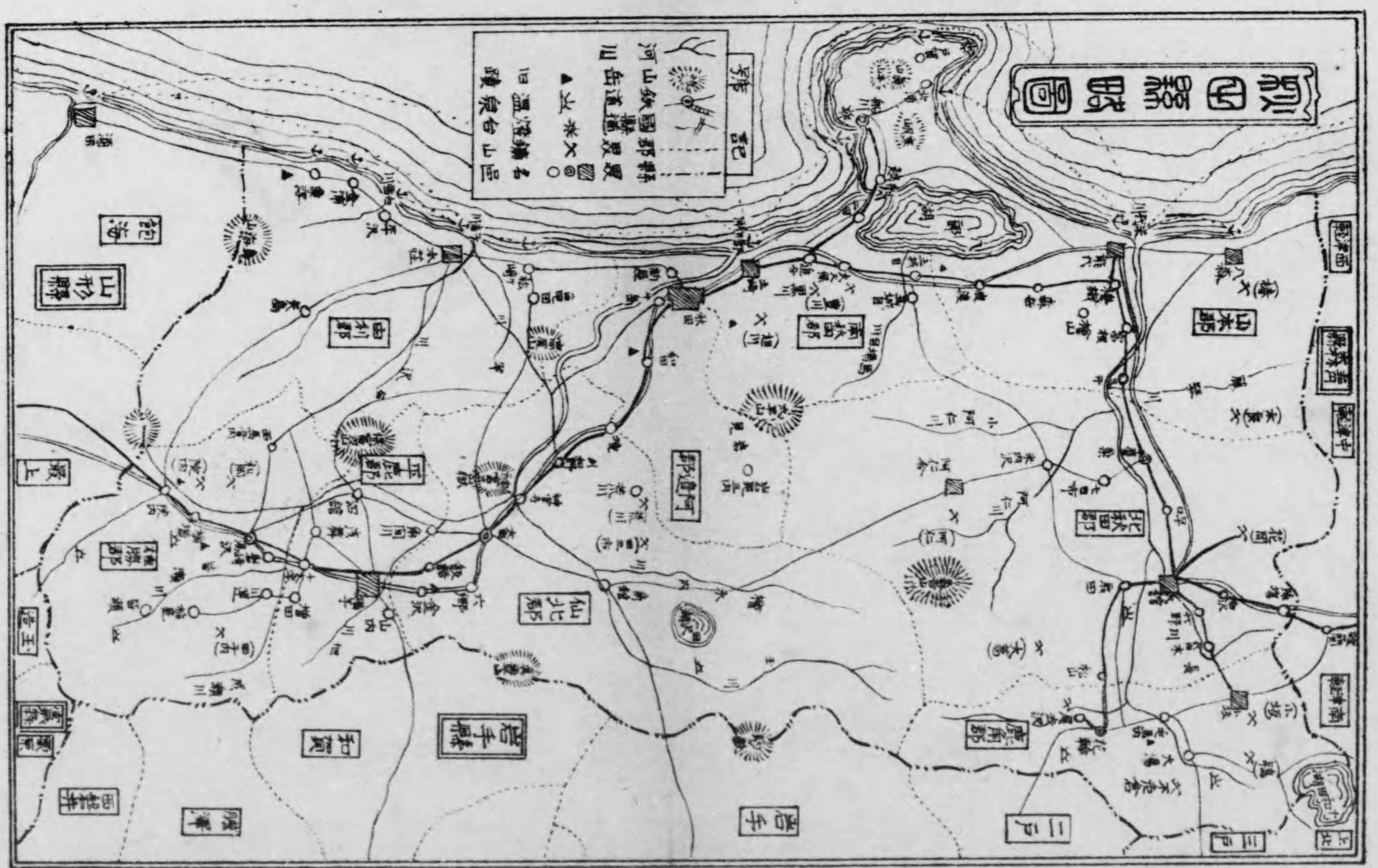
海水浴の適地……………一七一

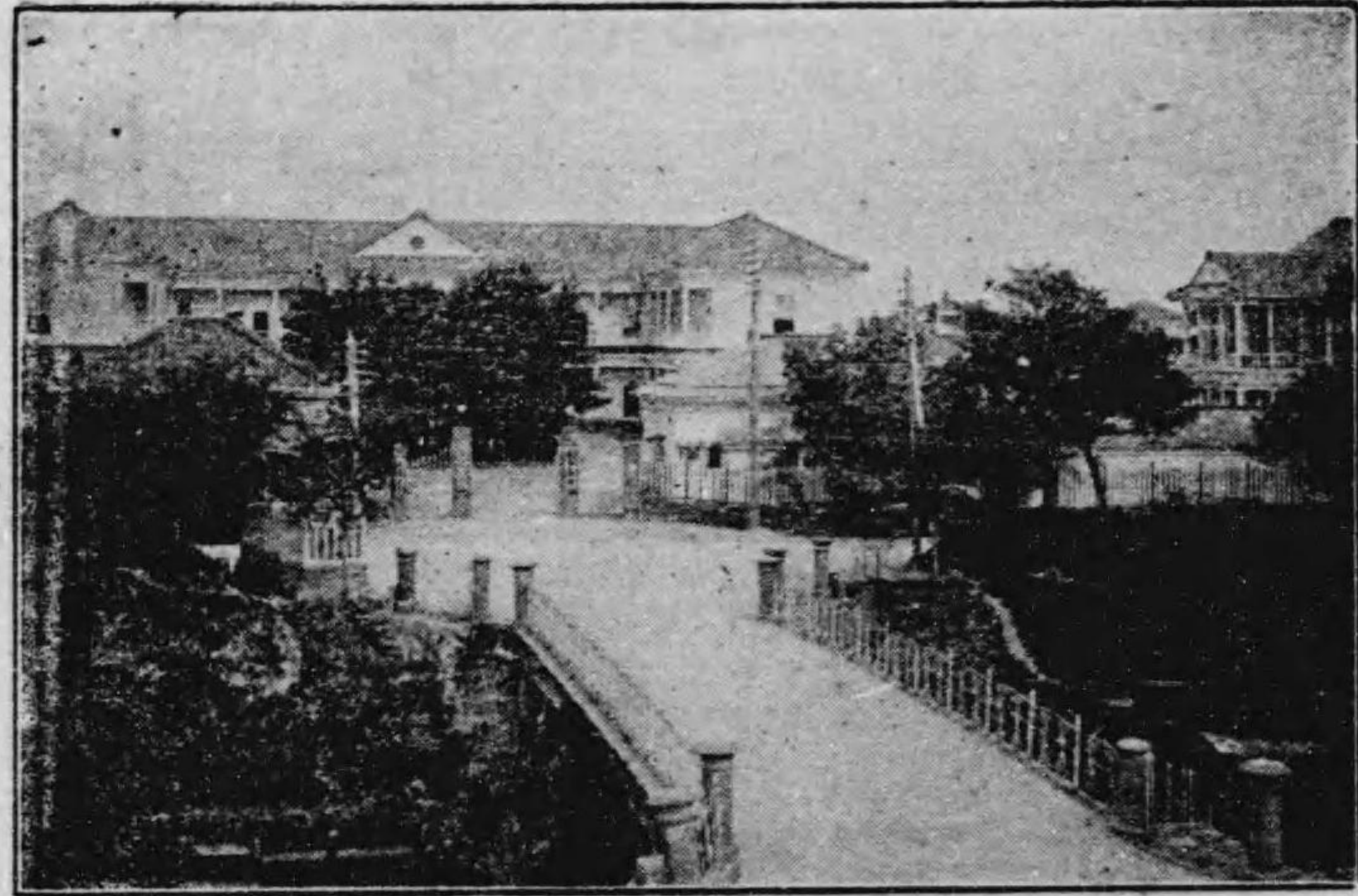
著名の神社佛閣……………一七三

景勝と古趾舊蹟……………一八五

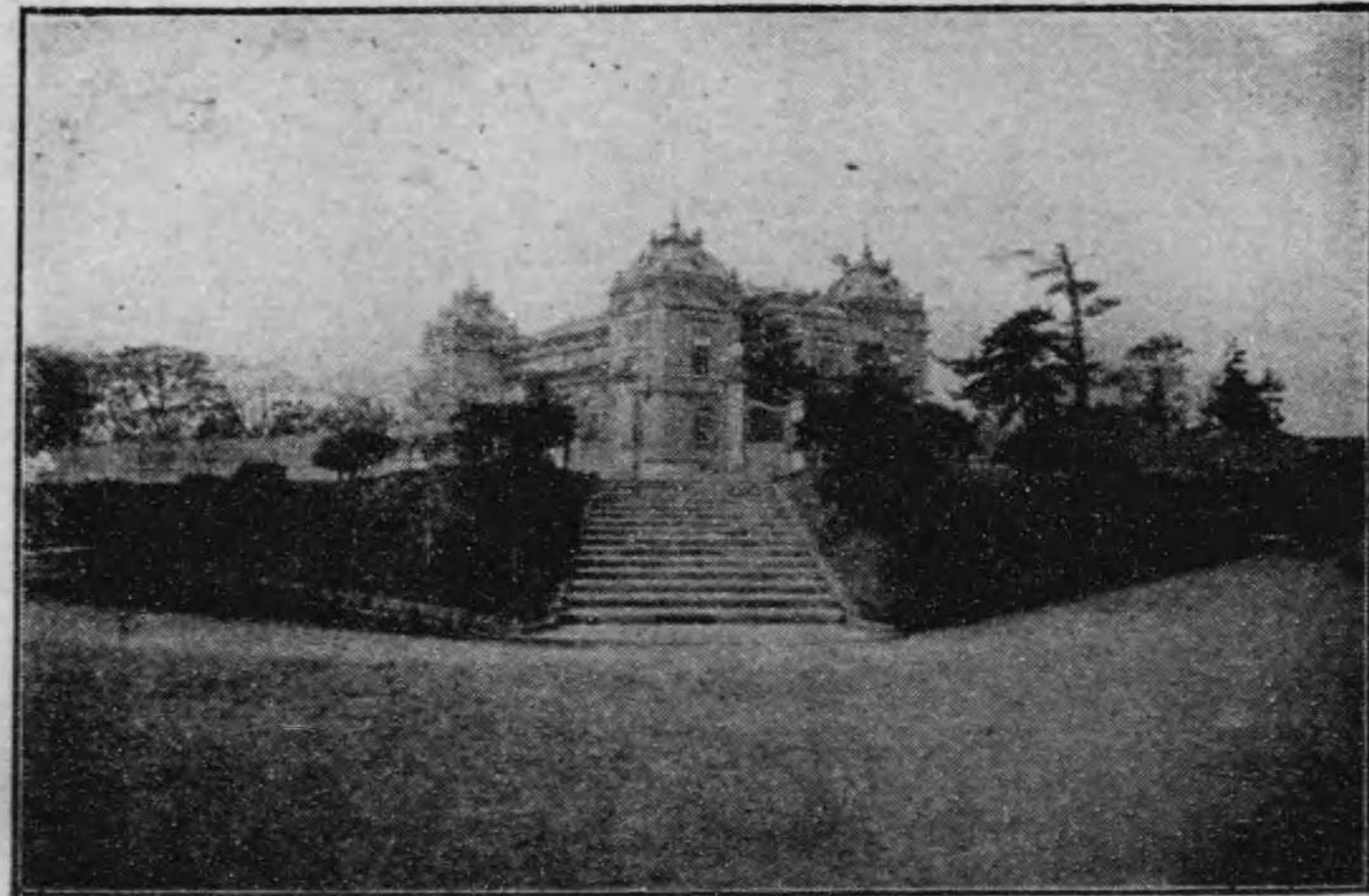
目次終り





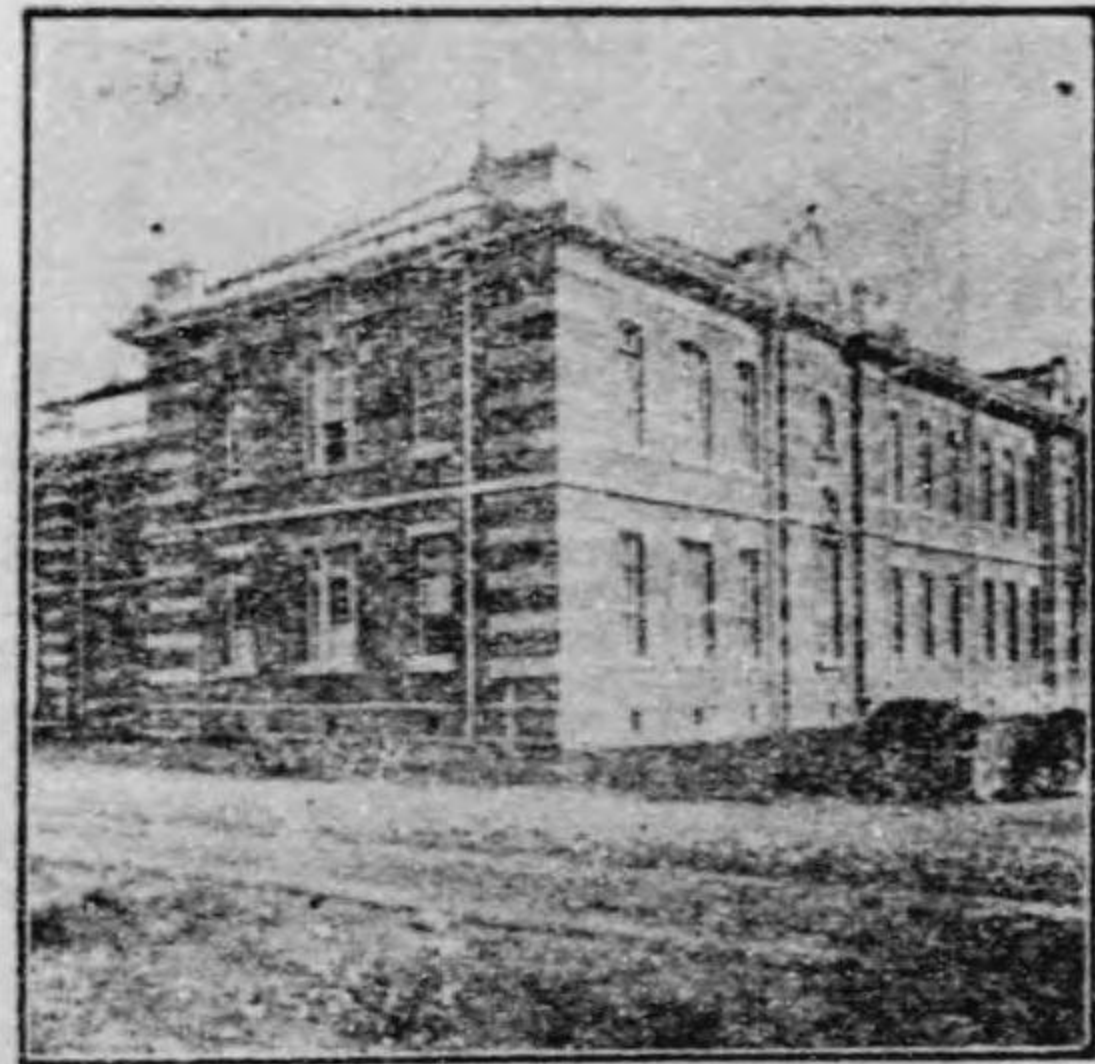


秋田縣廳



公會堂

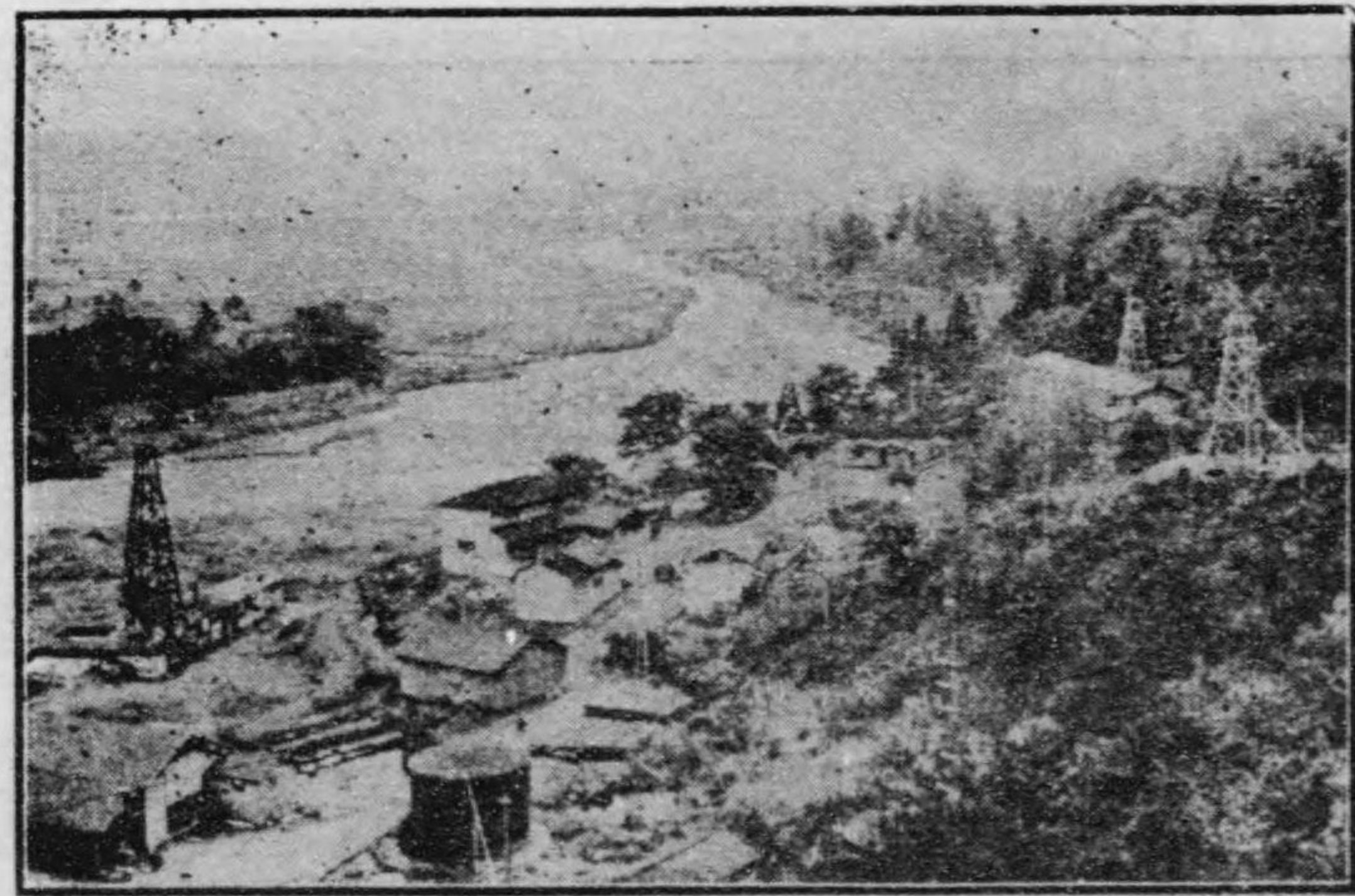
秋田停車場



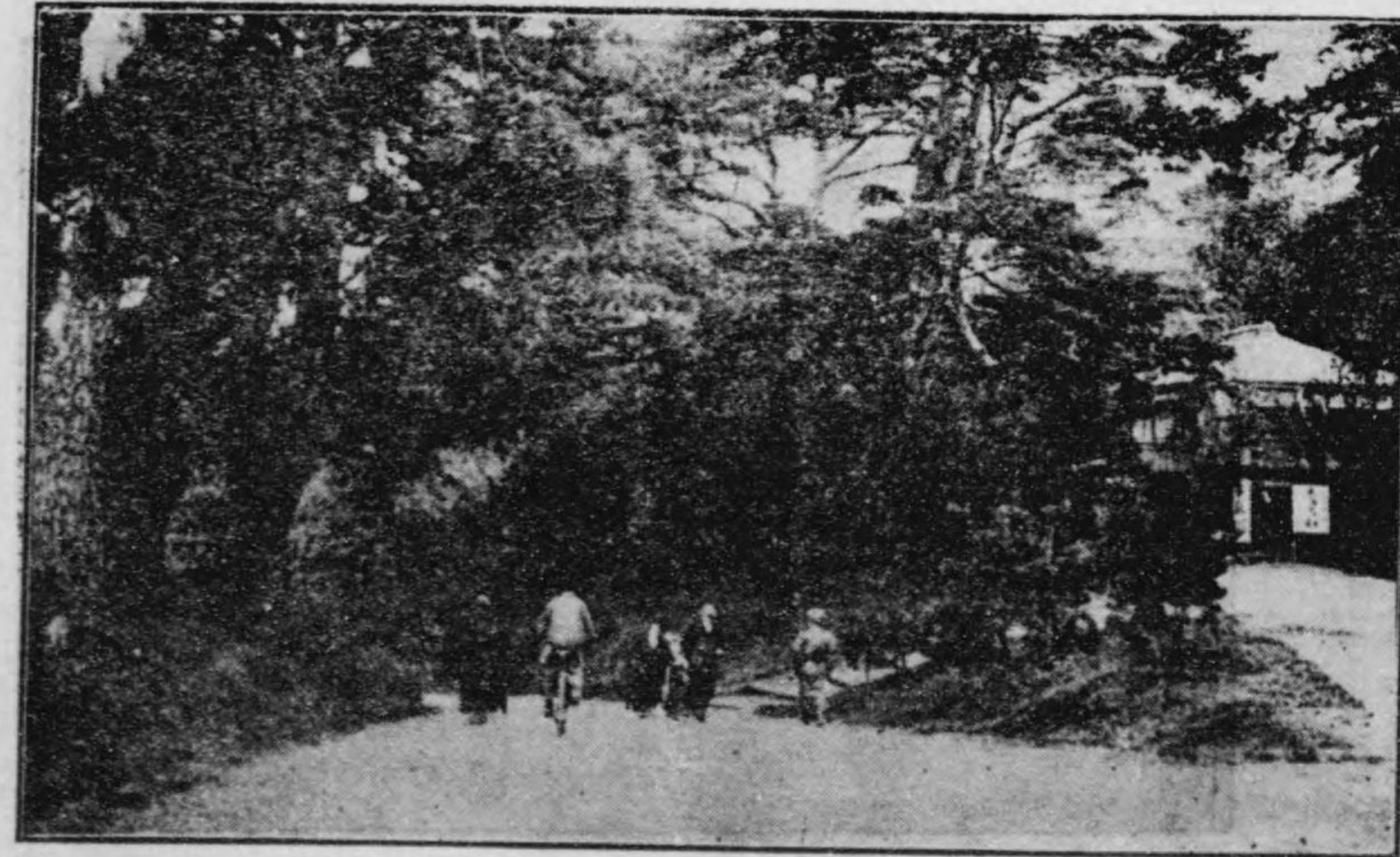
秋田山專門學校



公園上よりの市街觀望

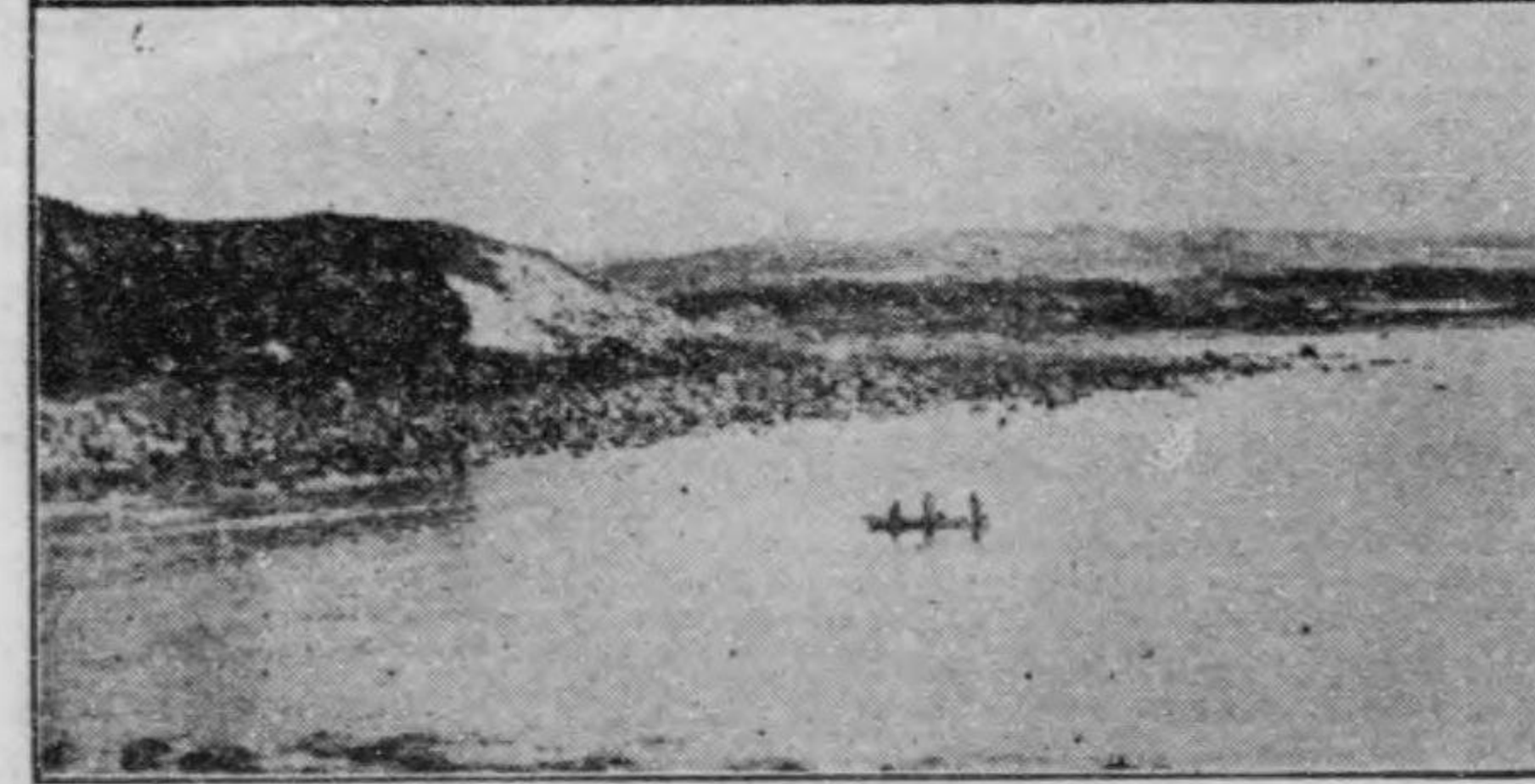
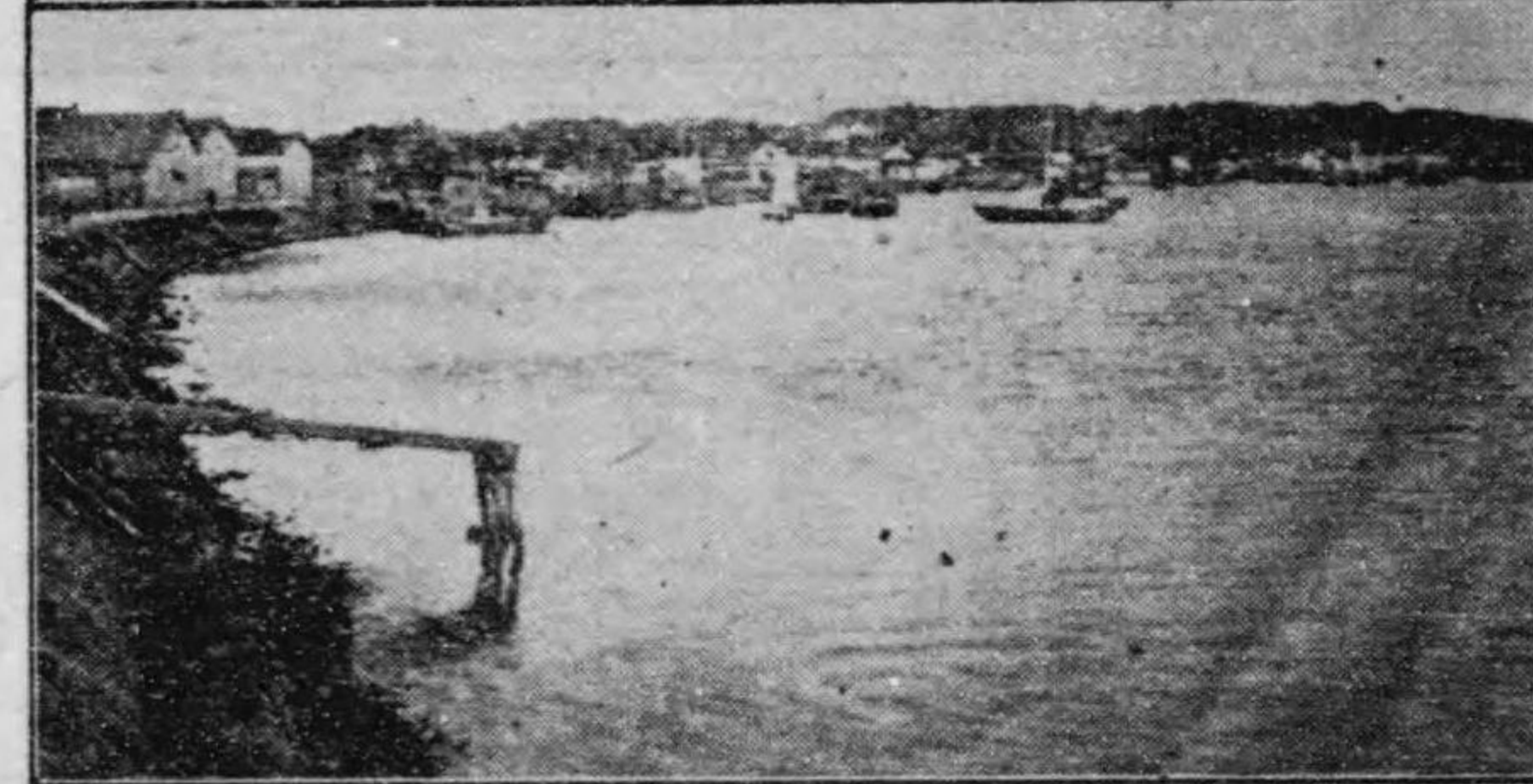
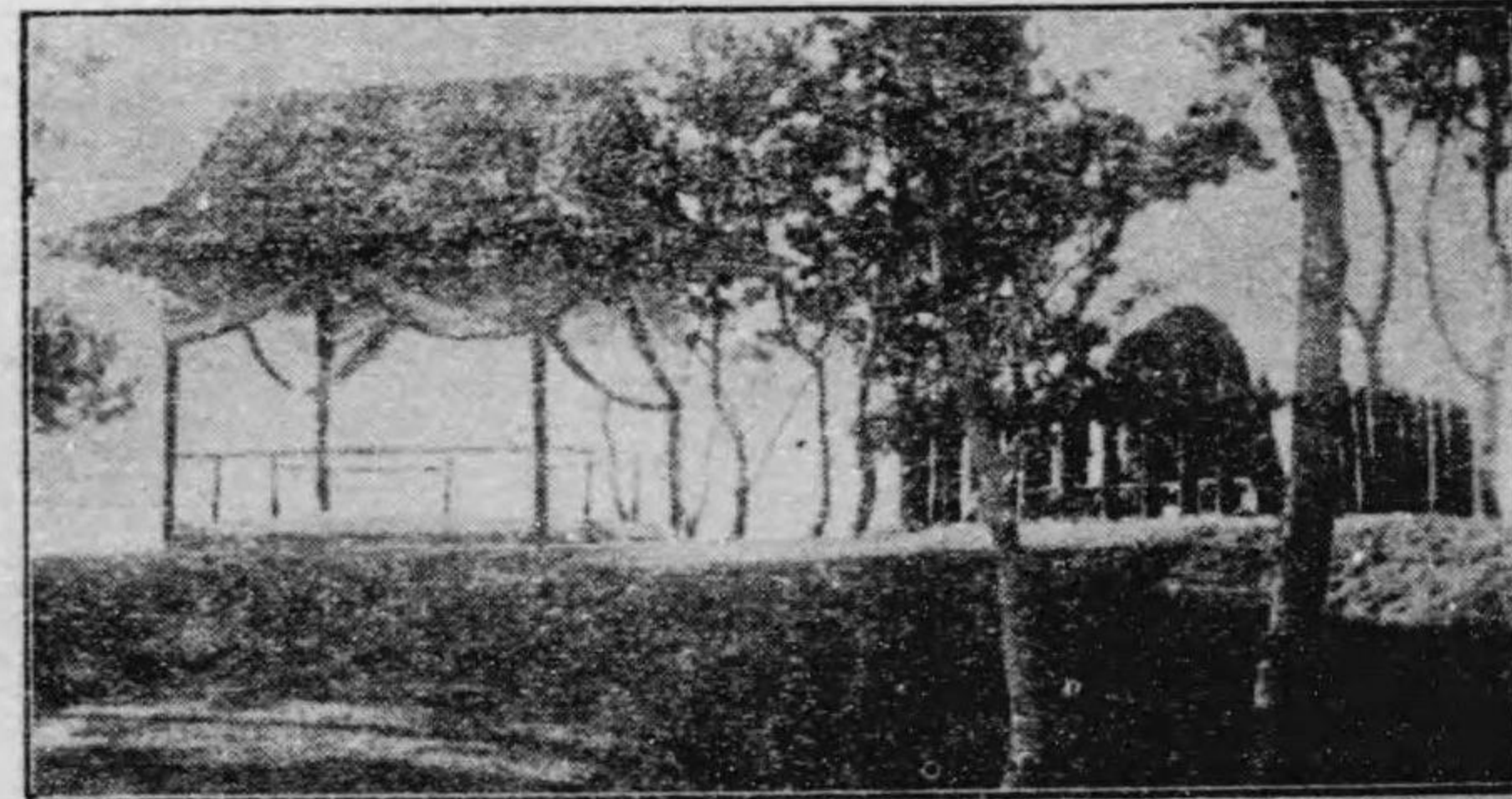


旭川油田



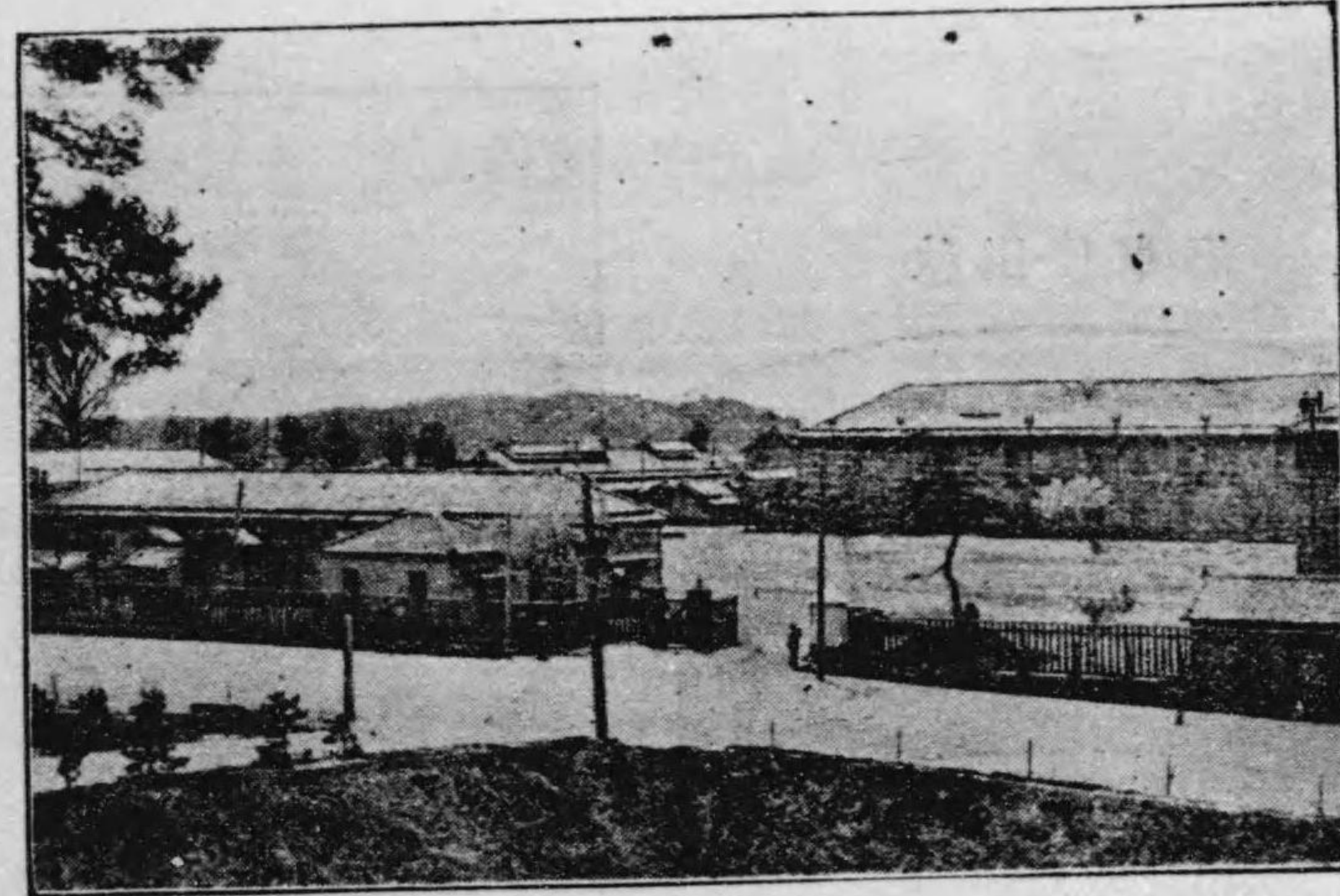
千秋公園松下門

土崎公園 今上陸下御立所

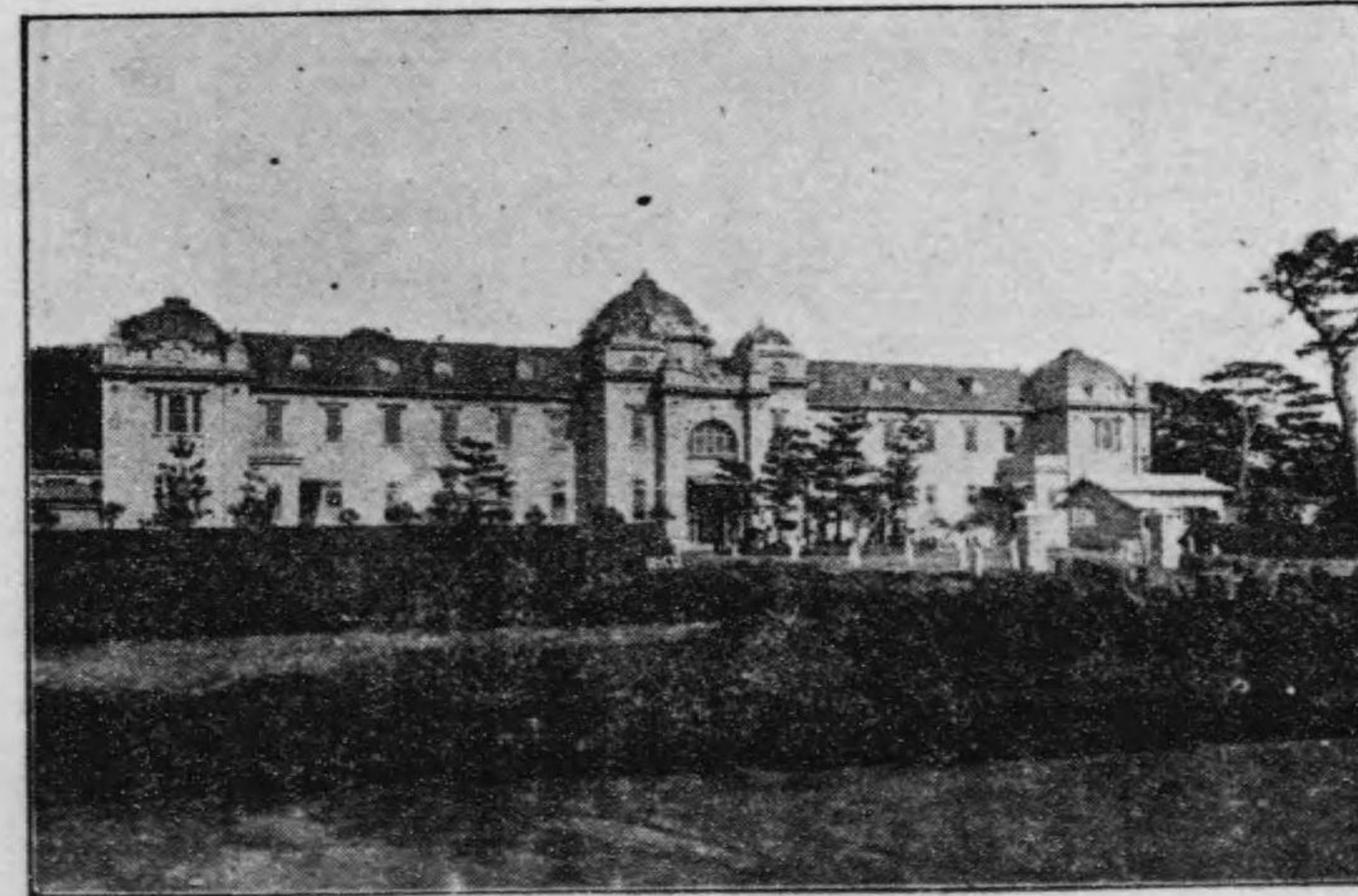


由利郡金浦港より鳥海山遠望

土
崎
港



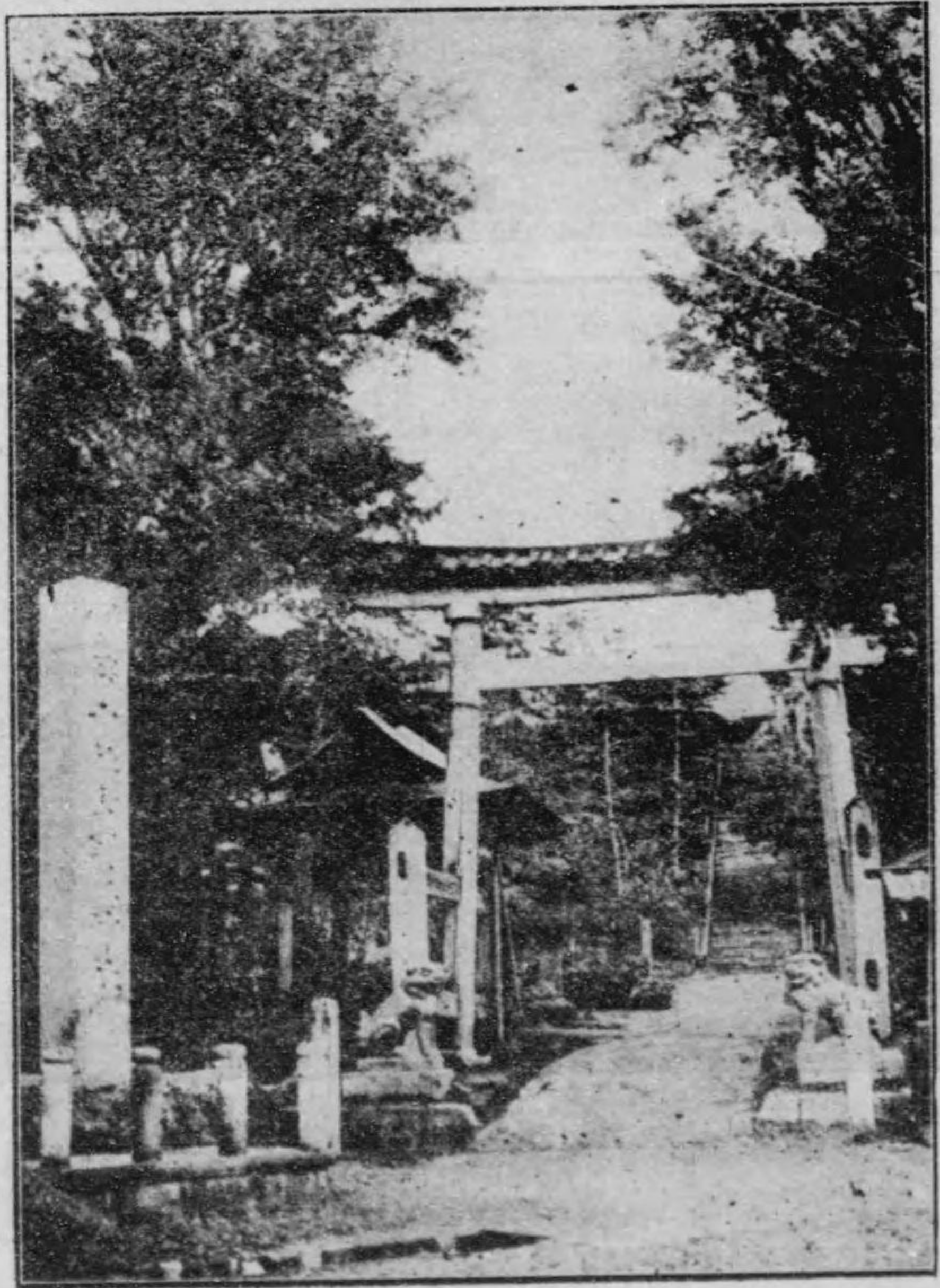
第十聯隊



赤十字支部病院

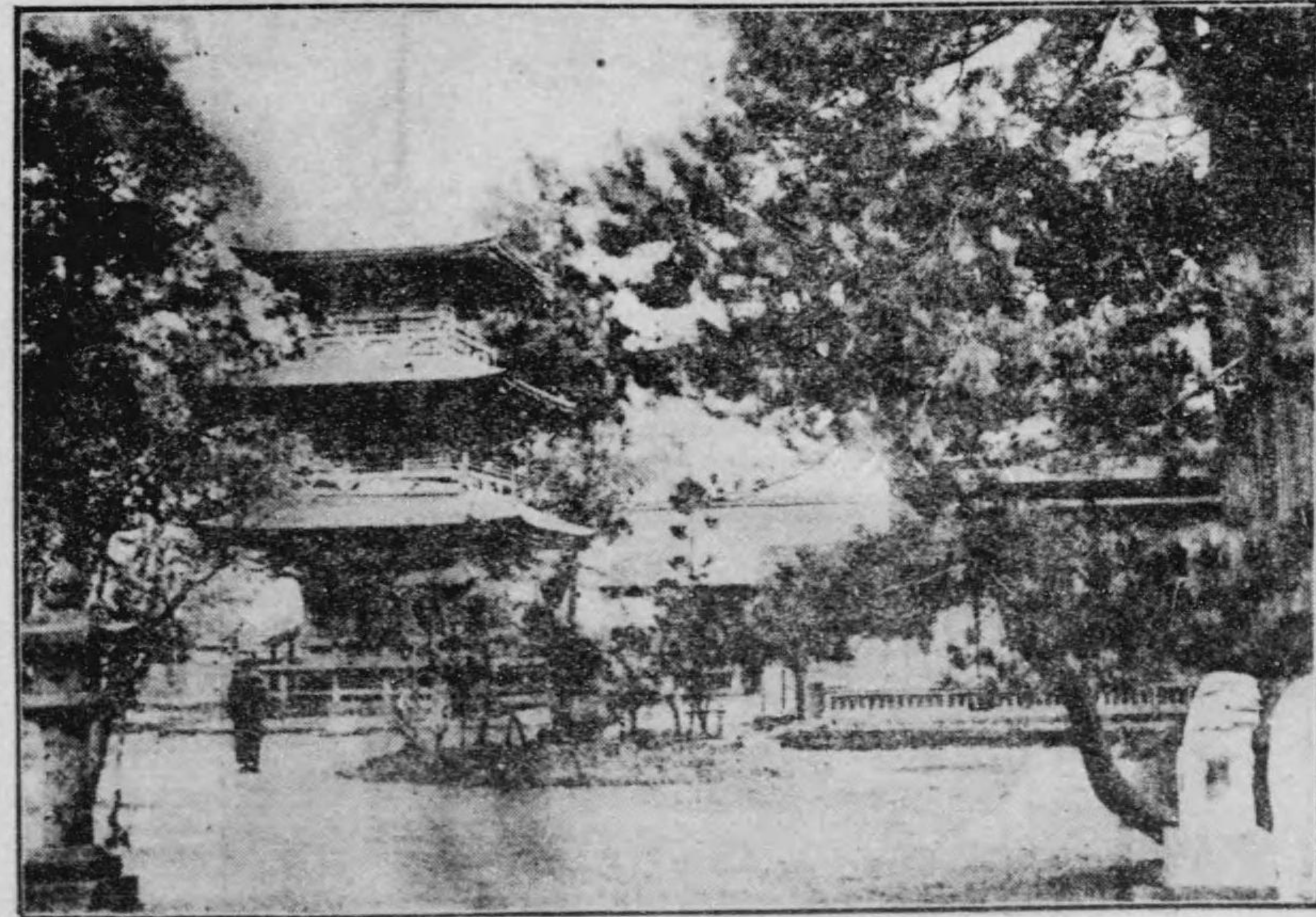


三倉鼻



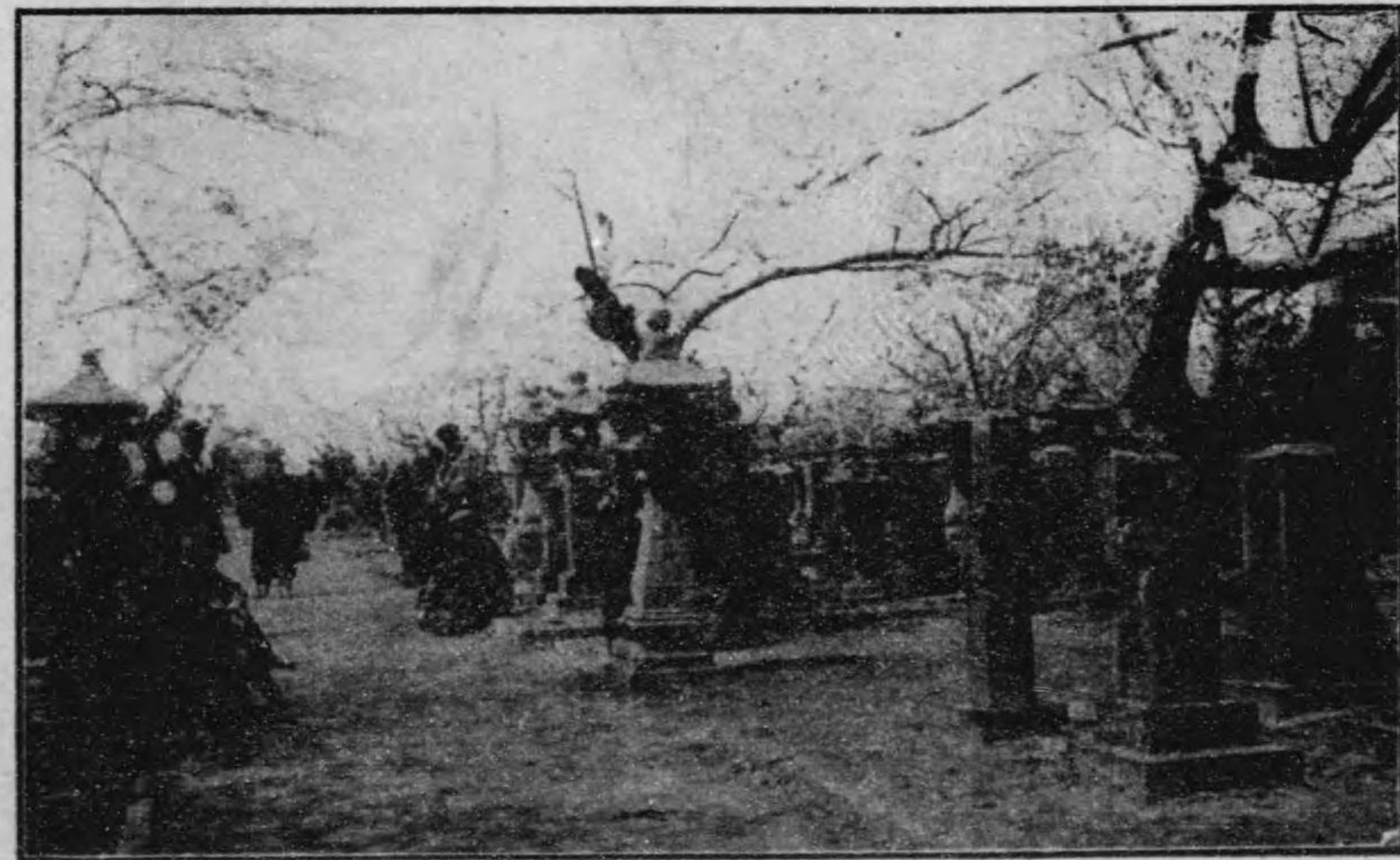
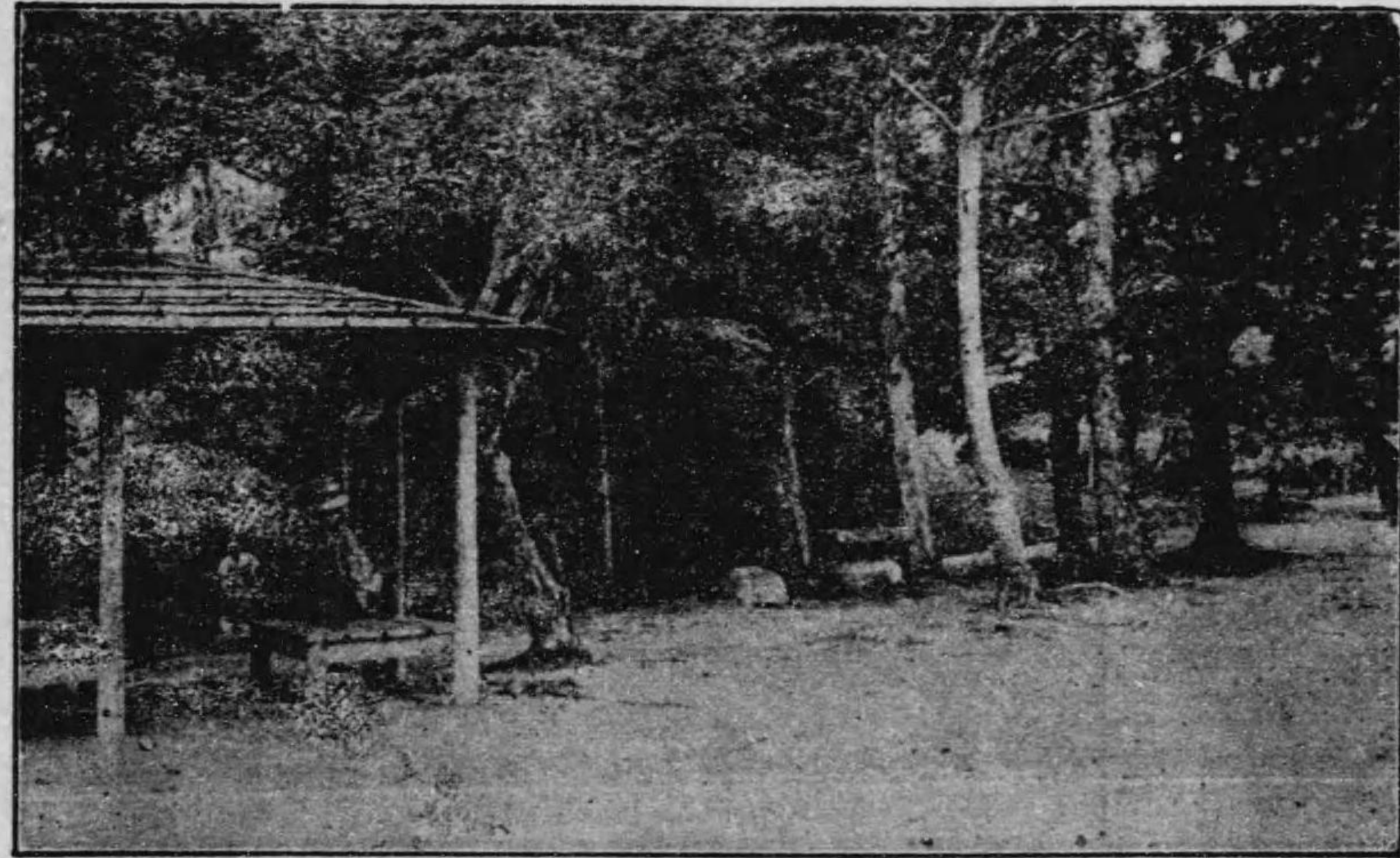
古四王神社

千秋公園



八橋公園三重塔

前社魂招園秋千



地墓軍官寺良全

現代の秋田

堀井汀水 著

地理上の秋田

■管轄 秋田縣は大日本帝國東山道の北西に位し羽後國秋田市、南秋田、北秋田、山本、河邊、由利、仙北、平鹿、雄勝の八郡及陸中國鹿角郡の一市九郡を以て成れり。

■地勢 地勢は南北に長く東西に短かく東、仙北郡(岩手縣境)仙巖峠(東經百四十四度四十一分)より西、由利郡(日本海沿岸)松が崎(東經百四十四度二分)迄二十三里餘南、雄勝郡(山形縣境)院内峠(北緯二十八度五十八分)より北、北秋田郡(青森縣境)矢立峠(北緯四十度二十三分)迄六十六里餘而して東北は駒が嶽、矢立峠、八森山等



の峻嶺を以て岩手、青森兩縣に境し兩は東安山、鳥海山等の高峰を以て宮城、山形兩縣に接せり、斯くの如く東西北の三方は峰巒起伏山脉連亘し西の一方は日本海に面し沿岸線七十餘里を有し中央は森吉(北秋田)太平(南秋田)保呂羽(平鹿)等の諸山盤屈し男鹿山脉(南秋田)は八郎潟を隔て、海中に突出して半嶋を形つくり南方鳥海の岬と遙に相呼應して一大海灣をなせり。

■山岳 縣内に於ける著名の山岳は左の諸山にて各々祭神を有し古來種々の禁制あり之れに伴ふ因襲また久しきに及べり

▲南秋田郡 太平山(山頂迄四〇〇)馬場目嶽(四、〇〇)寒風山(一、〇〇)本山(一、一八)眞山(一、一〇)

▲北秋田郡 森吉嶽(三、〇〇)田代嶽(三、〇〇)清水嶽(四、一八)

▲山本郡 八森嶽(二、〇〇)粕毛嶽(三、〇〇)モヤ嶽(一、〇〇)

▲河邊郡 高尾山(一、〇五)岩谷山(一、二〇)

▲由利郡 鳥潟山(九、〇〇)稻村ヶ嶽(三、〇〇)

▲仙北郡 神宮寺嶽(一、〇〇)駒ヶ嶽(二、一五)大深嶽(三、〇〇)藥師嶽(三、〇〇)眞書嶽(一、二五)大佛嶽(二、〇〇)

▲平鹿郡 御嶽山(二、〇〇)保呂羽山(一、〇〇)

▲雄勝郡 虎毛嶽(五、一八)五ツヶ嶽(三、〇〇)山伏嶽(五、〇〇)牛毛嶽(四、〇〇)

▲小安嶽(一、一八)鑄ヶ嶽(一、二〇)泥湯嶽(六、三五)川原毛山(三、二〇)八鹽山

(一、一四)杉嶽(三、〇〇)東安山(一、一八)

▲鹿角郡 八鹽平(三、〇〇)五ノ宮嶽(三、〇〇)四角嶽(二、〇〇)中嶽(二、〇〇)來滿

山(二、〇〇)

■河川 此等の山彙より源流を發したる河川の多くは西北に流れて本流はいづれも日本海に注ぐ著名の三大川と支流とは左の如し、

雄物川(流域三八里)源流東安山流末土崎港

支流 役内川 ▲高松川 ▲皆瀬川 ▲飯澤川(以上雄勝郡) ▲旭川(平鹿

郡) 鞠子川 ▲玉川 ▲曾本内川 ▲齊内川 ▲淀川(以上仙北郡) 境川 ▲岩見川(以

上河邊郡) ▲旭川 ▲太平川(以上南秋田郡)

米代川(流域三四里)源流岩手縣二戸郡田山村根石山流末山本郡能代港

支流 熊澤川 ▲夜明嶋川 ▲大湯川 ▲毛馬内川(以上鹿角郡) ▲犀川 ▲長木川 ▲

下内川 ▲山田川 ▲阿仁川 ▲小又川(以上北秋田郡) 常盤川 ▲檜山川 ▲戸川 ▲淺

内川(以上山本郡)

子吉川(流域一里二〇)源流鳥海山流末本莊港

支流芋川▲石澤川(以上由利郡)

此他由利郡平澤町片田に白雪川(五、〇〇)あり南秋田郡馬場目村に馬場目川(八、〇〇)あり。

湖沼 湖沼の著名なるものは左の如く最も大なるものは十和田湖、八郎湖、田澤湖とす。

八郎湖(周圍二〇里)十和田湖(周圍十二里)田澤湖(周圍二里三十三町餘)一ノ目湖(周圍一里)淺内沼(周圍一里四十間)北檜岡沼(周圍一里六十間)

原野 本縣は其開拓未だ十分ならざるが故に従て廣茫たる平野高原少なからず此等は實に本縣の將來を支配するものたるべきなり本縣が眞に振興の實を擧げ得る時代は此等の原野が最も有利に活用せられたる時たるを信せざるべからず

▲河邊郡 大張野 小平臺 菅森臺 椿臺 戸嶋臺 御所野臺

▲南秋田郡 將軍野 北野

▲北秋田郡 大野臺

▲山本郡 日本宮臺 母爺ノ臺 館ノ岱 大野 清水岱 上岱 離澤 中野原 大槻原 下惡戸野 四ッ屋野 大野臺原 十二ヶ村野 九郎左衛門臺 保龍原

金光寺野

▲由利郡 冬師臺野

▲仙北郡 若林野 戸伏野

▲鹿角郡 菩提野 内野

山林 米代川及び御物川沿岸は針葉樹林帯にて青森縣境、中央山脉、岩手、山形宮城の三縣境は濶葉樹の薪炭林たり而して重なる用材は杉材にて北秋田郡長木澤、南秋田郡仁別澤、男鹿山等は其の最たるものなり濶葉樹林に至つては其の利用の事業未だ大に新生面を拓らくに至らざるを遺憾とす。

鑛山 本縣は鑛山の豊富なるを以て定評あり其重なるものは鹿角郡小坂(金銀銅)同郡不老倉(同上)北秋田郡阿仁(同上)鹿角郡尾去澤(同上)仙北郡荒川及び日三市(同上)雄勝郡院内(銀)山本郡八盛(同上)等其他所在鑛山枚擧に遑あらず而して近時一萬石の噴油を以て世界的聲價を高めたる黒川石油は南秋田郡金足村に存在して其油脈の優良を以て目されつゝあるは南秋田郡、由利郡、山本郡、仙北郡地方なり其

他土瀝青は南秋田郡の特産にて無煙炭は北秋田郡七日市村に鐵鑛は鳥海山下にいづれも無盡の稱あれども採掘事業の未だ大に與らざるを遺憾とせざるべからず

▲道路 秋田市を中心とし南方和田(河邊)大曲(仙北)横手(平鹿)湯澤(雄勝)を経て山形縣に入り福嶋東京に及び又北方土崎(南秋田)能代(山本)大館(北秋田)を経て青森縣に通じ北海道に及ぶものを國道とす、而して秋田市より河邊郡新屋、由利郡本莊象潟を経て山形縣酒田、新潟縣新潟に通ずるを酒田街道又は越後街道と云ひ平鹿郡横手より岩手縣黒澤尻に通ずるを平和街道と云ひ山本郡能代より青森縣鯉が澤に通ずるを大間越街道といひ北秋田郡大館より鹿角郡花輪を経て岩手縣に通ずるを盛岡街道と云ひ仙北郡大曲より角館を経て岩手に通ずるを生保内街道と云ひ何れも縣道の重なるものなり。

▲海路 南秋田郡土崎、船川、山本郡能代、由利郡本莊(古雪)平澤、金浦、象潟より東北函館、小樽、樺太、浦潮斯德等に通ず又津輕海峽を過ぎ横濱神戸等に航するを東廻り線と云ひ西南酒田、新潟、伏木、敦賀等より山陰道に沿ひ下の關海峽を過ぎ内海を経て神戸、大阪等に達するを西廻り線と云ふ、

▲鐵道 鐵道は福嶋、青森間の奥羽線南北に延長し秋田市は其中樞に位し福嶋より

百八十六哩八鎖、青森より百十五哩五鎖、南端は雄勝郡院内に始まり北端は北秋田郡陣場に止まり停車場二十六、山形福嶋を経て東京に至る三百三十五哩、二十二時間にて達し又青森、仙臺をも迂回し得べし、又支線には山本郡能代、機織間の二哩三十五鎖、私設線には小坂鐵道會社の鹿角郡小坂北秋田郡大館間の十四哩と秋田鐵道會社の北秋田郡大館より扇田十二所を経て鹿角郡毛馬内、花輪に通せんとするありて現在は既に鹿角郡松木に達しつゝ、あり更に豫定線として實測調査終了せる羽越沿岸線ありて近く起工せられんとするあり陸羽横斷線の着手と伴ひ私設横莊鐵道の起工せられんとする等本縣鐵道の前途頗る有望なるを見んす。

▲郡邑 秋田市は縣の中央に位置を占め縣廳兵營等の官衙及び重なる學校等を有し縣治の本源一縣の大都會たり之れに次ぐは南秋田郡土崎港、北秋田郡大館町、鷹巢町、山本郡能代港、由利郡本莊町、仙北郡大曲町、平鹿郡横手町、雄勝郡湯澤町、鹿角郡花輪町等にて共に郡役所及び警察署所在地たり但し北秋田郡役所は鷹巢町に在り大館町は警察署を有せり又河邊郡牛嶋町には郡役所を有すれども秋田警察署の派出所たり其他南秋田郡の船川港、河邊郡の新屋町和田村、仙北郡の角館町、六郷町、刈和野町、平鹿郡の角間川町増田町淺舞町、雄勝郡西馬音内町、由利郡の矢嶋

町龜田町平澤町象潟町、鹿角郡の毛馬内町小坂鑛山等いづれも著名なり

■氣候 本縣は日本海の暖流を有するを以て岩手、青森兩縣に比すれば割合に氣候溫暖なり氣象區は北越地方と同じく第七區に位し雨雪の量多し風は四季共に感ぜざるなく殊に秋冬季に於ける西方又は北西より襲來するものは寒冷にして冬季は降雪と混じて吹雪を現す又二十廿日前後に暴風起り穀物を害すること多し温度は和適にて動植物の成長も良好なれど由利郡本莊以北の地は柑橘、無花果等の類結實せず霜は雪に比して尠なく雪は十二月に降り三月に融消するを常とす、

■物産 縣下物産少なからず其重なるものは金、銀、銅、鉛、鐵、石油、米、豆、麥、松材、繭絲、牛馬、清酒等にて山海河湖の産物饒多なると共に加工品としては秋田市の畝織、八丈縞、銀細工、鐵瓶、南部表、能代の春慶塗、大館、角館の樺細工本莊の桑酒、龜田の紫蘇織、横手の木綿絞り、湯澤の曲木細工、川連の漆器等は其の最たるもなり殊に名物として指を屈せらるゝは落、落摺、落の砂糖漬、畝織、八丈縞、銀細工、春慶塗、樺細工、曲木細工、鯛等なり。

歴史上の秋田

■沿革 本縣は上古北越地方と共に越しの國と稱し所謂東夷の跳梁地たりしが元明天皇の和銅五年越の國の開申によりて出羽國を置かれたり而して國府出羽柵は始め出羽郡(今の山形縣田川郡)に在りしが聖武天皇の神龜元年出羽の蝦夷叛せし際鎮將小野牛養來り鎮撫し又大野東人將軍として多賀城を築き鎮とせしも天平五年出羽柵を秋田高清水岡に移し府治を行ひ淳仁天皇の天平寶字五年秋田城を築き府治の外に兵治を置きしが寶龜元年に國府を出羽郡に南遷し専ら兵治を行ひしが桓武天皇の延暦二十年大に蝦夷を討ち秋田城を廢して更に志波城を築けり後陽成天皇の元慶二年秋田城は蝦夷の焼く處となり國司與世出羽權守保則進戰して大敗す更に小野春風鎮守將軍となり東征して遂に全く平定するを得たり、斯くて前九年の役後康平六年清原武則功を以て鎮守府將軍となり威を奥羽に振ひしが武則の死後寛治五年源義家陸奥守兼鎮守府將軍に拜す然るに州の豪族清原氏の一族家衡武衡等叛し仙北郡金澤の柵に據りしかば義家弟義光(佐竹家の祖)と謀を定め金澤城を抜き二衡を誅す、後ち

北條時代に安東氏を管領として津輕に居らしめ足利氏に至り更に秋田二郡を與へたり、安東家は貞任の二男高星丸の安東太郎と稱せしに起り後ち徳川家康の命により安東を秋田と改めしが關ヶ原の役に名代を出せし咎により常州に遷され佐竹義宣は秋田に遷封せらる實に慶長七年なり爾來義宣封内に割據せる群雄を一掃し今の南北秋田、山本、河邊、仙北、平鹿、雄勝の七郡を管し三百年昌平の基を開げり、外に由利郡には六郷家、岩城家、生駒家等の諸藩散在せしが明治の初年皆各其の藩籍を奉還するに至る、又鹿角郡は舊盛岡藩に屬せしが明治四年廢藩置縣に際し秋田縣に合せらる、而して明治元年出羽を分割し羽前羽後の兩國を置かれ羽後國に屬するは秋田、河邊、仙北、平鹿、山本、由利、飽海の八郡たりしが明治四年十一月秋田縣を置かる、時飽海郡は山形縣に屬し陸中國鹿角郡は秋田縣に編入せられ同時に秋田郡は南北二郡に分割せられ更に市制實施せらるゝに際し秋田市は南秋田郡より分立し現在一市九郡となれり

■秋田縣廳の創設 明治五年一月秋田郡秋田長町九十二番地に開廳せられしが明治十三年四月十九日南秋田郡秋田土手長町に新築移轉し以て今日に至れり、

■縣長官 置縣以來長官の交迭二十三人曰はく小笠原幹、村上光雄、嶋義勇、杉孫

七郎、國司仙吉、石田英吉、赤川戀助、青山貞、岩崎小次郎、鈴木大亮、廣瀬進一、平山靖彦、岩男三郎、武田千代三郎、志波三九郎、椿藥一郎、岡喜七郎、床次竹次郎、清野長太郎、下岡忠治、森正隆、秦豊助、阪本三郎の諸氏なりとす、

現代の縣勢

■町村數 一市九郡に於ける町村數は現在二百三十九にて内組合三あり町數は四十二村數一九七を有し之れを各郡別とすれば南秋田郡には三十五ヶ町村北秋田郡には三十二ヶ町村山本郡には二十六ヶ町村河邊郡には十五ヶ町村鹿角郡には十ヶ町村由利郡には三十一ヶ町村仙北郡には四十ヶ町村平鹿郡には二十五ヶ町村雄勝郡には二十五ヶ町村を有す、

■人口戶數 大正二年末の現在戶數は十三萬六千十三戸にて人口九十四萬二千六百六十六人一戸平均六人九分三厘面積一方里に對し一千二百八十四人當りとなる而して本縣に於ける戶數人口の増加率は十箇年平均にて戶數千に付き五戸五分一厘人口千に付き十五人八分八厘の割合ひなりとす、

■生産的人口 本縣現住人口九十四萬二千六百六十六人に對し十六歳以上六十歳未満の男女を生産的勞力に堪ふるものと假定すれば其數五十二萬七百三十五人なるを以て其他の四十二萬一千九百三十一人は十五歳以下六十歳以上の不生産的人口と見做すを得べし。

■土地 最近の調査による土地總計八十一萬六千四百四十六町五段步にて内民有地三十四萬一千七百九十七町三段其内譯田地十萬六千一百一町九段、畑三萬四千五百二十七町一步、宅地八千四百五十七町、山林九萬三千四百七十一町四段、原野九萬八千二百四十四町二段其他六千四百九十五町七段、官有地總計四十七萬四千三百四十九町二段内譯田地三町一段、畑三十二町六段、宅地二町二段、山林四十一萬百七十町六段原野千七百二十六町六段其他六萬二千四百四十四町一段なりとす。

■生産と負擔 本縣の生産總額は五千二百六十四萬四千五百四十三圓にて内農産二千六百九十一萬七千六百八十二圓、鑛産一千五十八萬五千二百一十七圓、林産六百四十六萬七千五百五十七圓、工業四百三十五萬九千九百九十八圓、養蠶二百五萬九百五十七圓、畜産百二十七萬五千八百四十二圓、水産九十八萬七千七百八十圓にて一戸當平均三百九十三圓三十七錢二厘一人當り平均五十七圓二十六錢四厘なり然れども最

近鑛業の勃興と石油業の發展とによりて鑛産高の増加著るしきが故に此の率必らずしも永久不變なりと云ふを得ず、而して其負擔は總額四百六十萬三千七百十五圓にて内直接國稅百九十九萬百十四圓縣稅九十四萬六千二百七十四圓市稅八萬三千九十三圓町村稅百六十五萬六千九百十九圓其他一萬八千百十五圓なるを以て一戸當三十四圓九十八錢七厘一人當五圓二錢六厘如上生産高より負擔額を控除せる殘額は四千七百九十五萬八百二十六圓なるを以て之れを一戸當とすれば三百五十八圓三十八錢五厘一人當五十二圓二十三錢八厘となるべし。

■縣の財政 府縣制施行前即ち明治二十二年に在りて五十七萬圓に過ぎざりしが三十五年に至りては一躍百十五萬圓に上り三十八年度に於ては日露戰役に際し緊縮を旨とせる結果七十四萬圓に至りたるも四十四年度に於ては更に百八十三萬圓大正元年には百四十六萬圓大正二年には百五十九萬九千圓となり大正三年度は百七十五萬七千三百二十五圓大正四年度豫算額は百五十七萬四千三百三十七圓なりしも大正五年度は多少緊縮方針を採りたる結果として其の豫算百五十萬九千二百四十圓となれども尙多少の變更なき能はざるべし。

■郡の財政 明治二十七八年度頃迄は總額僅に貳參圓の間を昇降するに過ぎざりし

が四十一年度には拾貳萬圓に上り大正二年度には拾六萬圓餘を算するに至れり而して其重なるものは土木費教育費勸業費の三とす。

■市町村の財政 明治二十二年度に在りては總額貳拾五萬圓を出でざりしが三十六年度には一躍百六十八萬に上り大正二年には貳百七萬餘圓を算するに至れり而して其重なるものは教育費之れに次ぐは衛生費にて教育費の如きは總額の四割一分に當る。

■縣有財産 縣有財産の各種を價格見積りとすれば明治四十三年度に於て二百四十一萬六千八百八十五圓なりしが大正二年度には二百六十三萬六千三百八十九圓となれり。

■郡有財産 大正三年三月末日の現在に於て其見積價格十一萬六千九百四十六圓を算せり。

■市町村基本財産 大正三年三月末日の調査によれば三百七十四萬一千四百六十七圓にて北秋田郡の八十二萬六千七百七十八圓を最とし之れに次ぐは山本郡の七十萬八千四百七十二圓由利郡の六十八萬九千十四圓仙北郡の五十三萬九千三百九十七圓平鹿郡の三十一萬五千六百六圓南秋田郡の二十九萬六千四百八十五圓雄勝郡の二十

一萬一千二百五十一圓鹿角郡の七萬七千九百三圓河邊郡の六萬八千八百七十九圓秋田市の七千六百七十二圓の順位なりとす。

■縣罹災救助基金 大正三年三月の調査にれば七十八萬一千五百九十六圓なり

■縣慈善基金 現在十一萬四千九百十二圓なりとす。

■縣債 大正四年度に於ける調査によれば縣債總額約五十五萬六千圓にて水害復舊費に使用せるもの船川築港費に使用せるもの其他救濟事業震災復舊費等に使用せるものにて總額八十五萬四千五百圓なれども四年度より十年度迄に償還豫定額を減する時は前記の殘額を見るものとす。

■貯蓄及び金融 奥羽六縣は大体に於て其の状態を同うし隨て資産の階級も上中下の三流に區別するを得べきも獨り本縣は貧富の縣隔甚だしく所謂中産者なるもの少く下流者は多く鑛山製材其他の勞役に服するが故に赤貧洗ふが如きもの割合に少なきを幸ひとすべし而して大正五年二月末の調査に依る銀行貯蓄は百六十四萬五千五百五十八圓にて郵便貯金大約百六十九萬六千七百圓と合算すれば三百三十四萬一千七百圓以上なり然れども之れ其の貯蓄總計として誤りなき能はず何んとなれば現時銀行預金の總數實に一千二百三十八萬七千五百三十九圓此等の内流動資金として産業

界に流用せられつゝあるものと雖も尙且つ中央より地方民の零細なる貯金を吸収せんが爲めに支店若しくは代理店として勧誘之れ努めつゝあるもの其額十五萬圓以上なるべきを以て單に貯蓄貯金のみとするも其額三百五十萬を下らざるべし而して金融機關としては本店十五支店十六ヶ所にて現在拂込資本金三百五萬一千九百八十圓積立金百十四萬三千百三十二圓なりとす最近一月中に於ける金融状態は

- ▲定期預金四八〇、九二〇七圓 ▲當座預金二六三、七二〇七 ▲小口當座二七四、〇四〇二 ▲貯蓄貯金一四八、一三三三 ▲諸預金七一、九三二七 ▲貸附金五八三、五七二 ▲當座預金貸越三九四、三八三一 ▲割引手形三五五、四八一四 ▲有價証券二〇六、八六二八 ▲金銀有高五八、〇五七二

今本縣内に於ける銀行を左に掲げて參考に供すべし

- 株式秋田銀行 ▲株式第四十八銀行 ▲合名能代銀行 ▲合名澤木銀行 ▲株式仙北銀行 ▲合名池田銀行 ▲株式平鹿銀行 ▲株式増田銀行 ▲合名五業銀行 ▲合名植田銀行 ▲合資湯澤銀行 ▲株式雄勝銀行 ▲株式雄勝貯蓄銀行 ▲株式本莊銀行 ▲株式秋田農工銀行 ▲安田銀行 秋田支店 ▲同横手支店 ▲同本莊支店

本縣重要五問題の解決

本縣には二條の國道六十五線の縣道三大河川十一港一市八郡に通ずる鐵路ありと雖も交通運輸未だ完からずして施設を要するもの少なからず今左に其重要なるものを摘記すべし、

▲船川築港 北日本に於ける港灣の數少なからずと雖も少しく風波の起るあらんか荷役困難にして貨物忽ち停滯し或は避難に多數の日子を空費し而して冬期半歳は全く航行を杜絶する等一般商業界及び生産消費者の受くる損害多大にして實に想像の外にあり殊に帝國は軍事上の關係と北海道樺太及び朝鮮の開拓并びに露領浦潮及び沿海州との貿易上北日本海沿岸に良港を得るの必要緊切なるを以て吾が縣船川築港問題は朝野の夙に唱和せるところに於て遂に明治四十四年より起工繼續するの運びに達せり、船川港は男鹿半嶋に於ける一大港灣にして東、生花崎より西、根の崎に至る一里半に跨り東南東に向つて展開し男鹿三山を負ひて日本海特有の北西風を屏遮し土砂を流出する河川なく潮流の速度も亦微弱にて漂砂を入るゝの虞なく海底又

比較的深濶にして年中概ね平穩なるを以て船舶を入るるに適し殊に冬期の好泊地たり現に風波の起れる際は航行の船艦遠く來りて難を此處に避くるを常とす、天然の形質此の如くなるのみならず露領浦潮との間其の距離最近く加ふるに低額の費用を以て一大良港となし得べきを以て之れを修築して海陸の連絡を通するに於ては露國との關係は固より奥羽交通の形勢一轉し四方の貨客蔚然として茲に集注し來らんは識者を俟たずして明らかなり、築港後に於ける貨物の集散果して幾何に達するか既往の事實に基き確然明瞭なるもののみを推算するも尙且つ五十萬噸三千萬圓の多きに達す若し夫れ今後經濟界の活躍に伴ふ集散貨物の膨脹を豫想せば優に前記の數量を超過するに至るべし是れ本縣が夙に本港の修築と背後鐵道の敷設とを唱導したる所以にて政府も茲に見る所あり土崎港を包容せしめて之れを指定し背後船川鐵道の敷設も亦着手せらるるに至れり、而して本港の修築に付ては約六百萬圓の費用を要し直ちに其の全部を完備するは頗る至難の業なるを以て向後港市の發達に伴ひ漸次經營を進むるの方針を執り先づ其の一部を修築せんとし明治四十四年度以後三ヶ年の繼續事業として工事に着手せり、工事の概要は先づ三百萬圓を以て埋築工事防波堤工事、船入場工事を施し普通灣となし更に大なる要港と爲さんが爲め三百萬圓を

以て第二防波堤工事、浚渫工事、繫船設備工事、陸上設備工事、第二埋築工事を執行して之れを大成するにあり、斯くて船川鐵道の完通と伴ひ海陸を聯絡し土崎港を接近せしめ商港としての面目を發揮せしめんとす、

■船川鐵道 船川鐵道は奥羽線追分驛より分岐し南秋田郡天王、船越、脇本の諸村を経て船川港に至る延長十五哩餘にて茶臼山の墜道及八郎湖口の架橋の外概ね平易に施工せられ大正四年十二月一日既に羽立驛を通過し本年中に埋立地に達するの豫定なり本鐵道は船川築港と唇齒輔車の關係を有し兩々相俟つて奥羽地方開發の一大關門たるのみならず亦以て北日本海の樞軸となり軍事、商事の上に重要な關係を有するものとす、

■羽越沿岸鐵道 羽越沿岸線は新潟縣新發田より鶴岡酒田本莊を経て秋田に至り奥羽線に連絡するものにて秋田市迄の延長百五十哩七分にて此の全通により京阪青森間は東北線に比し百五十哩を減じ更に信州名古屋等に連絡するを得べし大正四年鐵道院技師最上氏主任として來縣實測調査を修了し大正五年度より秋田市を起點として工事に着手せらるべき豫定なり本線にして一度開通するに至らば鳥海山麓の鐵鑛森林帯及び西海岸各地に包藏せらるる無盡の豊庫爲めに容易に拓開せられ縣利に資

する所蓋し尠少なからざるべきなり。

■陸羽横断線 陸羽横断線に付きては計劃線二あり一は横手驛より黒澤尻を経て北上川を横断し大船渡に出づるもの一は大曲驛より盛岡に達するものにて其の二線の何れたるを問はず東奥羽と西奥羽とを連結し東北地方の開発上最も必要のものとし本縣は之れが速成を切望するや久しかりしが今年二月其の一たる横手黒澤尻間の輕便鐵道案は意外にも貴衆兩院を通過し愈々大正五年度より工事に着手さるることとなりたり本線總經費は七百三十二萬五千圓にて五年度は測量費として約五萬圓を支出さるべし其哩數三十七哩五十鎖にして一哩約十九萬圓を費さるべき工事の至難なるは船川鐵道の一哩僅に三萬圓を要したるに比較すべくもあらざれども其の利益亦甚大なるを豫想すれば本縣の爲めに眞に慶賀に堪へずと云ふべきなり

▲沿道の鑛山 横断線沿道には仙人鐵山、綱取銅山、水澤銅山、赤石銅山、松川銅山、鷲ノ巢金山等を始め數十の鑛山錯在しつ々あるを以て本鐵道の開通によりて此等の利源容易に開發せらるるや必せり。

■治水問題 本縣の重要問題としては如上港灣鐵道の外に三大河川の治水問題の尙前途に横はるるあり縣民は極力之れが速成を切望する所ありしが御物川治水工事は

第一期の確定工事中に編入せられ大正八年度より着手せらるべき豫定たりしが其の年次の水災に基づく損害と土崎港灣との關係上一日も速に起工するを得策として大正五年一月臨時縣會を招集し縣費約百九十二萬圓を之れが爲めに支出するの提案を附議せしが其の年度割に異議あり結極六年度割の修正案を齎らして知事其他の委員上京して當局と接衝し之れを五年度として六年度十五萬圓七年度五十萬圓八年度五十萬圓九年度五十萬圓十年度二十五萬圓支出に決して愈々大正六年度より着手するの運びに至れり御物川治水工事は本流を更に運河によりて新屋濱に流入せしめ土崎港をして土砂の流出を防止せしめ河岸地方の水害を少なからしめんとするにあり之れによりて多大の利益を得るは秋田市と土崎港なるべく殊に土崎港は其の築港工事を新らたにすると共に海港としての面目を保全するを得べし、

▲以上の五問題は本縣多年の宿望たりしが今や殆ど其全部の起工を見るに至れり本縣は今後果して能く此の機關を活用して縣勢の發展を企及し得べきや否や其の責任や亦大なりと云ふべし。

水道及び水力

二三

附、電燈會社の現狀

■水力 本縣の水力は電氣の動力として夙に各鑛山に利用せられ居るの外從來之れを用ふるもの少なりしが近年漸く利用するの氣勢を呈し明治四十年秋田電氣會社の設置となり之れが水源は由利郡上郷村にある烏海山麓小瀧にて本莊町及び秋田市に電燈を供給することとなりしを初めとして續いて増田電燈會社の設立せらるるあり更に河原田電氣會社、矢嶋電氣會社創立せられ外に認可を得たる鹿角郡に於ける秋田水力電氣會社のある等漸次之れが利用に注意するに至れるは一進境と稱すべきも猶未だ顧みられざる水力尠からず就中田澤湖の如きは海拔九百尺周圍三里地層の陥落に依りて成りし凹窪にて水深百餘尺あり其水位を十尺に低下すること容易にして水量は多大の電力を起し其餘水を以て二千餘町歩の耕地を優に灌漑することを得べし要するに本縣は到る所水力に富み企業各種に利用するを得べく本縣の一大富源なり其の著名なるもの左の如し

仙北郡田澤湖、雄勝郡成瀬川、平鹿郡旭川、河邊郡岩見三内川及船岡川、由利郡

白雪川、北秋田郡阿仁川、鹿角郡宮川、山本郡藤琴川、南秋田郡馬場目川、

■秋田市の水道 由來秋田市民の常用する飲用水は井水及び市中を貫流する旭川の河水なりしが河水は舊藩林制の頽廢と共に水量一層減少して時に涸渴することあり又井水に至りては全市を通じて一千有餘の内水質稍佳良にして飲料に適當すべきもの僅に百六十一個に過ぎず故を以て水道敷設計畫を企て縣も亦之れを補助せんとするの舉に出でたりしも竟に機熟せず在苒遷延したりしも偶々奥羽線の敷設と歩兵第十六旅團の設置以來之れが施設を早やからしむるに至れり縣は明治三十八年より毎年金五萬圓宛三ヶ年間補助金を下附し日本勸業銀行亦三十九萬圓餘の貸與を契約するに至れり總工費五十萬圓餘を以て三ヶ年の繼續事業とし國庫の補助を仰がず獨力水道敷設を企て内務省の認可を得て始めて其の工事に着手せり然るに明治三十七年に至り戦局に際し加ふるに諸物價の昂騰に依り且つ秋田市區域擴張の個所に延長すべき配水管等を増大せる等の結果明治四十年に至り之れを五年度に延期變更し豫算額も亦六十六萬九千五百圓に増額を要するに至れり如此秋田市は萬難を排し獨力國費の力を假らず之れを決行したるも爾來水害頻發し水源地及び水道線路破損等の災禍に遭遇し復舊工事等の爲め工費徒に膨大し負擔に堪へざるを以て不得止國庫に補

二三

助を請ひ九萬二千圓の補助を得たるも四十年再び非常の慘害を蒙りたりしのみならず從來の設計に欠如する所あるを發見したる結果其復舊工費十萬餘圓の多額に上りたる等に依り市民の負擔は殆ど其の極度に達し一戸平均五圓九十六錢六厘に當り最早此の必要なる復舊工費を負擔するの餘力なきを以て茲に再び國庫の増額補助を願したり政府に於ても特に秋田市の衷情を諒とし四十三年六月二十日附を以て金七萬圓の補助を下付せられ完成の實を擧ぐるを得たり諸經費前後を通じて實に七十六萬二千八百餘圓内國庫補助十六萬二千圓なりとす、

- ▲縣下電燈瓦斯界 縣下現在に於ける電燈及び瓦斯供給の状態は左の如し、
- 秋田瓦斯株式會社 秋田市茶町菊の丁
- 秋田電氣株式會社 (水力) 秋田市上中城町
- 秋田木材會社電氣部(火力) 山本郡能代港町
- 大館電氣株式會社 (火力) 北秋田郡大館町
- 河原田水力電氣會社(水力) 仙北郡角館町
- 増田水力電氣會社 (水力) 平鹿郡増田町
- 五城目電氣株式會社(火力) 南秋田郡五城目町

- 北浦電氣株式會社 (火力) 南秋田郡北浦町
- 鹿角電氣會社 (火力) 鹿角郡花輪町
- 小坂電氣會社 (火力) 鹿角郡小坂町
- 矢嶋電氣會社 (水力) 由利郡矢嶋町
- 船川電氣株式會社 (火力) 南秋田郡船川町
- 秋田水力電氣會社 (水力) 鹿角郡柴平村

産業の秋田

▲▲▲産業と人 縣下九十萬餘の人間は如何なる業務に従事し居るべきかは産業状態を觀察するに就ての先決問題たり今左に統計的に類別すれば

- ▲農業四二八、五八二 農作業四〇六、〇〇〇 園藝業 一、八七七
- ▲養蠶業 一七、九四〇 林業及狩獵業二、二三二
- ▲牧畜業 五三三、
- ▲漁業一三、七七三

採礦及冶金	二四、六九二	建築	九、八五五	
工業	金屬に係る製造	三、七三七	其他	一七、八一二
	竹木類製造	一〇、二五五	計	六六、三五二
物品販賣	三八、二九六			
商業	旅宿及飲食店	五、〇八〇	計	五一、四四九
	其他	八、〇七三		
公務及自由業	一九、四〇二			
日雇及労働者	六四、四二二			
交通業	五、二八三			
雜業	二二、二二二	無職及職業未詳	二七〇、一九二	
合計	戸數 一三六、〇一三	人口	九四二、六六六	

以上の内農業者は一進一退あれども戸数人口の増加が年毎に著るしけれども漁業者は減少の傾向あり而して最も注意すべきは工業者及び商業者増加の現象なり時代の趨勢と縣民の自覺は漸く此の方面に着目し來れるを知るべし

農業の秋田

▲現在の概要▲農業は本縣産業の要素を占め働きある人員の大部分は農業本位の生活を営みつつあり全縣下戸數十三萬六千餘にて其内約七千二百戸は農業家なり其の人員實に四十萬六千餘を越ゆ而して耕地大約十三萬四千八百町歩にて民有地の三分一弱に當り縣面積の十分一強に當る耕作地は一戸當り一町七六なりとす茲に最も注意すべき現象は年次自作農の減少することにて現在に於ては自作地六萬五千五百六十町餘にて小作地は六萬九千二百五十九町餘なり、

■耕地整理■耕地整理は明治三十四年以來施行し來りて大正三年八月末の調査によれば工事完了せしもの九十一ヶ所總面積一萬二千六百四十六町歩工事中のもの二十ヶ所面積四千六百三十二町餘施行認可中のもの十六ヶ所面積一千四百九十七町餘發起認可中のもの五ヶ所面積百十町餘なるを以て之れを整理前の面積一萬七千五百七十六町と整理後の面積一萬九千二百八十六町とを比較すれば實に二千町の増加なりとす而して本縣は馬産地なるを利用すべく農耕上に用ひ乾田馬耕を奨勵し一方に

は農業經營上至大の關係を有する水源涵養を必要とし明治四十三年之れが調査機關を設け更に植樹獎勵規定等を設けて徐ろに其の經營に資せんとしつつあり、

■開墾 本縣の田畑は僅に總面積の一割強に過ぎずして草萊榛々たる原野は到る處に點在し湖畔若くは河岸の不毛地少からず之れを開拓するに於ては多大の生産地を得るに至るべきを以て縣當局も夙に縣費を支出して其の適地の調査を行ひ又希望者の需に應じ技術上の補助をも爲しつつあり而して其の適地約一萬町歩以上と稱せられ現在に於ては八郎湖畔及び米代河岸の地は最適地と目せられ既に數千町歩の開墾に着手中のものあり其他仙北郡、鹿角郡等にも適地少なからず企業家の奮起と資本家の投資等と相俟つべくんば幾多の耕地期年ならずして増加すべきを信ぜざるべからず、

■米産と検査 米穀は本縣主要の物産にて耕地約十萬町歩産額平均百三十五萬石と稱す時に百五十萬石以上に達することあり隨て其の收穫の豊凶價格の高下は縣經濟の消長に關するや大なり然るに産米の多くは乾燥調製其の宜しきを得ざる爲め貯藏久しきに耐へず往々腐蝕して本來の眞價を減殺するものあるを以て一面堆肥乾田及び稻架實施規則を制定して培養上根本的改善を促がすと同時に輸出米検査規則を制

定して管外輸出する米穀を検査し乾燥粒形調製に依りて品位を定め容量俵装も亦一定の標準に據らしめたる結果容量正確俵装堅固に調製乾燥も亦全きを得て到る處好評を博し毎歳の輸出高三十萬石内外に及ぶ而して其取引は一々現品に依るの勞を省き一片の書束を以て検査等級に依り圓滑に授受せられ信用益々厚きを加へ逐年北海道京阪其他の地方に販路を擴め東京市場に於ては毎次豫想外の好成绩を占むるに至れり又各郡に地主會なるものありて産米の改良に留意し縣は生産米を検査し兩々相俟ちて生産米の改善を企圖しつつあり

▲検査所數 ▼検査支所五 輸出米検査所十一 産米検査出張所一七〇

■肥料 本縣に於ける田地の主なる肥料は山野の雜草を原料とし之れに厩肥を混じたる所謂堆肥にて之れ實に本縣農作の命脈とも言ふべく其手數簡易にして且つ經濟に加ふるに營養分に富める農家必須の肥料なり秋田の米作は一反歩平均一石七斗の少量にて而かも價格の廉なる之れを他府縣より見れば米作は全く利益なきが如くなるも決して否らず其の原因は肥料として最廉價なる堆肥なるを以て其損得相償ふを知らざるべからず然れども堆肥の成分中磷酸少なきを以て肥料として決して十分なりと稱するを得ず本縣が一反歩一石七斗以上の秋取を得んと欲せば尙他に相當の金

肥を加用せざるべからず而して本縣に於ける最近の製造肥料高は約七萬四千貫にて一萬三千七百六十圓餘輸入肥料約五萬五千圓以上なり。

■麥産額 本縣は畑作の利用未だ十分ならず從て麥産額甚だ寡少なり主力を米作に注ぎて畑作を顧みるの違なきが爲めか大正三年度の調査によれば其の作付反別は三千四百九十九町餘にて收穫二萬九百三十六石一段歩當り僅に五斗九升八合に過ぎず

■雜穀産額 粟の作付反別は三千二百二十二町歩餘にて其産額一萬二千九百四十五石平均一反歩當り四斗二合、蕎麥は作付反別一千六百四十一町歩收穫一萬五百五十八石平均一反歩當り六斗四升三合なりとす、而して大豆の作付反別は一萬二千七百九十八町産額七萬六千二十石餘一反歩平均五斗九升三合、小豆作付反別は二千九百四十三町收穫一萬五百七十四石一反歩平均三斗五升九合此等の雜穀は副業的栽培に過ぎざるを以て畑作の改善に執着するの時代來らば尙且つ多量の産額を見るや必せり、

■特用農産物 前掲十種の農産外にして栽培せらるる雜種類は其數擧げて算するを得ざるが故に茲には特用農産物としての數種を掲ぐることにす
▲花百合約一萬八百個 ▲除虫菊二千八百八十八貫 ▲菜種三千三百石 ▲大麻二萬五

千六百八十七貫 ▲苧麻三千三百三貫 ▲葉藍五萬七千七百六十九貫 ▲楮二千二百貫 ▲杞柳六百七十五貫 ▲蘭四萬一千四百五十九貫 ▲芋莖(七嶋)一千五百三十貫 ▲漆樹六萬七千二百九本

■果樹 本縣は氣候概して寒冷なるも夏時は暑熱熾烈にて而も適度の濕氣を含むが故に果樹の生育に好適し鹿角平鹿二郡の如きは夙に苹果を以て聞け京阪地方に輸出して好評を博するに至れり仙北、平鹿、山本諸郡の梨も亦著々好成绩を収めつつあり由利郡本莊方面に於ても近時梨の栽培盛んなり其他葡萄に櫻桃に一般園藝思想の普及を來し各地競うて改良植栽に従ふの趨向あり將來農家の副業として頗る有望の事業たるは一般の認むる所となり山本郡の如きは園藝學校の設立を唱道しつつあり現在の果物年額約三十五萬圓以上に達す其中最も多額なるは苹果なりとす元來本縣の特産たる苹果は明治九年本縣より特に柿及梨と共に其の苗木を各郡に配付したるに始まり最も早く發達したるは鹿角郡にて其後一時中絶の有様なりしも明治十九年花輪町佐藤陽之助なるもの盛岡地方より苹果苗四百本を購入栽培したるに結果良好にて大に見るべきものあり其後幾多の變遷を経て今日の隆盛を見るに至れるなり

■蔬菜類と花卉 本縣の蔬菜は多く在來種のみにて其種類一定せざりしが近年來畑

作の利用方法頻りに研究せられて各郡に於ける蔬菜改善の著るしく山本郡の西洋蔬菜の如きは東京地方に輸出しつつある程の進歩を來せり重なる蔬菜は漬菜、甘藍、葱、馬鈴薯、蘿蔔、午麥、里芋、蕪菁、甘藷、茄子、南瓜、西瓜、甜瓜、玉葱等に於て年産約二百萬圓を越ゆべし、花卉栽培奨励の爲め明治四十三年秋田市進藤久馬翁をして之れが模範園を擔當せしめ西洋種及び日本種の草花を栽培せしめしが爾後花卉愛好の風一般に馴致され近くは新屋町大嶋氏松壽園を設立して花卉の温床栽培に成功して冬期秋田市場に芳芬の香を漂はさしめつつあり、

■**薬工品** 本縣農家の副業として薬工品の製造額は決して僅少なりと云ふを得ず現時の製造戸数は約二萬三千三百七十戸にて年産三十六萬四千二百九十八圓重なる需用地は北海道なり原料を選択し製品の統一を圖り之れが生産品は共同販賣の方法を用ひて縣外輸出を圖らば年産約百萬圓以上に達するや容易なり、

蠶業の秋田

■**蠶業の發達** 本縣の養蠶及び生絲は今を距る一百三十年前即ち安永九年藩主佐竹

義敦の時に方り奥州伊達の入石川瀧右衛門來りて開發奨掖に勉めたるに創まり一時盛況を呈し殊に明治の初年一時伊國に蠶種を直輸し其の一年の輸出額八萬四千圓に上るの盛況を見るに至りしが爾來漸次全國に涉り粗製濫造の弊を生じ加ふるに佛人「バストール」氏の微粒子病驅除豫防の方法を發見せるに依り輸出の途殆ど絶ゆるに至るや業勢頓に大頓挫を來して當局の奨励も其効を奏せざりしが近時漸く自覺的に進歩し來り現在に於ける桑園反別五千四百八十七町歩餘にて桑葉收穫約五百四十七萬三千貫價格四十八萬六千六百六十圓餘此他に本縣は天然生の山桑到る處にあり就中北秋田郡、山本郡、南秋田郡、河邊郡、由利郡の六郡最も多しとす初期の養蠶經營者は多く之れを利用して斯業啓發に資せり

■**稚蠶共同飼育** 本縣は天與の養蠶地として發展の餘地綽々盡さざるが故に其の發展を企圖するに於ては縣下の産繭十萬石以上とする敢て難きにあらざるなり之れが爲め明治三十九年より稚蠶共同飼育所を各郡市を通じて百八十ヶ所に設立して改善の實を擧げんことを企て更に製絲屑物傳習所及び殺蛹乾繭場の設置繭生絲の共同販賣を奨励して斯業の發展に資せんとしつつあり而して郡の經營に係る講習所は現在に於ては北秋田、南秋田、河邊、平鹿の四ヶ所に在るの外郡立學校としては雄勝郡

と北秋田郡とに各々一校宛を有せり、

■秋田式栽桑 秋田式と稱するは一種の高刈法にて春切夏切の二法を用ひ桑樹の完成迄六ヶ年以上を要するを普通とす而して其起元を索ぬるに元來本縣の栽桑は積雪深く根刈中刈仕立の如きは其成育不良加ふるに凍傷を受くる事尠なからざるより専ら一般の喬木仕立(仕通とも云ふ)とも云ふに依りしが弘化三年(距今七十年前)平鹿郡増田町故安倍五郎兵衛なるもの積雪の爲め桑樹の損傷を被りしより偶然春切法の發見をなし又安政二年(距今六十年前)同町松川久左衛門の赤銹病を防止せんとするより發見せるものは夏切法なり秋田式として稱揚せらるるは斯の兩法を併用し栽桑をなすものにして其後漸次研究改良せられ秋田式の名天下に高し其仕立法は初め三芽を存する位に切り詰めたる苗木を植付け其の中生育良好なるもの一本を存じ翌(二年目)春彼岸前三四尺の長さの長さに切り詰め之れに三枚を鼎立に残存し翌三年目に彼岸前に二尺前後に各枝の切り詰めをなし均しく一枝に三芽を残存し斯くの如くすること五年目に至りて止め枝數八十一本となるに至る更に六年目に至り夏切(春蠶四五齡の頃剪枝するを云ふ)を行ふ其の方法は前年の伸長せる梢を根切仕立の如く八分乃至一寸の處より切り取るものとす、而して現在に於ける桑の栽附反別五千四百

八十七町歩にて秋田式反別三千七百二十五町餘其他は立通及び根刈方法によるものにて秋田式は一反歩當桑葉收穫量百六圓とすれば立通は八十九圓根刈は七十六圓なり以て秋田式の優良なるを知るべきなり、

■繭絲產額其他 大正二年度の調査によれば全縣に於ける掃立數は二萬五千三百六十七枚にて収繭量二萬三千八百八十九石價格約九十五萬二千九百九十八圓にて内春蠶約七十五萬四千五百五十九圓夏蠶三萬一千八百七十一圓秋蠶十六萬六千五百六十八圓なりとす、而して製絲戶數約九千九百三十六戶製絲五十二萬九千九百九十六圓眞綿戶數五千四百十五戶にて數量五萬四千三百九圓蠶種戶數百五戶普通製七千六枚框製百六十二萬三千二百二十三蛾なりとす、

畜産の秋田

——家禽飼養の現況——

■產馬 本縣に於ける馬匹の總數は約六萬三千頭餘にて外國種約四百八十頭餘雜種二萬七千六百六十頭餘一年の產駒は約一萬二千頭を超え古來馬匹の產地として夙に

駿逸を出すを以て名あり蓋人皇四十二代文武天皇の朝に胚胎し爾來幾多の星霜を經過し現今の素質を形成せるものにて到る處蒔草に富み放牧の適地亦少なからず現時放牧地として用ふる面積約六萬町步にして將來耕牧林の區劃を立て林野の整理を行ふ時は猶其の面積を増加すべし而して此等の生産地は各郡に分布せらるるも就中仙北、北秋田、由利の三郡は古來より良駒を産出し又雄勝、平鹿、仙北の三郡は育成地として其名高し而して本縣の産馬は輓馬に適合すべき性格を備ふるもの多きを以て政府は切に輓馬の生産を以て産馬獎勵の方針となし本縣も亦此の趣旨に則り明治三十二年以降毎年約一萬五千圓を投じて「ハクニー」「アングロノルマン」「ベルシユロン」種等を外國より輸入し又内地産の洋種及雜種を購入して之れを貸附し以て斯業の改良に資し逐年其の成績を發現せり而も從來産馬の販路は軍馬補充部、馬政局山形、新潟、長野、富山縣等なりしが近年關東地方及廣嶋、岡山、熊本等の諸縣に輓馬或は種馬として販路を開らくに至れり、特に軍馬の購買は明治十二年以來繼續する所にて就中平鹿郡、横手町は購買地として最も古く且つ盛にして毎回の出場頭數五百頭乃至一千頭に達す加之明治四十年以來管内二歳駒糶場に於て幼駒の購買を開設せられしより産馬改良の效果著るし一層輓馬の聲價を高めつつあり

▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲
▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲
■產牛及羊豚 本縣古來産馬は農家一般の副業として普く之れが飼育をなせるも畜牛は單に鑛山附近及び山間の坂路峻險にして馬匹の使用に適せざる地方に限り主として貨物運搬の爲めに之れを飼養したるに過ぎず輓近生活狀態の變遷は牛乳及牛肉の需用を増加し加ふるに飼養者の利益馬よりも比較的多きが爲め逐年之れを飼養する者多きを加ふるの傾向あり而して其の種類は「ホルスタイン」及雜種最も多く短角種之れに次ぎ「エアシャ」「ブラウンキス」「シメンタール」の系統に屬するもの未だ少し就中骨格性能の優秀なるものは「ホルスタイン」種系統に屬するもの多きを占む現在牛の産地として數ふべきは鹿角郡一圓及南秋田、河邊、仙北、雄勝各郡の一部なりとす縣は將來産牛改良の基礎を確立すると同時に牧野の嶮夷と飼料供給の難易に稽へ地區を限りて獎勵し又當業者に對しては飼養管理は勿論搾乳及製乳の方法を實地的に指導し酪農製造の普及を圖らんとし明治四十三年南秋田郡寺内村將軍野に地を卜し種畜場を設置し年々種牝牛を購入し以て種類の改善を圖りつつありしが縣經濟の狀態より大正五年度より種畜場を民營に移すこととせり現在牛の總數は一萬餘頭にて生産數は年次二千五百頭より三千頭の間であり、羊豚飼養は未だ縣下に普及せず頭數一千頭を超わず大正二年の生産約八百頭に出でざるを遺憾とす、

▲家禽 家禽の飼養は農家の副業として極めて有利の事業なるを以て本縣にては明治二十五年前後に於て一時世の流行に伴ひ各所に多數の飼育を試みるものありしが當時は一般に飼育上の智識に乏しく加ふるに其種類の選擇を誤まり且飼養者の多くは機械的に出でたるより概ね失敗に歸したりしが日露戦役後當局の奨励と相俟て縣下一般に家禽飼養の傾向を呈したり種類鶏及び鶩類にて年産二十五萬六千四百九十餘圓産卵價格三十三萬八千四百十八圓を算す、

縣農會と山林會

▲縣農會の事業 本縣農會の創立は明治二十八年一月にて其後三十三年二月農會令發布の結果として組織を變更し系統的農會とし現在は秋田市西根小屋町に其の事務所あり而して大正五年度に於ける事業の豫定は左の如し、

▲普通農事の奨励 ▲採種畑の設置 ▲模範畑の設置 ▲町村農會技術員の養成 ▲農事調査 ▲農産物販路調査 ▲農事視察費の派遣 ▲種苗交換會の開催 ▲町村農會水稲立毛品評會の奨励 ▲家禽の奨励 ▲産業組合の奨励 ▲農會倉庫の奨励 ▲郡農會の

職員設置奨励 ▲會報發行

▲秋田縣山林會 本縣林業の改善發達を圖るを目的として創立せられたるものにて事務所は秋田縣廳内にあり而して本會の事業豫定は左の如し、

▲林業に關する試験及調査をなすこと ▲林業に關する有益なる發明起業又は設計調査に對し補助奨励をなすこと ▲森林種苗の紹介を爲すこと ▲模範苗圃を設置し其養成苗木を以て會員其他の需用に應ずること ▲縣下林産物の販路擴張を圖ること ▲森林組合及産業組合の設置を奨励すること ▲林業に關する共進會品評會開催及同會施設に對し擔當經費の補助を爲すこと ▲林業の視察及調査並に實地指導に關すること ▲前項に對し經費の補助を爲すこと ▲林業上特に功勞ある者を表彰すること ▲林業講話及び講習會を開設すること ▲林業に關する有益なる事項を編纂し會報を發刊すること ▲林業に關し官廳の諮問に答へ及意見を開申すること ▲會員の質疑に應答すること ▲其他林業の改良發達に關する一切の事項



林産の秋田

四〇

■森林 ▲日本三大美林の一として古來其名を知られたる秋田の森林は面積約九十萬町歩林木の蓄積一億數千萬尺（内杉材六千萬尺）其の多くは國有に屬し民有林の蓄積は僅に二千百餘萬尺に過ぎず而して所謂秋田杉の分布は概ね北半部に限られ南半部の多くは潤葉樹林なり北部に於ける針葉樹林中著名なるは米代川沿岸地方に於けるものにて其上流鹿角、仙北郡界の附近は白檜を以て山頂を埋め下流北秋田郡十二所町の對岸に至りては老杉鬱鬱千數百町歩の廣きに亘り有名なる長木澤の國有林は長木川の水源に在りて九千餘町歩の單純林を形成し材色艶美品質優秀を以て世に知らるる毎年の斫伐額は十二萬五千尺の多きを算し大館驛より鐵道を敷設し奥羽線に連絡せり其他北秋田郡に於ける下内川、岩瀬川、早口川、犀川、小阿仁川、日景川及び山本郡に於ける藤琴等の流域に於ても亦蔚然たる杉の純林、白檜林、杉羅漢柏混淆林若くは杉羅混淆林を形成し殊に男鹿山國有林の如きは樹幹鑽立の狀壯觀を極め材質優美を以て名あり又南部に於ける針葉樹林は仙北郡田澤湖の附近、岩

手縣界河邊郡岩見川の水源南秋田郡旭川の上流等に於ける杉の純林、杉羅漢柏混淆林及杉羅混淆林にて潤葉樹林は由利郡子吉川の上流烏海山、御物川の上流宮城、岩手縣界等に於ける雜木林（多少羅漢柏を交ゆ）及び中央山脈地方即ち鹿角仙北郡界より河邊、南秋田郡界に亘れる十萬町歩の大雜木林を始め隨處に鬱蒼たる林相を呈し北部に於ても又地勢其他の關係より潤葉樹林を有するものあり即ち十和田湖附近に於ける大湯國有林を始めとし北秋田郡岩瀬川、早口川及び山本郡藤琴川の上流の如き遠く縣界に亘りて一大蓄積を有せり、而して林産の年額約五百萬圓を下らず前途益々増加の盛況を呈しつつあり、

■製材 ▲秋田杉の需用年と共に多きを加へ製材を業とするもの東洋一と稱せらるる秋田木材株式會社を始め各處に起れり秋田木材會社本支店及び淺野製材所に於ける一箇年の原料需用高は五十四萬尺を算し官營製材所に於ける一ヶ年の使用高十五萬尺を加ふれば實に六十九萬尺に達す其他二十餘ヶ所の私營製材所に於て使用する高も亦少なからず林産年額中最も多きを占むるものは挽材にして丸太角材之れに次く製材所の重なるものは米代河畔に於ける秋田木材株式會社能代挽材工場、淺野製材所其他御雄物河畔に幾多の挽材工場あり最近大正三年度に於ける林産物の數

字を左に掲記して斯業の状態を知るの参考とすべきか、

▲丸太及角材七四、六七八九圓▲挽材及板類二二二、一四八九圓▲枕木四〇〇〇圓
▲樽木一三、一一六九圓▲寸甫七七七五圓▲桎木羽八、四一九六圓▲長木羽二三四
五圓▲箱用材二、六二一四圓▲下駄材二、二六四九圓▲木炭七二、六二二一圓▲薪
材二〇、四六八〇圓▲椎茸四四八六圓▲石類五、〇九二四圓▲自然蔬菜三、六八一
四圓▲其他九、五七七六圓▲苗木一、三四二七圓▲種子一、七〇〇圓

■漆樹 本縣の漆樹は其由來する處久し舊記によれば元祿年間の頃より大に漆樹の栽培を奨励せしが當時は主として點燈用たる蠟の採取にあり然るに蠟の需用年々増加し濫採の結果大に其の供給を減じたるより嚴重なる取締法を設けたり然れども苗木養成に依りて植栽奨励の方法を講せざりし爲め需用に對する供給年々不足を告げ文化の初年には欠乏其極に達したり當時雄勝郡川連村の肝煎關喜内なるもの斯業の發展に就き時の郡奉行に献策する所あり遂に藩の經營を促がし産物方なる勸業役所を設け之れが苗木の養成及植栽奨励等の方法を示し同人自ら其の苗木を養成して雄勝、仙北、平鹿地方に無代分配せり藩に於ても又其の苗木を徴して仙北其他遠隔の地方に配付し盛に奨励せり文政の頃より二代目喜内は父の志を繼ぎ一層の熱心と精

勵により大に産額を増し嘉永年間に至り從來の嚴格なる取締を解き他藩の者と雖も漆樹取輸出を許すに至れり本縣に眞木漆と稱する良質なる漆の存在するは同人及藩吏等が藩命を奉じて弘化年間羽前國置賜郡米澤地方に赴き老農植木四郎兵衛氏に就き眞木漆の栽培法及其の取扱方等の傳習を受け得る所あり歸來之れが苗木を仕立てて藩内に配付したるに始まると云ふ然るに十數年前より濫伐の結果漸く不振の状態に在るを遺憾とし本縣に於ては明治四十年頃より漆及び樺、白楊、栗、胡桃、厚朴等の特殊樹木繁殖せしむるの企劃を立て苗圃を雄勝郡稻庭町及北秋田郡七日市に設置し苗木を各郡に配付せしを以て數年の後には之れ等の林相を見るに至るべし、■雜木の利用 本縣は由來杉の美林を以て名聲宇内に噴々たるのみならず百萬町以上の大森林中最多量の蓄積は實に山毛櫨を主とせる雜木濶葉樹にて之れを工藝的用途に利用する時は其森林収益を開發する勝けて算ふべからず森林中には山毛櫨の外ミヅナラ、ホホノキ、トチ、イタヤ、シホヂ、センノキ、サハグルミ、ケヤキ、クルミ、サクラ、カツラ、ドロ等を多く産し燃料及工藝用材として海外輸出の望みあり雄勝郡に於ては從來僅に漆器の素地に利用しつつありしが秋田木工會社を組織し曲木細工品を製出し又鹿角、山本、仙北、雄勝の各郡に轆轤細工を開始するに至れ

り最近に於て由郡鳥海山麓の山毛樺帯を利用すべく新潟縣人某工場を設置して下駄
齒製作に従事せるよしなれども此等雜木は歐洲に於ける利用法に鑑み裝飾用として
各種工藝用材とせんには本縣産業經濟の發展に資益する處多大なるべきも縣民は尙
未だ此點に深く意を致さざるを遺憾とせざるべからず、

鑛山の秋田

■鑛床の分布 本縣の鑛床は分布頗る豊富にして地積の約三割を占むる石英粗面
岩、英閃安山岩其他の火山岩は殆ど鑛業用地たるの觀あり其鑛種は金、銀、銅、鉛
を主として金屬鑛物の産實に天下に冠絶す就中小坂鑛山は其設備に於て又産額に於
て東洋の巨擘と稱せらる又第三紀層には石油土瀝青を包藏し且つ石炭即ち無烟炭を
産し温泉地方には硫黄を産す鑛産の種類は金、銀、銅、鉛、鉛、硫黄、滿俺、石炭
石油、土瀝青等にて金、銀、銅、鉛は中央山脈に沿へる鹿角、北秋田、仙北、雄勝
に多く石油脈は南秋田、河邊、由利の海岸を通過し一脈岐れて仙北郡角館方面に達
す鐵は鳥海山仙人峠附近に石炭は北秋田、山本に砂金は北秋田方面に多し其の鑛區

數管内を通じて試掘三百十四採掘二百三十四其の坪數試掘一億二千二百二十四萬八千
百九十坪餘採掘坪數五千二百四萬七千八百七十九坪にて鑛産年額一千五百萬圓を超
ゆ左に主要鑛山大正四年の鑛産額を掲記せんに金のみにて約二百貫に達するの盛況
を呈す、

尾去澤小真木	松	椿	小	坂
銀	金	銅	銀	金
二二三、二八三匁	五九二、三八一匁	八八、二六四斤	四七、七三四匁	六、五四三、二六五匁
四、〇二七匁	二八八、七七〇斤	一二五、七五三匁	二、四八八匁	一二、四九〇、四九八斤
		四三八、二四五匁		

赤	荒	太	阿	花	田	日	
倉	川	良	仁	岡	子	三	
硫	銅	銀	銅	銀	金	銅	銀
黃			金	銅	銀	金	金
							一
							銅
							三、〇二八、三三七斤
							一九六、八九〇斤
							八八一、三八一斤
							七、九七九斤
							六四、一六二斤
							四、一二二斤
							二二、〇一九斤
							九九一、七七八斤
							一、四〇六斤
							五〇四、八四七斤
							二、二一六、四四七斤
							一四八、五四九斤
							一、三八一、九九三斤
							五、二四六、六八〇斤

石油事業の發展

——世界的聲價高し——

黒川一萬石の噴油ありし以來秋田の石油事業は世界的の聲價を縦にするに至れり元來本縣の石油脈は南秋田、山本、河邊、由利、仙北の各郡に亘りて存在し其の區域甚だ廣し其の掘鑿に付ては維新前より種々の計畫ありて今日に及べるものなるが其後巨智部博士の實査に依れば油脈豊富にして其質亦良好なるを以て明治三十四年本縣に於て秋田石油調査會なるものを組織し資金を醗集して調査に従事し縣は之れに對して一切の器械を貸付し調査を進行したりしが四十一年に至り其の事業を日本石油株式會社及び寶田石油會社に委託し若くは相計り試掘を爲さしむることせり其主なるものは南秋田郡旭川村、金足村、寺内村及び由利郡院内村にて年産約三百萬圓以上なるべしと稱す、而して明治四十年に於て探掘坪數百七十萬九千坪試掘坪數九十四萬四千坪なりしが黒川一萬石噴油以來縣人の石油熱昂騰し大正五年一月現在に於て探掘百九十九萬六千坪試掘八千三百九十三萬二千坪に増加し最近に於て秋田石油鑛業會社は新に二百萬圓の資本を以て組織せられ由利郡平澤方面の鑛區に對す

る五十萬圓の石油會社更に勃興するに至れり本邦に於ける石油需用量は一年約七百萬箱に達し内四百萬箱は外油に俟ち爾餘三百萬箱は外油に俟つの實勢なるが國內産油力の最も盛大なるは勿論越後にして約三百萬箱秋田は之れに亞ぎ百二十萬箱を産する割合なり而して近時石油の暴騰に連れ日本石油會社の土崎製油所は日々四十車以上を輸送しつつありて大正四年度中各地に發送せる油量は實に七十萬石の多きに上りたりと云ふ、

■石炭 豊筑及常磐の石炭産地と其成生を同うする地層は本縣全面積の四割以上に及ぶ而かも開坑の氣勢揚らざるは一般金屬鑛熱石油熱の盛なると石炭の露頭少なきが爲め世人の之れを知らざるに因る然れども現に開掘しつつある北秋田郡七日市及び森吉炭山の如きは固定炭素の量三割内外より七割以上に及び氣發分は四分より二割を超ゆ又灰分は一割内外より五割に達するも一般に硫黄分少なく萬分の三より千分の五を示し且骸炭粘結せずして灰色淡褐色又は赤褐色なり最新の學理を應用し低利の資本を利用し經營宜しきを得ば將來矚目すべき有望の事業たるを信す、

■土瀝青(アスファルト) 本邦に於て土瀝青を産するは獨り本縣のみ日本唯一の名ある素より當然とす而して其所在地は南秋田郡豊川村及大久保停車場附近を中心と

して山本郡、由利郡に亘り且つ其の所在地地表より深からざるを以て採掘最容易なり唯採鑛の土砂草根との夾雜を含めるものあるを以て之れを精製して塗料及び舗料に供用す現時の採掘額は二萬圓内外なり、

■重要鑛山の所在地 今左に如上鑛山の所在地並びに鑛種の概要を掲ぐべし、

- ▲小坂鑛山 (鹿角郡小坂村) 金、銀、銅、鉛
- ▲尾去澤鑛山 (鹿角郡尾去澤村) 金、銀、銅、鉛、亞鉛鑛、鉛鑛
- ▲小眞木鑛山 (鹿角郡柴平村) 銅鑛
- ▲四角鑛山 (鹿角郡柴平村) 銅鑛
- ▲不老倉鐵山 (鹿角郡柴平村、大湯村) 銅、銅鑛
- ▲土深井鑛山 (鹿角郡錦木村) 銀鑛、銅鑛
- ▲鵝鑛山 (鹿角郡七瀧村) 銀、銅、亞鉛
- ▲阿仁鑛山 (北秋田郡阿仁合町荒瀨村) 銀、銅
- ▲赤倉鑛山 (北秋田郡山瀨村) 硫黄
- ▲花岡鑛山 (北秋田郡花岡村釋迦内村) 金、銀、銅
- ▲立又鑛山 (北秋田郡西館村) 銀、銅鑛
- ▲烏坂鑛山 (北秋田郡荒瀨村) 石炭塊炭

- ▲太良 鑛山 (山本郡藤琴村) 銀、鉛、亞鉛、銀銅鑛
- ▲水澤 鑛山 (山本郡澤目村) 金、銀、銅、金銀銅鑛
- ▲八盛 鑛山 (山本郡八森村) 金、銀、銅
- ▲旭川 鑛區 (南秋田郡旭川村) 石油
- ▲黒川 鑛區 (南秋田郡金足村、豊川村) 石油
- ▲豊川 鑛區 (南秋田郡金足村、豊川村) 石油
- ▲眞形尻 鑛區 (南秋田郡豊川村) 土瀝青、原油
- ▲槻木土瀝山 (南秋田郡豊川村) 土瀝青、原油
- ▲荒川 鑛山 (仙北郡荒川村) 銅、銅鑛
- ▲杉澤 鑛山 (仙北郡土川村) 金、銀、銅
- ▲松葉 鑛山 (仙北郡檜木内村) 亞鉛鑛
- ▲駒木澤 鑛山 (仙北郡檜木内村) 銅鑛
- ▲日三市 鑛山 (仙北郡雲澤村、中川村) 金、銀、銅
- ▲坊澤 鑛山 (仙北郡雲澤村、中川村) 金、金鑛
- ▲川口 鑛山 (仙北郡長信田村) 銅鑛

- ▲院内 鑛山 (雄勝郡院内町) 金、銀、鑛
- ▲田子内 鑛山 (雄勝郡東成瀬村) 金、銀
- ▲増田 鑛山 (雄勝郡西瀬村) 金、銀、銅
- ▲川原毛 鑛山 (雄勝郡須川村) 硫黃
- ▲松岡 鑛山 (雄勝郡山田村、西馬音内町) 金、銀、銅

水産の秋田

▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲
水産の概況 本縣は西方一帯日本海に面し南由利郡上濱村より北山本郡岩館村に至る沿岸約七十餘里其間漁村三十一漁戸六千戸以上あり概ね砂濱にて男鹿半嶋の中央に突出せる外屈曲少なし海上は四月より八月迄は靜穩なれども九、十月に至れば西北の風多く十一月より翌年二月頃迄は西風猛烈にて白浪泡沫を飛ばし激浪海岸に咆哮す故に海面漁業の最盛なるは夏期及び秋期にして冬期は殆ど休業の態にあり、潮流は寒暖二流ありて暖流は對馬海峡より佐渡近海を経て北流し寒流は遠く「オコツク」海より來りて北海道の西部を洗ひ順次本縣の沿岸に達す隨て回游魚族の種類

も一樣ならず水深は一帶に遠淺にて由利、河邊、山本の沿海は七八哩の沖合に出づるも尙三四十尋内外に過ぎず唯男鹿嶋の附近は著るしく深度を加へ沿岸と雖十五六尋に及び諸所暗礁の屹立するあり、水産物の重なるものは海面に於ては鱒を主とし鯖、鯛、鱈、鱈、鮭、鮠、鰻、鰯、鮪等にて介類亦相當の漁獲あり河川湖沼にありては鮭を主とし鱒、鰻、公魚、鮒、八ツ目、鮎、水藻等を産す其産額は年々豊凶ありて一樣ならずと雖も最近の統計によれば漁獲物年産五十五萬圓製造品其他の副産物并びに縣外出稼漁獲總額を合算する時は約百三十萬に達す然れども海岸線の長きに比すれば約年産六十萬圓の漁利眞に僅少なりと云ふべく殊に近年回游魚族の減少を見るに至りたるを以て本縣水産試験場は明治三十九年以來漁業の試験并びに調査を繼續して營業者の指導獎勵に努めたる結果鮪流し網大謀網の業大に進み年々多數の漁獲あり又漁船の改善沖合漁業及び淡水漁業の獎勵着々効を奏しつつあるを以て漸次其の成績を見るに至るや必せり、

■十和田湖の養魚 十和田湖は鹿角郡の北部にありて青森縣に界し周圍凡そ十二里本縣第二の大湖にて奇石怪岩各所に屹立し山容水態稀見の絶勝たり風光既に一世に喧傳し「和井内鱒」の名聲之れと共に高きに至りしも古來魚族を産せず千有餘年利用

の道なく空く放抛せられたりしが同郡毛馬内町の篤志家和井内貞行氏夙に之れが利用に心を潜め苦心慘愴の結果湖水の下流子の口河口の瀑布を開鑿して魚道を通じ明治十七年以來年々鯉、鮒、公魚等を放流し明治三十四年に至り鮪(カバチツボ)の成績良好なるを認め傳習生を日光養殖場及水産講習所等に派し尋て鮪卵を日光養殖場及北海道より購入放流し苦辛經營連年放流の結果愈好成績を得三十八年始めて人工孵化場を湖邊に設け爾來益々事業を擴張し今や和井内養殖場の名天下に喧稱せられ年々漁獲高二萬尾卵子の分與額千萬粒に上るの天下無比の好養殖場なり近來外國人の此地に來り遊ぶもの甚だ多く鮪の需要並に卵子の販路日に月に愈々盛なるに至れり、

■留意すべき出稼漁業 本縣の漁利は如上僅少なり約六十萬圓を漁戸に割當つれば一戸平均百圓内外に過ぎず之れを農業一戸當り四百圓以上なるに比すれば其差實に大なりと云はざるべからず茲に於てか彼等漁民は近海の漁業に安んずるを得ず遠く北海道及び樺太露領に向つて出漁の冒險を犯さざるべからず而して年々出漁の漁民大約二萬人内外にして漁利約七十萬圓を得るも適當なる漁業の根據地を有せざるが爲めに其大半は資金に控除せられ純利割合ひに少なきを遺憾とせざるべからず本縣

は近海漁業の改善を企及すると共に養殖方面に注意を拂ひ更に適當なる出漁漁場を北海道樺太方面に獲得する用意なくんば水産界の運命を新らたならしむるや至難なりと云はざるべからず、

工業の秋田

■工業の大勢 縣下工業の大勢は漸次進歩の状態にあれども時代的の設備研究未だ全く十分ならず其の生産額と雖も農産の約六分一に過ぎざるが如し而して工場と稱すべきもの八十七にして製品価格一千四百四十八萬と稱すれども鑛業に屬する工場製品価格を控除する時は約四百五十萬圓にして一會社の年産僅に六萬圓を算するに過ぎず新企劃を實行するの餘地尙多々ありと云ふべし

■織物 本縣在來の織物は絹織にありては秋田畝織、秋田八丈を最とす、綿織は横手地方龜田地方に産す、秋田畝織秋田八丈の起源は遠く藩政時代に在り殊に秋田八丈は縣内産出の蠶絲を原料とし特産玫瑰根を主要の染料として染織するにより一種温雅の特徴を保持して中央市場に販路を有す、又畝織は主として東北地方の紋服地に需

用せられ其名四隣に高し其他紫蘇織と稱する新製品あり紫蘇の綿毛を採りて之れを紡き綿を交へたる太織にて被布又は單衣地に適す價格頗る廉なり由利郡龜田町の人佐藤雄次郎氏之れを發明す産額未だ僅少なれども將來有望の産物たるを疑はず近時臺灣滿洲朝鮮地方より多大の注文ありと云ふ、綿織物は横手地方のみならず大館地方其他の各郡にも漸次産するに至れり然れども年産約八十七萬圓内外にて縣内需用の十分の一に足らざるを以て生産の増加織製の改良を企圖すべく機臺機具に補助をなす等當局は専ら奨励に努め大正二年度より染織試験場を設置して之れが發達を圖りつつあるも歐洲戰亂の結果近時頗る不振の状態に在り、

■有望なる清酒 本縣の産米は其品質精良にして醸造資料に適し且つ冬季は空氣清純にて温度の變化少なく酒の醸造に適するを以て夙に淳良の清酒を産す就中雄勝郡湯澤、平鹿郡増田及び由利郡矢嶋、鹿角郡花輪地方の清酒は色澤香味共に優良なるも從來縣外に輸出すること少なく爲めに久しく中央市場の認識する所とならざりしが、近來博覽會共進會等に出品して屢々一等賞を得たるより聲價頓に加はり漸次需用を増加するに至れり毎年の産額約七萬石製造戸數百四十戸以上なるも販路の擴張に伴ひ逐年増加の趨向を示し今や醸造地として東北第一と稱せらるゝに至れり

■金銀細工 本縣は鑛山に富み金、銀、銅の産出極めて豊富なるを以て金工製作業の之れに伴ふは自然の理なり而して其の中最も著名なるは銀細工なりとす、銀細工は秋田市の特産物にて地銀の純良なる他に其類を見ず舊藩時代に於ては僅に封内の需用を充たすに過ぎざりしが今や東京、青森、仙臺、北海道に其の販路を擴張するに至り需用の増加に隨ひ技術亦大に進み漸次精巧なる工藝品を出すに至りしを以て近年に至り宮内省の御用命を拜するに至れり尙意匠彫刻其他圖案等の改善に就ては年々講習會を開らき又は實習生を東京其他に派遣する等之れが啓發に怠らず而して年々の産額は二十萬圓内外なり。

■銅器鐵器 銅器は近來の製出に係り産額未だ少なきも原料と製作の佳良とは漸次世に紹介せられ年産約六萬圓以上なり鐵器の主なる製品は重に鐵瓶類にて秋田市及び南秋田郡五城目町并に秋田市に産す其の起原は遠く三百年前佐竹義宣公の秋田に遷封せらるゝの際舊領水戸より隨從して秋田に移住せる天明某なるもの之れを製作したるに濫觴す從來は普通の日用品たる鍋釜の類に過ぎざりしが近來に至り京都又は南部其他の製品の長所に倣ひて製出し技術大に進み形狀溫雅大に見るべきものあり價格亦低廉にして漸次四方の賞賛を博し今や南部と頡頏するの勢を呈するに至れり

り販路は重に縣内及び北海道なりとす此他に由利郡長岡産の鉄の如きは一種の特長を有し從來大に世の歡迎する處たり年産約二十萬圓内外にて將來有望なる特産物なりとす。

■漆器 能代春慶は山本郡能代港町石郷岡庄壽郎の一家相傳に係る漆器にして七世の祖が十數年間苦心慘愴案出せるものなりと云ふ素地を長木澤の良材に採り乾室に放置すること約二年にして漆を施す漆は縣産の精良なるものを選び下塗より仕上げ迄二十四回乃至二十七回而して其の製品は二年若くは三年間之れを貯藏し後ち始めて市場に販出す其の色合は一種不可言の雅致を有し滿面一點の纖塵を止めず色澤一様にて濃淡なく精妙實に神に入る然れども價格不廉にして需用の範圍廣からざる爲め其の産額は一萬六千圓内外に過ぎず、亦角館春慶は仙北郡角館町の産物にて能代春慶に模擬せるものなれども廉價にして實用に適するを以て販路次第に擴張されつつあり

而して川連漆器は雄勝郡川連村の産物にて隣村三梨村に及べり起原は今を距る三百年前にて文化文政の頃に至り漸く盛大に赴き爾來多少の盛衰ありしが嘉永年間に於て更に發展し以て今日に及べり従業戸數約二百六戸職工六百人を超ゆ素地は此地方

に豊富なる山毛櫨を用ひ製品は主に總輪膳、揃ひ椀、重箱、硯箱及角盆の類なり特色は塗方の堅固にて剝落の虞なく久しきに耐ふるの點にあり近來技術大に進み蒔繪も亦見るべきものあり殊に沈金は其の得意とする所にて美術的製品少なからず年産額十五萬圓以上に達す、

其他北秋田郡大館町にも漆器あり川連の如くならざるも廉價を以て名あり殊に同地名産の「曲ワツバ」及び之れを利用する松皮盆の如き高尚のものにあらざるも實際の需用甚だ多し、而して本縣漆器の年産總額二十萬圓以上なりとす。

■**樺細工** 本縣の特産たる樺細工製作は北秋田郡阿仁に創まる寛政年中仙北郡角館町の士族藤村傳六氏なるもの之れが傳習を受け士族の内職に之れを普及せしめたるものなり而して其の製法は櫻の老樹皮を精選琢磨して優麗愛すべき光澤を發せしめ之れを重ねて壓搾し又は木質等を以て内心を作り之れを貼付せるものにて雅致掬すべきあり其の製品は從來印籠形煙草入、煙管差等主として價格の低廉なるもののみなりしも時勢の進運に伴ひ顧客の需用並昔日の状態に甘んずるを許さず之れが改良に苦心したる結果近時需用頓に増加し他府縣に輸出するもの極めて多し就中煙草入の如き氣候の乾濕變遷に遭遇するも煙草の變質を來さざる特徴を有し大に世人の稱

揚する所たり現時の生産地は仙北郡角館町を主とし北秋田郡阿仁合町及び大館町之れに次ぎ年産約三萬圓内外とす

■**木通蔓細工** 木通蔓細工は素と青森縣の特産物なりしが日露戰役の際軍人遺族の生業を扶助する爲め鹿角郡に於て之れが傳習を開始せし以來漸次勃興し今や秋田市及び雄勝郡に於ても製作するに至り本縣の一特産物となれり其の原料は各郡の山野に繁茂し而して製作の用具は唯小刀、鋏等に過ぎざれば婦女子の家業に好適せり製品の重なるものは食器函提籃類、乳母車等にて一ケ年の産額約二萬圓内外とす、

■**竹細工** 竹細工は縣内各地に於て製作せられ概ね粗造なる箆及籠の類に過ぎざりしが由利郡に於ては近年殊に練習所を設けて技術の練習に努め精巧なる製品を出すに至れり其重なるものは提籃、魚籃、煙草入及び日用品にて其産額は多からざれども價格低廉にして實用に適するを以て漸次需用を増加し前途有望なり年産約一萬五千圓内外とす、

■**曲木細工其他** 曲木細工及び壓彫刻細工は雄勝郡湯澤町に於ける木工株式會社に於て製作す製品の重なるものは椅子、家具、荷具、船具、車輪、運動具の類にて其の材料は地方に豊富なる「ブナ」「トチ」等を利用し明治四十四年中より開拓せるもの

にて今や産額著しく増加し縣の内外に輸出して漸次需用を加へつつあり、

■釣針 釣針は北秋田郡大館町の一特産たり其質の堅牢と擬似針の精巧とは夙に世の好評を博し遠くは兵庫縣及び北海道關東、奥羽各縣に輸出す製造戸數七戸年産一萬圓内外近來漸次其の産額を増進しつゝあり、

■工産物雜類 各種工産物雜類の年産約九十五萬圓にて内醬油の三十五萬圓を筆頭とし麵類の十萬圓以上指物類の十四萬圓以上履物類の十六萬圓内外、澱粉の二萬四圓内外、煉瓦及び瓦の三萬圓内外、陶磁器の一萬三千圓内外、疊表及び莫産類の二萬圓内外、紙類の一萬八千圓内外、革類の一萬圓、毛筆の一萬圓、麥粉の二萬七千圓以上等は其の主要なるものとす、杞柳製品の産額未だ多からざれども將來有望品の一に算せらる、鹿角郡花輪町の人工藤治六氏は本縣に於ける柳行李製造の先驅者として知らる、其他落摺及び落漬等も縣外人の珍重する所たり。

商業の秋田

■現在の大勢 商業は其土地の特産の特長豊足と否とによりて左右せらるる本縣の産

物は如上列舉せる大勢に支配せられざるべからず、既に農産物が唯一の貿易品たる以上は本縣は農産を主要輸物とせざるを得ず、然るに本縣の安固は獨り輸出の超過によりて保つ事を得若し輸入が少しにても超過する時は借財の變動を來し耕地轉賣の端を開らくに至る、要するに輸入が少しにても超過する時は本縣の如き土地は非常に經濟の必迫を告ぐるものなり而かも本縣の必要品は他の府縣より仰ぐ者頗る多く殊に衣類に至りては僅の地織りの外悉く之れを他府縣に仰ぎ而して農民の如き大集團の群れは一年の生産額より必要品の費用を割くの餘地なきことのみ多し、從て勞働問題には非常なる變測の法が行はれつゝあり、彼等の勞働賃銀は自己の生計を支へて外に家族を養ふには餘りに貧弱なり、故に賄付雇傭の方法が行はる、若し之れが勞働の宗國ならば日給若くは月給より賄料差引きの方法を取るべきなり、然る時は双方共に利益なり、然るに賄付若干と云ふ双方共に不經濟なる方法行はるゝが爲めに勞働者は其勞働に甚しく間斷緩慢を來し雇傭者を不利に陥らしめ勞働者自身も亦損害を重ぬるに至る、是れ經濟状態が少しの動きもなく貸付金は半箇年乃至八箇月以上固定して動かず同時に賣買も亦同時會計の取引をなすこと能はざる爲めに起る弊害なり、要するに本縣の商業は物品相殺の方法其の大部分を占むるものと

云はざるべからず、

■會社 本縣に於ける會社數は農業、商業、工業、運輸業等を合算し其數約二百三十以上にて拂込資本金七百三十一萬五千圓以上積立金約百七十五萬圓なりとす

▲銀行は前記貯蓄金融の部に掲げたるを以て除く、

■港灣輸出入額 本縣土崎港、能代港、本莊港、船川港、北浦港、中濱港、平澤港、金浦港、象潟港、戸賀港、松ヶ崎港等よりの輸出貨物の總數約三百八十萬圓以上にて輸出約四百七十六萬二千圓にて約百萬圓の輸出超過を見るの趨勢なり、

■鐵道輸出入 鐵道による輸入總額は約三十三萬圓にて其輸出額は四十三萬圓なるも最近に於て黒川噴油以來石油の輸出額に激増し大正四年度中に日本石油會社のみにて雄物川驛よりの輸出七十萬石と稱せられつゝあり、

■産業組合 由來東北の人民は文明に接觸するの機運に遅れ事々物々常に人後に落つるの狀況なるを以て組合發達の歴史に於て亦從て方今の大勢に後るるの憾なき能はざりしも近時縣民の自覺によりて其の數額に増加し總數二百五組合を有し人員一萬九千七百十三人拂込出資額二十三萬八千七百一十一圓にて積立金三萬三千五百六十六圓設立後の成績良好なり、本縣に於ける組合設立の嚆矢は明治三十六年十月十二日仙

北郡土川村無限責任心像信用組合なりとす、

■秋田物産館 産物の輸出上至大の關係ある北海道に對して商權の擴張を企及すべく秋田物産館を札幌に設立せし以來縣產漸次紹介せられて販路漸く擴張せらるに至りしが大正五年度にて經費節減の理由の下に之れを民營に組織變更されんとしつつあり、

教育の秋田

教育上の内容設備は漸く時代的に進歩し小學教育に於て今や就學歩合は九十八人四四出席歩合九十四以上に達し本校三百九十校分校百七校を算し學級數約二千六百十四以上にて兒童數十五萬七千五百人之れが教育に當りつつある教員數約二千七百七十六人教員一名に付き兒童數四六人四五に當る其他中等教育方面には二の師範學校四中學校一高等女學校三實業學校等あり國立鑛山學校の設立は最近なれども既に第三回卒業生を出すに至れり今各種學校及教育助長機關を擧ぐれば左の如し、

秋田鑛山專門學校 (國立)

秋田市

秋田縣師範學校	(縣立)	同上
秋田縣女子師範學校	(同)	同上
同附屬幼稚園	(同)	同上
秋田中學校	(同)	同上
秋田工業學校	(同)	同上
秋田縣高等女學校	(同)	同上
横手中學校	(同)	平鹿郡横手町
大館中學校	(同)	北秋田郡大館町
本莊中學校	(同)	由利郡本莊町
秋田縣農業學校	(同)	仙北郡大曲町
秋田縣圖書館	(同)	秋田市
工業講習所	(同)	山本郡能代町
秋田縣盲啞學校	(同)	秋田市
秋田縣農林學校	(同)	北秋田郡鷹巢町

其他郡市立又は私設に係るもの及び小學校幼稚園等は左の如し、

秋田工業徒弟學校	(縣立)	秋田市
女子技藝學校	(私立)	同上
女子職業學校	(同)	同上
公立尋常小學校	本校 二〇四	分校 四六
公立尋常高等小學校	本校 一八五	分校 六一
公立高等小學校	本校 一	
私立幼稚園	四	
秋田福田小學校	(私立)	秋田市
郡立圖書館	七	
縣教育會	一	
縣育英會	一	

■縣立圖書館 秋田市に在りて明治三十二年四月の設立にて其内容設備は全國中有數のものなり藏書總數九萬二千三百九十八冊内洋書二千四百冊和漢書九萬二百九十四冊其種類各方面に亘る、

■育英會 明治二十九年の創立にて資金六萬五千八百圓の財團法人なり舊藩主佐竹

侯爵の金壹萬圓其他の寄附とを以て成り創立以來貸費せるもの數百人卒業せるもの亦少なからず然れど縣下の秀才をして悉く其の志を成さしめんとするには資金餘りに僅少なると現知事阪本三郎氏此に顧みる所あり資金十五萬圓に増額の案を立てて縣下各鑛山に對し特別寄附を求めて承諾を得更に殘餘を廣く縣内の篤志家より求めんとしつあり

■秋田縣教育會 明治二十一年の創立にて明治三十四年時世の進運に促がされ組織を變更して社團法人となし且つ基本金二萬圓を造り基礎の鞏固ならんことを計畫し内一萬圓は年々二千圓宛縣費の補助を得他の一萬圓は有志者の寄附を仰ぐこととせり然るに三十七年に至り時局のため一時頓挫を來し當初の目的を遂行すること能はざりしも現在一萬二千圓を有し基礎の鞏固確實なること全國其比を見ず本會事業中の異彩を放ちつつあるは平田篤胤佐藤信淵の二大人を祭祀せる彌高神社の創立なりとす、創立一萬七千二十四圓を費やし四十二年十月十七日臨時大祭に際し宮内省より祭料として金五十圓を下賜せらるるの光榮に浴せり。

■青年會 青年の元氣を鼓舞し教育實業の趣味を鼓吹するは管に風俗を矯正し紀律を保持するに必要なるのみならず或は農事改良の素因となり或は部落感情の融和と

なり或は勤儉尙武の原動力となりて地方改良上に貢献する所尠ならず斯の如き意味よりして今や各地に青年會の勃興を見其數五百以上に達するの盛況なり大正五年二月に至り本縣は訓令を以て青年團の施設要項を發布して其の發達に資せんとす而して青年團の事業として左の數件を選定せり、

- 一、補習教育
- 二、青年文庫、書冊回覽
- 三、講演會
- 四、講習會
- 五、視察旅行
- 六、運動會、遠足、角力、擊劍、柔道、体操、腕押
- 七、共同作業(耕作、藁細工、養鶏、養蠶)
- 八、共同販賣、共同購賣
- 九、植樹、下刈
- 十、共同貯金
- 十一、生産物品評會
- 十二、道路修繕
- 十三、壯丁教育、入退營兵の送迎、在營兵の慰問
- 十四、就學出席の奨勵
- 十五、夜警消防の幫助
- 十六、戰時事變の際後援事業の幫助
- 十七、犒軍の幫助
- 十八、神社祭典の幫助、神社境内の掃除
- 十九、團員の互助
- 二十、惡習弊俗の矯正

■武德會 大日本武德會秋田支部の創設は明治三十四年五月にて四十二年六月四日許可を受けて財團法人となり會員約二萬人基本財産一萬三千圓を有す三十九年秋田市下中城町に武德殿を建設せり。

■婦人會 社會の風教を維持し産業の發達を圖るには獨り男子のみによりて爲し得

鷹巢感恩講 (北秋田郡鷹巢) 創立明治十八年十二月
 能代感恩講 (山本郡能代港町) 同 同 二十九年十一月
 角館感恩講 (仙北郡角館町) 同 同 十八年七月
 門ノ目感恩講 (平鹿郡角間川町) 同 同 二十六年十一月
 増田感恩講 (同増田町) 同 同 十五年八月
 横手感恩講 (同横手町) 同 同 十八年八月
 浅舞感恩講 (同浅舞町) 同 同 十五年十一月
 龜田感恩講 (同増田町) 同 同 二十九年四月
 吉田感恩講 (同吉田村) 同 同 三十二年四月
 十文字感恩講 (同十文字村) 同 同 十九年十月
 湯澤感恩講 (雄勝郡湯澤町) 同 同 十八年十一月
 駒形感恩講 (同郡駒形村) 同 同 十八年八月

以上十七感恩講に於て最近一年間に恤救せる戸數五百二十九戸一千二十八人にて米穀二百八十二石金員二百六十三圓なり

■保育院 感恩講の事業として貧困者の兒童を教養し職業を授け獨立自營の民を養成する爲め創立したるものにて衣食及雜品を給與し尋常小學校と同一程度の教科を授け殊に生活に必須なる實業を練習せしむ明治三十八年十二月開院四十四年度更に院舎を秋田市龜ノ丁に新築し八月を以て移轉せり収容兒童三十餘人院長族長各一人教師保母各二人之れが教養の任に當る一ケ年の經費三千三百餘圓なり

■秋田縣陶育院 明治三十年英照皇太后の崩御あらせらるゝや慈惠救濟の資に充つるの思召を以て金六千四百圓を下賜せらる本縣は乃ち其の御趣旨を奉体し之れを基本として毎年五千圓宛を蓄積し慈惠基金として慈惠救濟の事業を起すの計劃を立て年々之れを實行し豫定の額に達したるを以て明治三十七年四月一日秋田市手形新町に陶育院を設立せり其の目的とする所は感化教育法第五條に該當する不良少年を收容して感化教育を施すにあり其の教育の方法は専ら家族制を採り午前は學科の教授をなし午後は實業に就かしめ精神の修養品性の陶冶を以て第一義とす明治四十二年更に院舎を秋田市の南端風物閑雅の地に新築し十一月二十一日を以て移轉せり開院以來教養したる者三十八人現に收容せらるゝもの二十餘人にて其の成績見るべきものあり慈惠基金の現在高は約十一萬五千圓其の収入を以て院費を支辨せり經費年々二千六百圓内外院長は吉成徳五郎氏なり

■**福田學校** 同校は秋田市の富豪本間金之助氏の主唱によりて笹原貫軒、竹内庄三郎、野村宇吉等と共に佛陀の福田説に依據し貧兒教育の爲め創立したるものにて明治二十八年五月を以て市内寺町某寺院の一部を校舎として開校し明治三十一年十二月校舎を保戸野仲町に新築移轉したり校主本間金之助氏はれが爲めに資を投ずる二千餘圓三十三年 皇太子殿下の御慶事に際し更に三千圓を出して基本金となし基礎益々鞏固となれり入學生は市在住の學齡兒童にして貧困の爲め成規の教育を受くること能はざる者に對し尋常小學校と同一程度の學科を教授す月謝を徵せず學用品を施與し若くは貸與す創立以來入學したるもの五百餘人にて現在の在校兒童七十餘人なり、

■**秋田出獄人保護所** 明治三十三年九月故川村養助氏の創立にて有志の義捐金によりて事業を經營しつありしが三十六年三月永遠維持の計畫を立て慈善演藝會の寄附金七百圓を以て基本金を造り同七月主務官廳の許可を得て財團法人の組織となし改過遷善の實を擧げつつあり現今は松山祖庭氏所長として献身的に努力しつあり

■**秋田就學會** 元秋田慈善會秋田授産會を一旦解散し其財産を寄附合併して明治四十二年七月許可を得て秋田就業會と稱し設立したる財團法人なり其目的は軍人遺家

族其他を職業に従事せしむるにありて業務の種類は實子網及羽天製作裁縫洗濯等なり從業人員約六十名一ヶ年支拂工賃約千八百圓事務所工場は秋田市船大工町にあり

■**秋田労働者慰藉會** 本會は曹洞宗の僧侶にて嘗て内務省の感化救済の講習を受けたる松山祖庭氏が秋田市に於ける貧民窟を視察し其の窮狀に同情し精神上の感化と慰安と且勤勞の習慣を與へ教導誘發自營の策を立てしめんとするの目的を以て明治四十三年二月獨力を以て創立したるものにて爾來事務所を秋田市寺町應供寺に設けて毎月十五日の夜貧民労働者を集めて講話會を催し自助的講話をなし兼ねて衛生風紀貯蓄勤勉等の處世要項を説示しつあり、

■**秋田業慈善協會** 大正元年恩赦令の發布を機とし免囚の保護感化を主とし廣く慈善事業を行ふの目的を以て佛教各派を中心とし官民共力の下に慈善協會を設立し先づ免囚の保護及職業の紹介を開始せり現在會員約四百八十三名なり、

■**爾餘の施設** 如上の外南秋田五城目町には陰德講あり由利郡象瀉町には慈善講あり本縣に於ては大正元年の大喪に丁り特に慈善救済の資を補はしむるの思召を以て内帑の資を下賜せられたる一萬三千百圓を基礎として大正慈善基金を組織し其の収入を以て郡市町村の施設に係る感化救済事業に補助し及私設團體の事業を助成す

ることとし之れが施設を勸奨しつつあり、

兵事上の秋田

■陸海軍人数 最近の調査による本縣陸軍々人は總數五萬二千四百六十四人にて現役五千四百七十九人豫備八千三百五十七人後備七千五百六十六人補充三萬一千六十九人にて海軍々人總數は一千三百七十七人にて現役九百八十七人豫備三百三十四人後備四十三人補充十三人なりとす、

■壯丁の學力及健康 壯丁の學力は逐年進歩し亦其の健康も概して良好の狀況を示し來れり學力の進歩は普通教育の督勵に加ふるに補修教育の奨勵を以てし一般も亦漸次教育の必要を認むるに至りたるの結果にして健康状態の良好なるは一面体育の奨勵に努むると同時に傳染病特に「トラホーム」及花柳病の豫防救治と衛生思想の普及に努めつつあるの結果に外ならず最近の検査成績によれば總員一萬三十八人に對し合格者六千七百九十四人にて合格歩合は七二・五の割合なりとす、

■海軍志願兵 近時海事思想の進歩に伴ひ海軍志願兵の數年を逐うて多きを加へ所管鎮守府(舞鶴)管轄内に於て優良の成績を示すに至りたるは喜ぶべき傾向と云ふべ

し最近に於ける成績を擧ぐれば志願者總數四百九十一人中合格者百七十七人合格歩合は三六・〇の割合ひなりとす、

■在郷軍人會 日露戰役後在郷軍人團の組織を勸奨したる結果各町村に亘りて之れが組織を見るに至りたりしが帝國軍人會の設立と共に其の組織を更革して分會となり専心會規を遵行するの外共同的の作業を爲し直接間接に地方風紀の改善及尙武心の作興に努めつつあり最近の調査による在郷軍人数は陸軍總數四萬一千九百九十七名にて將校二百一名準士官七十六名下士一千三百二十六名兵卒四萬三千九百九十四名軍總數二百三十名にて將校一名下士六十七名兵卒百六十二名なりとす、

■遺族、廢兵 軍人遺族約千四百九十二人廢兵八十六人にて比較的生計の困難なる遺族に於て二百七十人廢兵に於て三十三人あるも郡市町村の當事者は専ら慰安救護に努めつつありと共に愛國婦人會秋田支部に於ても明治四十年以來年々相當救護費を支出しつつあるの外傍ら授産場を設けて授産の途を講じ秋田就業會の如きも亦之れに類するの施設を爲しつつあるを以て衣食に窮するが如きものなし、

■赤十字支部及び愛國婦人會支部 日本赤十字社秋田支部及び明治二十九年愛國婦人會秋田支部は同三十七年の創立にて縣當局の勸誘と縣民の義心に依り年次隆昌

に赴かんとするの傾向あり日本赤十字社秋田支部に於ては明治二十九年以來看護婦の養成に努め明治四十三年篤志看護婦人會秋田支會を附設し四十四年更に病院の設立を計劃して大正三年度より開院治療を開始しつつあり愛國婦人會秋田支部は遺族廢兵の救護に全力を注ぎ或は救護金の交附に兒童學用品の給與に或は生業の傳習に其の成績の見るべきもの少なからず最近の調査によれば赤十字社員總數二萬三千四百四十八人愛國婦人會員總數一萬五千三百三十八人なりとす、

宗教の秋田

■神社 本縣神社の總數は明治四十年八月の調査にて四千六百九十八の多きを有したりしが漸次之れが整理を行ひたる結果として現在に於ては一千四百五十八社を有す而して其内譯は左の如し

▲國幣小社一 ▲縣社一四 ▲郷社三七 ▲村社五八四 ▲無格社八二二

以上の神社に對し神職三百二十四人なり、其内社司四十二人社掌二百七十九人の割合にて神饌幣帛料指定神社は縣社十四郷社三十一村社七十三計百十八社なりとす、

■寺院と住職 最近の調査によれば縣下の寺院總數六百七十八にて住職五百七十名

を有す之れを宗別とすれば左の如し

▲天臺宗三 ▲眞言宗四四 ▲淨土宗五四 ▲臨濟宗十七 ▲曹洞宗三四 ▲眞宗一七一

▲日蓮宗四一 ▲時宗四

此他に天主教一、ハリスト正教五、日本基督教會一、日本聖公會二、美以教會二、其他二計十四の教會及び講義所を有す、

衛生と消防

■衛生 本縣に於ける醫師の總數は約四百七十人にて人口千九百七十二人に對し醫師一名の割合ひなり其他産婆四百六十四人鍼灸術百五十六人を有す藥劑師三十五人藥種商二百二十九人製藥者三十人賣藥製造者三百二十一名請賣者一千五百二十八人商一千二十六人にて公私立病院少なからず、衛生思想普及の方法としては年々衛生展覽會を開催しつつあり本縣の特種病たる「沙蟲病」は新潟縣の「恙虫」と同物異名にて發生區域は雄勝郡高松川の下流より仙北郡玉川の合流する御物川沿岸雄勝平鹿仙北の三郡十數里に亘る博士田中敬助氏其の病源と治療の方法を研究すること多年今尙現に研究を持續しつつあり、

■火災消防 縣民の自覺的努力と當局の勸奨とによりて縣下消防組漸次増加し現在二百十八組人員一萬五千四百八十五人平均一組の人員七百十人の割合にて訓練と器械の完備とによりて年次火災損害の程度を減少しつつあり

新聞及雜誌

■現代の新聞 明治六年十月新聞紙條例發布と共に秋田市に「遐邇新聞」發行せられたり之れ秋田縣に於ける新聞紙の嚆矢なり爾來幾多の變遷あり現代本縣言論界の權輿たる數種を擧ぐれば左の如し

- ▲秋田魁新報 明治二十二年二月の創刊にて基礎堅實輪轉機を有する東北有数の新聞として知られ現社長は代議士井上廣居主筆は安藤和風氏なり、
- ▲秋田時事新聞 明治十五年七月の創刊にて「秋田日々新聞」の後身なり新聞紙としては古き歴史を有し政友會の機關たり現社長縣會議員成田直一郎氏にて主筆は笹本古今氏なり、
- ▲秋田毎日新聞 明治四十四年九月の創刊にて現社長は代議士中村千代松氏にて主筆は鷲尾愁雲氏なり

以上は日刊三新聞として一縣言論界を三分して主張を闘はしつつあるを以て知らるるも尙他に相當勢力を有して言論界を賑はしつつあるもの少なからず曰はく、

- ▲羽後新報 平鹿郡横手町にありて山崎忠剛氏の獨力奮闘創刊せるものにて毎月十回發行なり現主幹鈴木空侗氏編輯長は芳賀破葉氏にて縣南に於ける言論界の一權輿たり、
- ▲北羽新報 山本郡能代港町にあり毎月十回發行にて現社長縣會議員嶋田五工氏にて獨特の言論頗る異彩あり、
- ▲能代實業新聞 同町にあり毎月十回の發行にて現社長は前縣會議員三浦權兵衛氏にて主幹は小林天風氏「北羽」と兩々相對して縣北言論界の霸を稱せんとしてつつあり、
- ▲仙北新報 仙北郡大曲町にあり毎月三回の發行にて現時は田口松圃中川化生兩氏主として編輯の任に當りつつあり、
- ▲本莊時報 由利郡本莊町にあり毎月三回の發行にて現社長北原鶴城氏編輯は主として深浦靜風氏其の任に當りつつあり、
- ▲秋田民報 秋田市にあり毎月三回の發行にて獨力經營十年の歴史を有し「實業

週報」の後身なり現社長主筆堀井汀水氏の獨力奮闘的舞臺にて何人の制肘をも受くべからざる奔放的言論を縦にしつつあり、

▲中央新聞秋田支局。秋田市にありて現社長は永井吊民氏編輯主任は小貫修一郎氏なり「秋田版」により縣下言論界に一權威を有す、國民新聞秋田支局廢止以來同紙の秋田版は世人に期待されつつあり、

▲北辰公論。北秋田郡大館町にあり社長主筆佐賀吞洋氏なり。

▲石油ルフト。時報。秋田市にあり斯業唯一の機關たり泉谷雲外氏主として經營の任に當りつつあり、

此他能代に「秋田木材新報」あり増田に「増田實業」あり、縣教育界の機關たる「秋田縣教育雜誌」は雜誌界の雄なるものなり、

市郡の卷

秋田市の概観

▲地理沿革。秋田市は秋田縣に於ける首都にて縣の中央に位置を占め日本海を距ること約一里市街は海面より高きこと十八尺最低四尺七寸にて東北西は田圃丘陵を以て南秋田郡に境し南は太平川(又檜山川)を隔て河邊郡に接す、旭川は南秋田郡仁別山に發し市の中央を貫流し川口に至り市の東方より流れ來る太平川と合して御物川に注流す、大正四年末の調査によれば現在戸數は六千九十戸にて現在人口三萬八千四百七十五人なりとす、

本市は昔時秋田郡の一部たり、秋田郡は即ち秋田六郡(雄勝、平鹿、山本、今の仙北、豊崎、今の河邊)の(今)の南秋田郡(檜山、今の本)の一にして秋田城之助の所領其の多きを占めたり、往時窪田と稱し元原野にて中に丘陵あり神明山或は矢留森、葛根山とも唱へ總社鎮座せり一川貫流して人家各所に點在し東に太平山聳ね西南に雄物川を帯び西土崎港(城之助居城)に連り遙に日本海を望み宛然小武藏野の觀ありしなり慶長七年佐竹義宣の封を常陸より秋田に遷

さるるや(城之助は常州宍戸に遷封)土崎城の規模狭少にして藩政を行ふに適せざるより地を選びて窪田に得、神明山を以て城地と爲すに決す、蓋斯地六郡の中央にて四通八達の要所たりしを以てなり、慶長八年五月築城に着手し翌九年八月二十八日落成移住し之れを秋田城(矢留城)と名づけ藩名を久保田と稱す、次て土崎城を毀却せり而して城地の周圍に市區を經營し城下を貫流する河水を更に掘鑿し其の東部に藩士を居らしめ其西部に商工を居らしむ、故に内町(川の東部)外町(川の西部)の稱あり、川は旭川と命名せり明治維新に際し藩主佐竹義堯奥羽賊軍の間に孤立して大義を唱へ闔藩王事に勤む、明治四年正月十三日久保田藩を秋田藩と改むべきの朝命ありしを以て秋田町と改稱せり次て其年七月廢藩置縣となり縣内を大小區に分ちし時秋田町は第一大區に屬し更に之れを三小區に劃せられたり藩政時代の市の行政は町奉行管掌し町方取次役、町方處物書、町同心等隸屬し、又其下に庄屋町代ありて事を行ひたり、同五年五月庄屋、町代等の名稱を廢せられて區長を置く、明治十年十二月郡區町村編制法施行せらるるや本市は南秋田郡に屬し各町を十一組に分ちて戸長區域を設けたり、明治十九年四月三十日市街外町大火あり翌五月一日に亘る焼失戸數約三千六百戸に達し繁華街區大概亡燼せり之れが爲めに蒙れる本市の經濟上

其他の創痍は後年に至るも容易に恢復せざりき之れに前後して天然痘、虎烈刺病及び痘瘡等の惡疫流行あり而して一方には士族の産を失ひ職を求めて他地方に移住するもの多きを以て戸口頓に減退し市況不振を呈するに及び、明治二十二年四月市町村制實施に際し各組合町を合して秋田市となし土手長町中町の南秋田郡役所の廢舎を譲り受け六月一日より秋田市役所を開應せり然るに當時市區域を定むるや舊城下久保田の助郷たる上野、八橋、八丁、保戸野、泉、手形、蛇野、檜山、牛嶋等の各部落を度外し單に内町、外町のみを以て編成せるに由り其面積は藩政時代に比し著るしく狭少を來せり、明治二十九年、歩兵第十六旅團司令部歩兵第十七聯隊の本市に置かれ更に三十五年奥羽鐵道北線開通せらるるに及び市勢漸く恢復の機運に向ひたり、三十六年十月市上水道布設に着手し、三十八年十月奥羽南線開通し茲に全通連絡を見るに及び市況も頓に一變せり、四十四年八月布設中の水道工事竣功を擧ぐ工費七十四萬四千圓を費せり、現今の市役所は四十二年十一月二十三日竣成せるものにて土手長町上町に在り

▲歴代の市長 市制實施以來市長たりしもの五名左の如し

小泉吉太郎、羽生氏熟、御代弦、野口能毅、大久保鐵作

市の趨勢 秋田市の膨脹と發展力は如何なる程度に進みつつありやを數字によりて最近五年間の増減を調査するに先づ農及漁戸數に於て大正元年に四十二戸たりしものは大正三年度に於て二十一戸に減じ工業は一千二百八十七戸たりしものは一千四百二十九戸となり三ヶ年間に百四十一戸の増加を見るに至れり而して商業戸數一千三百五十四戸たりしが一千三百五十三戸に減せしが如きは注意すべき現象なりとす交通業の僅に四十五戸たりしものは勃然として百九十二戸に増加せる如き時代の及ぼせる影響たるを知るべきなり、公務の一千百三十一戸は一千四百戸に増加せる勞働の六百五十三戸は七百四戸に増加せる雜業の九十二戸が四十二戸に減せる無職の一千五百七十五戸が九百九十五戸に減せる等の現象を綜合して觀察すれば秋田市の現在は工業者と商業家と官吏公吏の三者繁榮の中心となりて市の趨勢を左右しつつあるかの觀なくんばあらず商業の僅に一戸なりとも減少せるを見るが如きは注意すべき現象とせざるべからず勞働者の増加と伴ひ無職者の減少せるは欣ぶべき現象とすべし、而して縣議員選舉有權者の九百五十三名衆議院選舉有權者の六百四十八名貴族院選舉有權者の五名の如きは三萬八千の人口を有する秋田市として決して其多きを誇るべからざるものなりとす、

産業の秋田市 市の物産中重なるもの又は特殊なるものは八丈、畝織、金銀細工銅器、青銅器及鑄物、挽材、指物、縞及び染木綿、菓子、酒、藁工品、蔓細工、落摺服紗及び壁紙、落漬等にて其年産額の概算を示せば八丈及び畝織の三萬三千圓、金銀細工の拾餘萬圓、銅器の一萬圓青銅器及び鑄物の貳萬圓、挽材の四拾萬圓、指物の三萬五千圓、縞及び染木綿の拾貳萬圓、菓子の拾萬圓、清酒の拾三萬圓、藁工品の壹萬圓、蔓細工の貳千圓、落服紗の四千圓、羽二重服紗(落模様)の壹千圓、落漬五千圓等とす、此他に秋田名物の一たる秋田焼陶器の古雅掬すべきものあれども産額未だ大ならず、

各種産業機關 市に於ける産業上の機關としては左の數種を擧ぐるに過ぎず、
 秋田商業會議所 秋田市役所内にあり明治四十年十二月の創立にて秋田市及び土崎町牛嶋を區域とし議員數三十五名特別七名を有す現時の會頭は加賀谷長兵衛氏なり、

株式第四十八銀行 茶町菊の丁にあり明治十二年の創立にて最も古き歴史を有す
 資本金壹百萬圓なり、
 株式秋田銀行 大町三丁目にありて資本金百萬圓明治二十九年五月の創立なり同

行建築は市中の偉觀にて四ヶ年を費し明治四十五年竣成せり、
合名安田銀行秋田支店 明治二十九年六月創設せられたるものにて本町四丁目
會社あり本金庫なり、

株式秋田農工銀行 大町二丁目あり資本金六拾萬圓明治三十一年七月の創立な
り、

此他に本店を東京に有する各種銀行支店の重なるものは左の如し

共榮貯金銀行秋田支店 茶町扇ノ丁にありて大正二年八月の創設なり資本金壹百

萬圓を有す、

京和銀行秋田代理店 茶町扇ノ丁にあり大正三年の創設にて資本金五十萬圓を有

す、

東京國債銀行秋田支店 本町四丁目あり大正四年の創設なり、

更に會社類の重なるものを擧ぐれば左の數種を算すべきか、

秋田電氣株式會社 秋田市廣小路通りにありて資本金十五萬圓明治四十年四月の

創設なり

秋田瓦斯會社 茶町菊の丁にありて資本金三十萬圓明治四十四年の創設なり、

秋田軌道株式會社 新大工町にあり資本二萬七千五百圓にて明治二十一年六月の

創設にかかり土崎町秋田市間の馬車鐵道を經營す、

秋田酒造株式會社 本町五丁目にあり資本金五萬二千圓明治四十二年一月の創設

なり、

日本石油株式會社 秋田出張所 手形堀端町にあり

此他合資若しくは箇人經營中の會社數少なからずして換材會社は先づ虎ノ口に於け
る進藤挽材會社を始めとし川口方面の各處に其の盛運を競ひつつあり、織物業とし
て妹尾機業場の絹織物と相對し手形に於ける新田氏の經營する本莊染物會社を最と
し醬油の小玉合名會社支店等箇人の經營に屬するもの枚擧に遑あらず、信用組合と
しては有限責任秋田共益信用組合あるに過ぎず、

■諸官衙公署其他 市内に於ける諸官衙公署は左の如し

- ▲秋田縣廳(土手長町) ▲物産陳列所(同上) ▲秋田縣會議事堂(同上) ▲秋田市役所
- (同上) ▲赤十字病院(鷹匠町) ▲秋田地方裁判所(廣小路) ▲秋田區裁判所(同上) ▲
- 歩兵第十七聯隊(同上) 歩兵第十六旅團司令部(上中城町) ▲秋田聯隊區司令部(同
- 上) ▲秋田衛戍病院(同上) ▲秋田憲兵分隊(大町一丁目) ▲秋田縣警察部(縣廳構

内) ▲秋田警察署(大町三丁目) ▲秋田郵便局(本町四丁目) ▲秋田大林區署(東根小屋町) ▲同小林區署(同上) ▲秋田稅務署(中龜ノ丁) ▲秋田測候所(河邊郡牛嶋町) ▲秋田縣米穀檢査所(縣廳構内) ▲秋田運輸事務所(停車場前) ▲秋田停車場(檜山字長沼) ▲赤十字秋田支部(西根小屋町) ▲秋田縣產牛馬組合事務所(市外八橋) ▲秋田縣公會堂(下中城) ▲武德殿(同上) ▲秋田圖書館(千秋公園内) ▲秋田監獄(市外川尻) ▲秋田縣農事試驗場(市外八橋)

諸學校及幼稚園 市内に於ける學校及幼稚園は左の如し、

- ▲秋田礦山專門學校 (手形)
- ▲秋田縣師範學校 (同上)
- ▲秋田女子師範學校 (東根小屋町)
- ▲秋田中學校 (同上)
- ▲秋田縣高等女學校 (中嶋)
- ▲秋田縣工業學校 (原野町)
- ▲女子技藝學校(私立) (土手長町)
- ▲女子職業學校(私立) (檜山龜ノ丁末町)

- ▲中通小學校 (東根小屋町)
 - ▲保戸野小學校 (保戸野)
 - ▲築山小學校 (檜山)
 - ▲旭北小學校 (豊嶋町)
 - ▲旭南小學校 (馬喰町)
 - ▲明德小學校(師範附屬) (下中城)
 - ▲女子師範附屬小學校 (東根小屋町)
 - ▲同幼稚園 (同上)
 - ▲保戸野幼稚園(外人經營) (保戸野)
 - ▲秋田幼稚園 (同上) (中長町)
 - ▲檜山幼稚園(歸化園部ピア女史經營) (檜山)
 - ▲私立福田小學校 (保戸野)
 - ▲保育院(感恩講附屬) (中龜ノ丁)
 - ▲秋田縣陶育院(縣立) (檜山愛宕下)
- 病院、醫師、辯護士 市内に於ける病院には赤十字支部病院あり私立秋田病院あり

るの外各醫師いづれも病室を有するが故に何等不便を感ずることなし、辯護士現在十六人公証人二名執達吏三名ありて各々其の門戸を張りつゝあり、

九〇

南秋田郡勢概観

■地理 本郡は縣の中央に位し東西四十六里三十二丁南北七里三十五町にて其面積七十五方里餘なりとす東は太平山馬場目嶽を以て河邊郡北秋田郡の二郡に連り南方は雄物太平二川を隔て河邊郡に界し中央は寺内八橋を以て秋田市に檐を連ね北は森山高岡山三倉鼻等の景勝を以て山本郡に接し西方一帶渺茫たる日本海に面して雄渾なる奇景を藏せる男鹿半嶋を以て八郎湖を包擁せり湖の周圍二十里加ふるに全縣の半を占むる海岸との漁獲物は古來農産牧畜と共に本郡の主要物産たるを失はず又最近に於ては黒川石油及び豊川土瀝青等の産出により郡の産業を進むると更に大なるものあるに至れり、戸數一萬九千三百八十五戸人口十三萬八千五百十二人なりとす

■沿革 南秋田郡は古の秋田郡にあり秋田企治城は寺内村に其跡を存す、平安朝の置郡蓋此に北限を爲せり、中世其北に檜山(野代)比内上津野の諸郡を開き近世其比内をも秋田郡と呼べるに因り秋田の南北の別を生ずることとなれり明治十三年南秋

田北秋田の稱號を公定せり、(而して古史の鱒田浦とは土崎港か男鹿の北浦若くは船川を稱せるか明かならず八郎瀉の沿岸大川村三倉鼻邊に率浦といふ郷名あり或は此邊を稱せしか)近世佐竹にて六郡領地の時には其封内を汎稱して秋田と云へり之れを兩分して秋田仙北と云ひ其秋田は河邊(豊嶋)山本(檜山)の二郡をもこめての稱號にして天正慶長の秋田(上國檜山安倍)氏の封域なり、

■産業状態 本郡に於ける農産物は年額約四百八十二萬二千九百四十二石價格約三百十八萬七千五百八十七圓林産約五十二萬二千七百七十七石水産約二十三萬三千八百七十八圓鑛産約二百萬圓以上なるべく黒川石油の産額は未だ其の正確なる數量を記載し難きも大約如上の産額以上たるべきなり、工産約二十五萬六千九百三十三圓養蠶約一萬六千四百三十九圓其他家禽養鶏等の産地を以て知らる、今全郡の戸數を職業別とすれば農業一萬二百三十八戸工業一千八百九十五戸商業二千六百六戸漁業一千四百二十八戸其他雜業三千七百十八戸の割合故本郡は農産は其主なる産業にて商業之れに次ぎ工業漁業の順序となるの趨勢を示しつつあり、

■主要物産 本郡の主要物産は米、麥、大小豆、粟等より蔬菜果樹の産額また侮るべからざるあり石材蘭草は特産物として知らる木材、薪炭、石油、土瀝青、牛、馬

九一

鑄物、薬工品、疊表、莫産類より海魚、湖魚、介類其他の水産製造物等其重なるもの多し、

■土崎港町 本郡第一の都會にて本縣第二の市街地たり現住戸數二千七百四十七戸人口一萬七千三百六十四人港灣輸出入額を示さんに輸入品の重なるものは米穀海産物及び砂糖、食鹽、石灰、清酒、石油其他にて總額一年二百四十萬圓以上にて輸出品の重なるものは米穀、雜穀、薬工品、木材等にて年額五百六十三萬九千圓以上なり商業地として將來益々有望の土地たり今や御物川治水工事着手せられんとして從て同港の改修せらるべき時代來らば船川港と相俟つて本縣海運の利權一に同港の占むる所となるや必せり、

▲諸官衙其他の建物の重なるものは

南秋田郡役所 鐵道院土崎工場 秋田縣水産試驗場 專賣局土崎販賣所 秋田區裁判所土崎出張所 土崎警察署 土崎産米検査所 土崎郵便局 南秋田郡圖書館 土崎町役場 男子小學校 女子小學校 土崎驛 雄物川驛 日本石油會社 秋田製油所 秋田銀行土崎支店 四十八銀行土崎支店 黒川油田の沿革 鑛區面積約四百四萬坪にて大正元年九月日本石油會社は先づ米

國式綱索掘に着手して好結果を取めたるを以て更にロータリー五號井の大噴油前十數抗の綱掘井數坑のロータリー掘井より已に々一千石宛を採取しつつありたり然るに五號井は海拔二百六十七尺の小丘に位置し大正三年五月三日開掘に着手し同月二十六日午前零時十五分深度二百二十八間一尺にして噴油し初め其勢ひ猛烈にて八吋鐵管内に挿入せる五吋鐵管の内外より滾々として噴出し刻々其量を増加し奔流槽下の泥留に落下するや一大旋滑をなしつつ旺溢し見る／＼築堤の一部缺潰して小草生津土澤の溪間を傳はり約三丈の油瀑を現出し更に小川となりて丘草を繞り曠野に出で田と云はず畑と云はず一面油の海を湛ふるに至れり當時の噴油量一分間九石にして是れを一晝夜に積算すれば一萬二千九百六十石洵に本邦空前の一大噴油とす當時應急策として溪間及び田面に一號より十一號に至る土タンクを築造したるが此の面積五千七百三十六坪容量九萬八千五百石斯くて尙不足を告げたるを以て半永久的に十二號土タンクを築造したり面積は六千六百五十坪此の容量二十八萬石とす一方に於ては其噴油を制限することに決し五月二十九日坑夫十一名を以て決死隊を組織し八時四方口のケーシングヘッドを坑口に螺合し必要に應じ噴油を加減し得る装置を施したり尙此の他送油の設備として同油田より土崎の製油所に四時の鉄管線一條あり

しを更に四吋の鐵管線一條を急設し尙八吋のもの一線を増設したるものなり、
 ■秋田製油所 明治四十三年七月の創立にて土崎港にあり十六萬五千坪の敷地内に
 建築せられたる坪數二千二百坪にて他にタンク其他にて使用されつつあり黒川油田
 より同製油所に送油さるる鐵管は八吋線一條此の延長四萬二千尺四吋線一條此の延
 長四萬八千尺の二線によりて毎日送油されつつあり而して陸上輸送の設備としては
 土崎驛より分岐せる雄物川線より製油所へ引込線として一哩三十七鎖を布設し是れ
 が輸送機關としてはタンクカー二十噸車九十輛十噸車二輛七噸車六十一輛にて合計百
 五十三輛にして此の積載噸數二千二百四十七噸なり、海上輸送機關としては二百石
 積十四艘三百五十石積二艘五百石積六艘合計二十二艘にて積載石數六千六百石なり
 而して是れが積込タンク船は三艘にて即ち千代田九千七百噸永田九千五百噸虎丸五百
 三十五噸合計二千九百八十五噸にて同所設備の蒸溜釜は六百石入六本二百五十石入
 二本二百石二本五十石入二本連續蒸溜釜五百五十石入五本にて貯藏タンク三萬石入十
 本一萬石入二本二萬石入六本五千石入十三本五千石以下二十一本を有す而して現時
 黒川油田の日産額二千五百石にて重油は海軍省鐵道院及各工場に供給し輕油は發
 動機に需用せられ製燈油は露を印とし富貴蝙蝠と稱し重に秋年青森山形の三縣に販

賣せられ品質優良を以て好評を博しつつあり、斯くて黒川油田は最近に於て東伏見
 宮北白川宮兩殿下御視察の光榮に浴するを得たり。

■其他の都邑 船川港は改修半ばにありて船川鐵道本年を以て完通せんとす商港と
 しての船川の將來は其發展期して待つべきを覺ゆ、而して船川を商港とすれば北浦
 港は漁港として將來の運命を新にするを得るの好位置を占めつつあり、脇本村船越
 村拂戸村の如きは遊覽地として世人の觀賞する處となるや必せり、從て産業の振興
 を企及するに足るべきか、湖東足金村は黒川噴油によりて知られ豊川村は土瀝青の
 産地として飯田川村は公園と小玉醬油によりて知られ佃煮の大久保大川三倉鼻公
 園の面瀉一日市いづれも鐵道沿岸線の各邑なり而して五城目町は阿仁街道の要衝に
 て木材鑄物酒の醸造等によりて世に知らるる本郡第二の都市なり

山本郡勢概観

■地理 本郡は縣の西北隅に位し三町二十三ヶ村より成り其境域東は北秋田郡に界
 し西は日本海に臨み南は南秋田郡に隣りし北は山脈連亘し八森岳粕毛岳等の諸山を
 以て青森縣に接し而して米代川は北秋田郡より入り郡の中央東より西に貫流し能代

港に至りて海に注ぐ地勢南北十四里東西八里廣袤七十五方里土地豊沃就中米代川流域に屬すの地頗る肥沃にして産物少なからず全郡戸數一萬四千七百六十五戸人口十萬八千八百六十人山岳は八森岳、粕毛岳、茂谷山等にて原野には十二ヶ所野、金光寺野、大野、九郎左衛門臺、中野原等あり、河川には米代川、藤琴川、粕毛川、種川、常盤川、三種川あり、池沼には淺内沼、長崎沼、角助沼、大友堤等あり鑛山は八森(八盛)水澤、太良等にて物産の重なるものは穀菜、果物、金銀銅、石油、木材海魚、湖魚、春慶塗、翁飴、東雲羊羹、曙羊羹等なり、

■沿革 古への齊明天皇紀の淳代郡とは山本郡のことにて後に秋田郡に合併せり中世安東氏時代は檜山郡と稱し山本郡の名稱は寛文年代なりといふ、

■産業状態 本郡の農産約二百四十九萬五千六百二十圓工産約三十六萬八千六百九十四圓林産二百四十六萬四百五十三圓水産六萬七千六百七十三圓鑛産七十四萬三千五百四十二圓畜産五萬七千九百七十一圓蠶絲三萬九千九百八十六圓家禽十萬三千八百六十六圓生産額總計六百三十三萬七千八百九圓一戸當四百二十九圓一人當五十八圓餘なりとす、

■能代港町 本郡第一の都市にて現住戸數三千三百二十七戸人口二萬四百一十一人鐵

道輸出貨物一ヶ年約四百萬圓にて賃金の収入毎月二萬圓以上奥羽線第一と稱せられ港灣輸出一年約四十五萬圓輸入約二十二萬圓の趨勢を示しつつあり、能代港は日本海に面する諸港中最も古き歴史を有する地なるも港灣は改修の實を擧ぐるにあらずんば單に歴史上の繁榮を夢むるのみに止まり港灣としての價値頗る疑はしきものあり米代川の改修が本郡の重要問題たる所以なるべきか、而して能代繁榮の中心となりつつあるは秋田木材會社の發展之れなり一面に於ては八森鑛山の隆盛時代は直接間接に能代を益すること多大なりしが一時整理の爲め休山の止むなきを見るに至り頗る能代の人心を動搖せしめたりしが昨年に至り八盛鑛山と改稱して更に事業を繼續することとなりしを以て更に一層の發展と伴ひ能代市況を振作するや必せり、名産としての春慶塗、翁飴、東雲羊羹其産多からざれども西洋蔬果樹の栽培盛んにて殊に長十郎梨の如きは聲名を馳せつつあり近時園藝學校の設立が郡會の問題となれるも故ありと云ふべきなり、

■秋田木材會社 同社は能代繁榮の中心にて資本金二百萬圓明治四十年三月の創立に係り木材業の外機械製作、電氣、瓦斯、植林、牧畜、運送等を兼營し支店を東京大阪、名古屋、青森、小樽、網走、猿拂、聲間、稚内に置き工場は能代、秋田、青

森、大阪、根室、稚内にあり社長は井坂直幹なり、同社の原料は主として杉材を用ひ海運業の状況に依り北海道松をも用ひ杉丸太は米代川流域其他の縣内國有林出材中より供給を受けつつあり馬力一千二百五十馬力製材機械九十四臺職工男女計五百七十人を使用し一日平均の支拂賃金二百五十圓なり、其製材力一日七千五百立方尺此原料一萬二千五百立方尺現在一日の製材高約六千三百立方尺原料使用高一萬五百立方尺にて大正三年度の製材高十五萬二千百尺販賣高百三十一萬八千圓にて其の兼業たる機械製作事業は製品いづれも世間の好評を博しつつあり又直營電氣事業は本店所在地及び北海道根室町と北海道稚内町等に實行して好成績を擧げつつあり而して會社は其基礎を永遠に確立するの目的を以て植林事業を大正元年秋より着手し造林地を山本郡八森村字真瀬澤に相し實測反別八百十六町歩餘の地積に於て向ふ十ヶ年の計劃にて創業以來三ヶ年間に於て百二十六町四反歩植付本數四十九萬一千本支出金額四千八百八圓尙引續き施行の豫定なりとす、

■八盛鑛山の現況 八森の椿鑛山は明治三十九年武田恭作氏の經營にて最新の設備をなし面目頓に一新し産銀一ヶ月約一千貫以上を超え其將來に嚆望されつつありしが一兩年前經營上の都合より一時休山の止むなきに至りしが大正四年度に於て武田

氏は新に大日本鑛業株式會社(資本金貳百萬圓)を創立して其の經營に移し八盛鑛山と改稱して再び採鑛に着手せり而して同會社側に於ては平鹿郡増田の吉乃鑛山より十文字驛迄鐵索を架設し同山の鑛石を八盛に輸送の計劃を立て目下工事中なり一方には山形縣大石田銅山の産鑛も八盛に輸送され其他各地より買鑛を爲しつつあるを以て八盛鑛山に於ける一ヶ月の産銅は今後尠なくも毎月五十萬斤に達すべき狀況なりと云ふ同鑛山の復興によりて能代港の直接間接に受くべき利益甚大となるや必せり、

■官衛公衛其他 能代町に於ける諸官衛の重なるものは左の如し

山本郡役所 能代區裁判所 能代小林區署 山本郡圖書館 能代稅務署 能代警察署 能代郵便局 能代驛 山本郡會議事堂 能代港町役場 能代銀行 四十八銀行支店 秋田銀行支店 秋田木材會社 縣立工業講習所

■重なる都邑 郡内に於ける重なる都邑としては昔より鹿渡鮒を以て有名なる鹿渡村あり角助堤の葦菜を以て知らるる森岳村あり秋田音頭の檜山納豆を以て有名なる檜山町あり富根驛二ツ井驛亦共に名邑なり溪后坂の奇勝を以て知らるる荷上場村鮎の名産地たる粕毛村は奇景を以て藤琴村は太良鑛山を有するを以て其他東雲羊羹を

以て知らるる東雲村あり鑛山を以て知らるる八森村奇勝を以て名ある岩館馬産地の種梅、常盤村いづれも郡内の名邑なりとす

開墾事業の有望 本郡は開墾の適地少なからざるを以て現時大開墾を企劃しつつあるもの少なからず其の二三を擧ぐれば最も大面積の計劃は二ツ井方面に於ける米代河岸の開墾にて大河内氏の約一千町歩は既に水路の工事完成に近く本年度は八十町歩に對して植立の豫定なり金光寺野方面は總反別五百町歩に對して目下着手中のものは福田秀一氏なり又森岳方面の開墾に着手しつつあるも數人ありて本郡の開墾事業は將來益々有望なり、

梨と馬鈴薯 本郡に於ける長十郎梨の聲價は全國重要な各市場に知られ遠く海外に輸出せられんとするの機運に向ひつつあり年々約五萬貫以上を産出し栽培反別の多きを擧ぐれば榊村の五十町歩淺内村の七十町歩東雲村の四十町歩其他富根、常盤響村等全部の栽培反別三百五十町歩に亘るの盛況なりとす、而して本郡産の馬鈴薯は年々十萬貫以上の産出にて東京及び横濱の貿易商の手を経て遠く南洋及び印度方面に迄輸出せられつつあり、

太良鑛山藤琴川の上流海拔千八十五尺山岳重疊の間に在り道路は川に沿ひ藤琴村

を経て二ツ井驛に通じ此間七里なり本山は今を距ること六百四十餘年前即ち文永元年金堀金治の發見以來今日迄稼行繼續せるものにて、現經營者古河氏の手に歸せしは明治十八年以來にて現今は阿仁の支山たり、

北秋田郡勢概観

地理 本郡は東鹿角郡西は山本郡南秋田兩郡に接し南は河邊仙北の二郡に隣し北は矢立峠を以て青森縣津輕郡に境す東西八里南北十七里總面積百五十九方里餘町村數三十二戸數一萬六千五百五十八人口十二萬四百六十七人著名山嶽には森吉嶽、田代嶽あり河川には米代川、阿仁川、長木川等あり原野には大野臺あり郡内處在鑛泉少なからず有名なるは大瀧温泉、小又温泉、赤湯温泉等なり物産は木材鑛物を主として牛馬其他の特産物多し、

産業概観 本郡に於ける主要物産は大正四年度の調査によれば米産約十六萬四千五百二十石にて價格約百九十萬圓蠶糸は十二所最も多く其額二萬圓繭は十二所大葛東館、澤口、七日市の五ヶ村を主として約十一萬三千七百五十八圓馬は十二所、長木、前田、荒瀬を主として千九百四十頭十萬三千圓木炭は約百萬貫五萬二千圓杉苗

種子は下大野、下小阿仁にて三十五石二千八百圓菅笠は扇田の特産にて十萬三千個の九千二百七十圓木材は民有六萬三千三百六十一尺にて十七萬千八百餘圓樽丸は二十一萬六千個の約四萬圓板類は大館、長木、矢立、扇田方面を主として七十五萬五千餘圓密柑箱類は一萬六千個の貳千九百圓にて下駄材は七日市、阿仁、東館三ヶ村を主として十八萬八千餘個の八千二百七十餘圓果實は真中、釋迦内、大館にて約十萬貫の二萬七千三百餘圓大館名産の曲物は十八萬千餘個の一萬三千圓織物は大館、十二所、鷹巢、落合を主として四萬三千六百反餘にて四萬千餘圓阿仁鑛山の銅型銅は二百十五萬四千餘斤の七十萬二千七百九十四圓にて酒類は大館、扇田、鷹巢、米内澤、阿仁合にて四千六百石の十六萬九千圓大館の漆器は二萬九千七百五十個の九千五百五十圓餘下小阿仁名産の樺細工は八千八百餘個の二千五百圓大館名産の釣針は縣外の需用多く四千四百餘圓に達し逐年増加を示し下小阿仁、下大野、十二所特産の杉苗木は五千四百萬本にて八萬千二百圓餘と扁柏、落葉松、アカシヤ苗木等に約三千五百圓にて總計四百八十萬と稱せらる、

長木澤の美林 日本三大美林の一と稱せらるる長木澤を有するは本郡唯一の誇りなり地は小坂鐵道茂内驛を中心として巨杉鬱茂天日を遮る是れ實に秋田杉の本場なり

り、

阿仁鑛山 本郡處在鑛山少なからず阿仁鑛山は其優なるものなり阿仁合町にありて金銀銅鉛鑛を産す初め向山金銀山を以て起り後寛文十年大阪の商人銅鑛を發見し元祿十五年佐竹藩主の直轄となり幕府直營せんとせしことあり維新後民營官營の變遷あり明治十八年古河家の所有に歸し經營今日に至る、

扇田の菅笠業 本郡の特産物たる扇田の菅笠業は二百年前より發達し來れるものにて原料の産地は隣接の真中村板澤の沼池を最良とし骨にすべき竹は附近に仰いで縣北三郡に供給しつつありしが其の形狀餘りに拙劣なりしを以て數年前當業者を富山縣に派して視察せしめたるより形狀も漸く時代的となり家庭工業として最も有望視せらる

十二所の蠶絲業 維新の際十二所町の士族にして産を失ひて零落し四方に移住するもの相次ぎ民人糊口に窮するの有様となれり然るに山桑の豊富なると土地桑樹の植栽に適するを利用すべく養蠶業を起して以て士族及び農家以外の町民の業として一縷の命脈維持され養蠶業は十二所町の主要事業となるの端緒を啓らけり爾來長足の進歩をなし今日の聲名を馳するに至れり明治三十五年三月協仲社を設立し六十釜

の機械製絲場を建築し各家の繭を集めて之れが製絲に着手せり現在に於ける蠶種製造人は三十四人其總収繭は二百十石なり四十三年六月三有合資會社を組織して蠶種の改善を圖るに努力し製絲場は千葉勝美氏理事長として斯業の發達に努めつつあり

■本郡の諸官衙其他 本郡に於ける重なる諸官衙類は左の如し、

北秋田郡役所(鷹巢) 稅務署(同) 警察分署(同) 郡會議事堂(同) 區裁判所出張所 病院(同) 郵便局(同) 秋田縣農林學校(同) 秋田區裁判所(大館) 郡立圖書

館(同) 秋田監獄分獄(同) 米穀検査支所(同) 病院(同) 大館中學校(同) 郡立蠶

業(同) 講習所(同) 小林區署(扇田、大館、白澤、早口、七日市、阿仁合、上小阿仁)

■重なる都邑 鷹巢町は本郡の中央に位置を占め郡役所の所在地たり阿仁街道の要衝にて他日阿仁鐵道の完通を見るに至らば頓に繁榮すべきや必せり七日市は無烟炭によりて知られ米内澤は阿仁河岸にありて昔時よりの名邑なり鑛山によりて有名なる阿仁合町は鑛山の發展に伴ひ將來最も有望視せらる花岡村には花岡鑛山あり扇田町には淺野製材所あり秋田鐵道會社あり蠶絲を以て有名なる十二所町には更に本縣唯一の大瀧温泉あり更に大館町は本郡第一の都會にて戸數一千七百十四戸人口一萬七百二十三人を有す昔時佐竹一門の居城たりし地にて四通八達の要衝に當り奥羽本

線大館驛を始めとして小坂鐵道の停車場秋田鐵道の停車場二と花岡鐵道の停車場とを有す斯の如く五停車場を有するの地は本縣中大館以外にあるなし以て其の繁榮をトするに足る、四十八銀行支店秋田銀行支店五十九銀行支店電氣會社等あり、

鹿角郡勢概観

■地理沿革 鹿角郡は古への上津野の地にて陸中國に屬し南部家の領有たりしが明治四年十一月秋田縣に編入せらる縣の東北隅に在り東は青森縣三戸上北二郡及び巖手縣二戸郡に接し西は本縣北秋田郡南は巖手縣岩手郡及本縣仙北郡に連り北は青森縣南津輕郡に接す、南北十二里東西七里狹長にして四周連山を以て圍まれ加ふるに丘陵内地に起伏すること多きを以て低地極めて尠なく中央米代河畔低地と各所に散在する狹隘なる溪谷低地を存するのみ又東南北の三方は所謂本州の分水嶺なるを以て深山幽谷甚だ多しと雖も西方は稍々峻峻の度を減せり郡の總面積七十方里河川には米代川 大湯川、毛馬内川、熊澤川、夜明嶋川、兔尻川、砂子澤川、汁毛川等あり山嶽には八幡平、五ノ宮岳、四角岳、中岳、來滿岳等あり原野の重なるものは菩提野及び内野にて湖沼に十和田湖、大沼、白澤沼等あり鑛山には小坂、尾去澤、不

老倉あり温泉には大湯、湯瀬、熊澤等あり産物の重なるものは金銀銅鐵、紫染、茜染、楡梓、松實、通草油、苹果、蔓細工等とす、町村數十戸數九千二百七十戸人口六萬九百九十五人を有す、

官衙所在地 本郡に於ける重なる官衙の所在地は左の如し

鹿角郡役所(花輪町) 稅務署(同上) 警察署(同上) 分署(毛馬内小坂) 小林區署(花輪毛馬内) 大館區裁判所出張所(花輪毛馬内) 郵便局(八ヶ所) 巡査駐在所(各町村)

産業状態 本郡の農業戸數約三千六百五十六商業戸數七百三十四工業三千二百七十七漁業十の割合にて生産額農産九十七萬七千四百八十六圓畜産四萬七千八百七十一圓林産一萬七千八百五十二圓礦産六百六十七萬九千六十二圓水産一萬四千四百八十五圓工産二十五萬六千六百十九圓にて之れを細別すれば米産六萬五千二百二石六十五萬二千四百三圓麥一千七百九十圓大小豆其他の蔬菜類十四萬四千九百四十八圓大麻桑葉漆樹柶柳等にて七千四百七十三圓果實十二萬六千七百七圓の産額八千五百八十圓蠶絲一千六百六十二圓真綿六百四十八圓牛の頭數一千六百三十一頭馬四千二百八十一頭豚百二十五頭家禽九千九百二十六圓産卵四千七百九十八圓なりとす、

▲**鐵山** 本郡の鑛床は分布頗る豊富にて全部殆ど鑛業用地たるの觀あり其鑛種は銅を主とし金銀鉛硫黃等之れに亞ぐ其産額の多き實に全國に冠たり、

▲**小坂鑛山** 本山は文久元年の發見に係り慶應二年南部藩の稼行となりしも中途廢山し後明治三年再興せられて官營となり同十年再び南部氏借り受けて操業したりしも越て同十三年政府に之れを返還し同十七年遂に現鑛業權者たる藤田組の有に歸したるものなり爾來銳意事業の改善を圖り明治三十三年には銀山として經營し貧劣なる銅鑛の自熔法を大成し同三十四五兩年間に於て其の作業上の大工事を完成したる以來鑛産額劇増し東洋一の名聲を博するに至れり、

▲**尾去澤鑛山** 本山の發見は遠く和銅年間にあり初め金鑛の採掘を主とし後銅山となり世の變遷に伴ひ或は民業となり或は舊南部藩の稼行となり連綿今日に及ぶも鑛煙を絶たず蓋鑛量無盡の寶庫と稱せられ明治二十七年十二月甫めて三菱合資會社の有に歸したり、

▲**不老倉鑛山** 明和元年の發見に係り同二年南部藩の稼行となり寛政六年に及ぶ爾來同藩の御留山と稱して採掘を禁じ明治維新の際に及びしが明治二十年十二月古河市兵衛氏の有に歸し事業漸く緒に就き同三十七年には三菱合資會社の所屬畑地鑛

山を買収し併せ稼行し大に業務を擴張したり而かも大正二年に至り所屬製煉所を廢し鐵索を小坂に通じ製煉を擧げて小坂鑛山に托したるを以て目下は採鑛専門の銅鑛山となれり、

▲酒と醬油 本郡の水質は酒の醸造に適するのみならず冬季の空氣清純にして温度の變化甚だしからざるを以て夙に醇良の清酒を産す釀造戸數花輪四毛馬内三大湯一小坂二で年産五千五十七石將來有望なり亦醬油釀造業は花輪町淺利佐助の獨占する所にて其造石高二千石實に隨一の稱あり奥羽六縣中第四位と稱せられ青森方面其他に販路を擴張されつつあり、

■水力の利用 郡の東方一帯は所謂本州の分布嶺に屬し西北南の三面亦重疊の山嶽を繞ぐらし地勢一般に急峻傾斜甚だしきを以て郡内に蒐まる諸川は總べて急湍激流に富み從て米代川本流を始め大湯川毛馬内川の諸川何れも工業上多大の價値を有すと云ふべく其利用宜しきを得んか無限の動力を得ること固より難事に非らざるべし若し夫れ海拔一千五百尺に位置し百億立方尺の水量を包藏する十和田湖を利用する如きあらは其得る所蓋し無邊なるものあらん現今諸川を利用して動力を得つつあるは小坂、尾去澤鑛山の發電所なり、

■重なる都邑 花輪町は本郡の主邑にて郡衙の所在地なり尾去澤鑛山と相接し般賑なる都會として知らる花輪は郡の南部の主邑にて北部の主邑たるは毛馬内町なり小坂の要路に當りて繁榮の都會たり小坂は鑛山を以て知られ大湯は温泉を以て有名なり而して小坂は時代的の設備完きと共に市況の活躍すること郡内第一たり、

河邊郡勢概観

■地勢沿革 本郡は國府を置かれし出羽の河邊(田川郡)と同名異地にて永正年中黒川豊前豊嶋城に居り永祿年中島山玄蕃も茲に居りて豊嶋氏と云ひ郡名も豊嶋郡と稱せしが寛文中河邊と云ひ元祿年中河邊と書せり同郡は縣の西部に位し十四個町村より成り東南は仙北郡に西南は由利郡に北は秋田市南秋田郡に相接し西は日本海に面す地勢は東西に長くして南北に短く其面積四十一方里六八四に過ぎずと雖も僅に東南部に山岳を負ふのみにて他は悉く平坦なるのみならず郡の南北を貫流せる御物川及び東南部の山岳より發する諸川の流域に屬するを以て土地一体に肥沃にして産物尠ならず、戸數五千七百五十二戸人口四萬八百二十二、山岳には高尾山、岩谷山、築紫森、大森山、勝平山等あり、原野には椿臺、御所野岱、小平臺、戸嶋野

大張野、相川野等あり、河川には雄物川、岩見川、三内川、太平川、都邑には牛嶋新屋、和田あり物産の主要なるものは穀菜、海河魚、藁工品、蕨粉等にて特に本郡産の糯米は秋田糯米と稱し北海道其他に歓迎されつつあり、

▲産業▲**▲産業▲** 本郡に於ける農業戸数は兼業ともに計三千六百一十一戸商業は六百七十六戸工業は三百三十六戸漁業三百六十五戸雑七百五十三戸の割合ひよりすれば郡民の半ば以上は農業家にして之れに次ぐは漁業工業商業の順序となり其の趨勢を卜するに足るべきか、而して米産五萬八千九百九十二石畑作物麥約一萬三千百八十二圓大豆二萬九千二百二十八圓小豆六千三百九十三圓大角豆約一千五百圓馬鈴薯三萬八千八百六十一圓蘿蔔四萬二千六百八十三圓青芋一萬九百九十九圓胡瓜七千二百四十四圓茄子八千七百六十四圓漬菜一萬百四十一圓蕪菁一千六百十三圓牛蒡二千四百四十八圓蕎麥一萬五百三十圓甘藍二千三百二圓南瓜一千八百四十七圓菜種二千二百二十一圓蕎麥五百六圓粟七百十九圓合計十九萬一千六百二十九圓工産物に於ては織物三千百二十四圓清酒十三萬三千八百十五圓醬油千八百圓藁工品二萬七千五百七十圓鐵工品二千三十五圓林産物に於ては木材七萬七千七百圓木炭二萬四千二百五十六圓薪材二萬四千五百七圓合計十二萬五千八百六十三圓水産物にありては小鯛甘鯛鯉鮭鱒八ッ目鮎等

を其重なるものとして約一萬三千三百三十圓特産にありては馬一千二百六十一頭牛六百六十頭を産す、蠶絲約二萬二千二百七十七圓飼育戸數二百三十一戸桑園收穫高三十四萬五千五百五十貫價格二萬二千七百七十七圓家禽は産卵ともに一萬五千四百四十圓六十二錢なりとす、
▲重なる都邑▲ 牛嶋町は郡役所處在地にて秋田市と接續し秋田縣測候所あり新屋町は昔毛々佐田又は百三段と云ひて勝平山下に在りしを天長の大震に埋没せしより今の地に移れるものなり現時酒田街道に沿ひ海水浴場の開設以來面目を一新せり特産物としては白玉粉氷豆腐菊海苔清酒繭絲初茸松露等あり雄物川治水工事は勝平山を堀割り河身を運河によりて新屋濱に通せんとするものなるを以て工事完成後は其利用如何によりて遊覽地として將た工業地としての發展期して俟つべきものあらんか和田驛は鐵道沿線に於ける一名邑なり、

仙北郡勢概観

▲地理沿革▲ 本郡は縣の東南に位置を占め東岩手縣岩手郡、西河邊郡、南平鹿郡、北鹿角郡、北秋田郡に境し縣第一の大郡なり、本郡は陽成天皇の頃より山本郡と稱

せしが後三郡(仙北平鹿雄勝)の總稱たる山北又仙北、山乏、千福の稱を用ひ寛文四年辰四月仙北郡と改む面積百七十四方里東西四十一里南北二十一里にて町村數三十九戸數二萬千六百七十七戸人口十三萬八千八百七十八人山岳には神宮寺岳、駒ヶ岳、大深岳、藥師岳、真晝岳、大佛岳、河川には雄物川、玉川、鰻瀬川、毬子川、原野には若林野、小和瀬野、戸伏野、強首野、明天地野、駒場野、高野等あり鑛山の著名なるは荒川鑛山、日三市鑛山、駒木澤鑛山、杉澤鑛山、松葉鑛山、坊澤鑛山等あり湖水には田澤湖あり而して鑛泉の重なるものは鶴の湯、蟹の湯、黒湯等なり、都邑には大曲、角館、六郷、刈和野、神宮寺、金澤等ありて物産の主要なるものは米、穀、杉、馬匹、漆器、樺細工、鑛物等なり、

■産業概観 本部の主要輸出物としては米の年額百三十九萬八千六百圓を主として絹布類三千五百五十圓漆器五千六百圓銅百三十九萬三千七百二十五圓木材及板類十九萬二千圓蠶絲四萬五百七十二圓木製品九千五百圓鐵製品九千六百圓清酒十三萬三千五十圓醬油一千八百八十八圓馬匹一萬九千八百五十圓なり、

■生産額 本部に於ける作付反別田二萬一千四百町歩にて收穫二十七萬九千九百四十三石價格四百七十四萬九千三百三十一圓にて畑六千五百十八町にて價格四十八萬三

千六百十圓工産物に於ては生糸四千五百七十二圓樺細工一萬二千圓清酒二十二萬一千七百五十圓醬油一萬三千六百圓漆器八千五百四十四圓木製品一萬二千四百五十圓銅百三十九萬三千七百二十五圓金銀細工六百圓鐵製品一萬二千圓水産にありては鮭三千五百九鱒一千二百二十七圓鮎百二十二圓千二百八十五圓鮒七十二圓鯉四百五十二圓鯔九十六圓計五千八百三十八圓牛一千六十一頭馬一萬一千八百八十三頭桑園反別九百四十四町八反歩繭産十一萬六千六百四十七圓なりとす、本部は農産地にて其の改善と研究とは年毎に進歩の跡歴然たり特産物の著るしきものは角館の樺細工と六郷の葡萄酒等なり、鑛山は處在少なからず近時鑛業熱盛んなると共に斯業また將さに盛大を來さんとしつつあり、

▲荒川鑛山 元祿十三年の發見にて元文三年佐竹藩主の稼行となり寛保三年に至り廢坑となりしを明治四年境村祠官物部氏の復興する處となり六年七月東京岡田平三外三名の共有に歸し七年五月京都小野善助に轉じ十二月秋田縣の假官行となり之れより稍鑛業の面目を改め八年十一月工部省鑛山寮院内支廳分局の所轄となり九年十月盛岡の商人瀨川安五郎拂下を受け漸次事業を擴張し撰鑛法其他に洋式を加味したること少なからず二十九年五月三菱合資會社の有となり爾來繼續今日に及び主要

鑛物は黄銅鑛にて副鑛物は石英黄鐵鑛、赤鐵鑛及綠泥石等なり日三市は荒川の支山と稱す、

諸官衙公衙其他 本郡に於ける重なる官衙其他の公衙は左の如し、

陸羽支場(花館) 種馬所(神宮寺) 區裁判所(大曲) 縣立農學校(同上) 大曲分

監(同上) 小林區署(同上) 稅務署(同上) 警察署(同上) 郡役所(同上) 仙北

銀行(同上) 池田銀行(刈和野) 水力電氣會社(角館) 郡會議事堂(大曲) 郡立

圖書館(同上)

農事試驗場陸羽支場 花館村に在り大曲を距る僅に四丁餘なり明治二十九年七

月六日の創立にて山形、秋田、青森の三縣は其管轄區なり

秋田種馬所 神宮寺村に在り明治三十年七月の創設にて縣下二十ヶ所に種付場

を設け優良牝馬に種付しつつあり、

大曲町 郡内第一の主邑にて戸數一千四百七十一戸人口八千八百六十四人を有す

維新當時は僅に四百戸の一小僻村に過ぎざりしが漸次繁榮して一千餘戸の戸數増加

を見るに至りしは一は郡の中樞地として諸官衙の設置ありしと一は鐵道敷設前に於

て鞠子川より雄物川に出で土崎港に至る舟楫の便ありしより貨物の集散商業の燒點

として交通運輸の利を得たるに依る。

其他の郡邑 樺細工を以て有名なる角館町は本縣三勝の一たる田澤湖觀光街道の

要衝に位置を占め仙北郡北部の一小都會地なり風光の秀勝相類するを以て小京都の

稱あり水清き六郷町は遠がに醸造地として知られ近時果樹の栽培盛んにて六郷産の

葡萄酒は有名となれり、金澤町は古蹟地たるを以て有名にて刈和野町は根本羽嶽先生

の生誕地たるを以て知らる、神宮嶽を以て名あるは神宮寺町なり、高梨村は縣内の

富豪池田文太郎あるを以て有名なり

特産物と町村 本郡産の特産として知らるる其重なるものを擧ぐれば大曲町の蘭

蓆(二千四百圓)萬石通し(二萬二千圓)藁工品(千五百圓)花館村の紙(五百圓)苗木類

(五千圓)北檜岡村の干草(二千圓)刈和野町の箕帽子(三千圓)大澤郷の蕨澱粉(二千

二百八十六圓)長野村の石材(二千圓)角館町の絹織物(六千圓)樺細工、菅笠(二千五

百圓)春慶塗(七千圓)檜木内村の紫蕨(二千五百圓)蕨澱粉(三千五百圓)豊岡村の陶

器(千五百圓)金澤町の蘭蓆(三百圓)石材(四千圓)六郷町の草履類(六千圓)

平鹿郡勢概観

▲▲▲地理沿革▲▲▲ 本郡は縣の東南部に位し北は仙北、南は雄勝、西は由利の三郡に包まれ東は岩手縣和賀郡に通ず、國道は南北を貫き縣道は東西に分れて岩手縣黒澤尻及び由利郡本莊に達す平鹿雄勝二郡は天平三年に始めて置かれたる地名にて一時平苅の字を書せり平所の意なりともアイヌ語のピリカ(美麗)の意なりとも上古平瓮を貢せしにも由ると云ふ(眞澄の雪の出 羽道にあり)東西十五里南北七里面積四十方里あり明治二十二年町村制を施かるるに及び郡内を二十五ヶ町村に分てり戸數一萬四千七百七十二戸人口十萬百六十一人山嶽には保呂羽山、明澤山、御嶽山、南郷山、河川には雄物川、皆瀬川、旭川あり都邑には横手町、角間川町、増田町、淺舞町等あり物産の重なるものは米穀、生糸、羽二重、牛馬、清酒、煙草、絹木綿、染綿木、絞、柿等なり、

▲▲▲産業概観▲▲▲ 本郡に於ける耕地反別一萬三千二百九十五町八反畑二千六百三十一町一反にて米産糧二百五十二萬九千七百八圓糯十五萬五千五百五十三圓収穫約二十三萬五千石麥四百二十八石四千二百八十八圓大豆五千二百七十七石四萬七千三百一十一圓小豆一千四百七十七石一萬二千百圓蕎麥一千八百一石九千四百五十三圓粟一千七百五十七圓

一萬八千八百圓馬鈴薯三萬六千八百五十二圓果實十五萬三千五百五十二圓計二百九十五萬九千四百九圓清酒約十九萬三千圓綿織物十四萬圓染木綿二十七萬圓筆三千圓(以上横手町) 苹果五千七百圓清酒二十萬二千五百圓生糸二十四萬三千六百十圓醬油一萬七千五百五十圓(増田町) 生糸二萬三千六百十圓木炭一千五百圓繭二萬三千七百圓(山内村) 清酒三千六百圓(里見村) 繭二萬四千九百圓(植田村) 繭一萬八千七百圓(福地村) 繭二萬九千五百一十一圓(睦合) 桑十三萬九千八百四十七圓家禽五萬九千三百七十九羽産卵六萬一千五百五十七個家畜牛三百八十五頭馬四千四百四十八頭豚九十四頭を有す水産にありては鮭鱒鮎鯉鰻鱺等にて年産二萬圓工業にありては硝子一萬五千圓陶磁器二千四百圓挽材四萬二千二百三十五圓製綿二萬二千圓味噌一萬圓醬油一萬七千五百圓なり全郡の戸數を職業別とすれば農業戸數以外業工三千戸商業四千百十三戸本郡は商工業の最も發達せるを知るに足る、

▲▲▲陸羽横斷線と横莊線▲▲▲ 本郡には縣下多年の宿望たりし横手黒澤尻間の輕鐵線本年度より起工せられんとするあり更に横莊鐵道は横手本莊間に敷設せられんとするあり斯くて完成の曉は鐵道によりて四通八達の要衝となり産業界の面目頓に一新せらるべく最も有望の位置にあり、

官公署 本郡の官公署としては左の數種を有す、

平鹿郡役所(横手) 横手分監(同上) 裁判所支部(同上) 區裁判所(同上) 同出

張所(四ヶ) 稅務署(横手) 警察署(同上) 分署(三ヶ) 郵便局(十三) 米穀檢

査所支所(横手) 巡査駐在所(二四) 縣立中學校(横手) 郡立圖書館(同上) 實

科女學校(同上) 幼稚園(同上)

銀行會社 産業機關としての組合二十四ヶ會社五十を有す而して銀行には

五業銀行(横手) 安田銀行支店(同上) 秋田銀行支店(同上) 平鹿銀行(角間川)

五業銀行支店(同上)

軍馬購買地の横手 本邦の軍馬購買地は岩手縣其首位を占め次ぎは本縣横手にて

一年約三萬圓の賣上げ高を算し二百七十餘頭を越ゆるの盛況を呈す從て駒積の騾も

盛大に行はれ年々約二萬圓内外の賣買あり、

縣内一の染織業 横手の染織業は舊藩時代名産の一に數へられしものにて就中横

手絞りは古來有名なり明治三十年頃より研究を重ねて從來の粗製濫造を革め新式の

染方に注意し一方機械器具を購入して徐々發達を謀りし結果其進歩迅速にして年産

五十萬反約四十萬圓を算するに至れり、而して捺染と稱するは原料を名古屋より購

入し之れに加工するものにて年産三十萬反頗る好評を博しつつあり、

重なる都邑 横手町は郡内の主都にて戸數二千六百二十八戸人口一萬五千八百五

十八人を有して上三郡唯一の要衝に當り繁榮日と共に盛んなり商業工業の隆盛縣内

匹敵するの地なし陸羽線横莊線全通の時代は更に一大發展すべきや必せり織木綿の

外に筆柿等の名産あり角間川町は郡内第二の都邑にて富豪軒を並べて昔時は上三郡

の米穀集散地たりしなり淺舞町は農と養蠶とを以て聞え縣南花の名勝の一たり増田

町は醸造地として有名なると共に眞人公園の勝あり山内の蔬菜榮醜酬等の果樹殊に

櫻桃の産出を以て有名なり、

雄勝郡勢概観

地理沿革 本郡は縣の東南に位し南は宮城山形兩縣に東は岩手縣北は平鹿郡に西

は由利郡に境し地勢東西に長く南北に短く面積七十四方里六四にて町村數二十五戸

數一萬二千二十九人口八萬六千八百六十八人山岳には東安山、鑄岳、杉嶺、小安岳

高松岳鑛山には院内、松岡、田子内鑛泉には泥湯、小安湯、稻住、湯の澤等あり、

河川には御物川、役内川、高松川、皆瀬川等あり、物産の重なるものは金銀銅、繭

絲、煙草、漆器、餛飩、串柿等にて縣下蠶絲業の本場と稱せらる、本部は昔時藤原秀郷の裔小野寺四郎重道の領有たり後世に至り大部は久保田藩に一小部は岩崎藩の領有に分たれ明治四年一月十三日久保田藩を改めて秋田藩と稱し次て同年廢藩置縣の際秋田藩を秋田縣岩崎藩を岩崎縣と改められ同年十二月秋田縣治の下に歸せり、

■産業概観 本部の米の作付反別は八千三百八十五町歩にて收穫十三萬九千九百二十五石を平年作平均とす麥は作付反別二十一町二反歩にて二百八石七斗なりとす其他の農産物としては大豆三萬二千五百五十圓小豆七千二百二十四圓蠶豆三百六十圓豌豆一千七百七十四圓大豆二千五百六十五圓粟二萬二千二百二十四圓稗二百五十圓黍六十圓蕎麥二千六百六圓胡麻二百六十七圓玉蜀黍一千三百九十一圓甘藷八十圓馬鈴薯四萬二千五百圓青芋七千六十圓生百合三千七百六十三圓漬菜一萬三千四百七十四圓芹百二十四圓甘藍五千二百九十二圓蘿蔔三千九百三十圓蕪菁一千四百六十圓胡蘿蔔一千九百八十九圓葱五千七百九十三圓牛蒡九千三百八圓南瓜二千七百七十圓西瓜六千二百十三圓甜瓜三千六百六十圓胡瓜一萬七百五十五圓茄子二萬六千四百四十九圓蕃椒及落六十圓大麻六千圓麻苧四百圓葉藍三千二百十九圓漆樹一萬四千七百六圓楮三千圓蘭一千二百五十圓にて果實五萬六千三百五十六圓其内梅、桃、櫻桃は四千圓以上梨

は六千圓以上柿は本部の名物にて三千五百圓苹果一千圓以上林檎(日本種)七百圓榲桲四百八十圓葡萄七百圓栗六百七十圓胡桃五百圓杏及び李四百八十圓須具利二百五十圓棗五十圓にて製茶三百圓内外製藍六百圓葉煙草は東成瀬、三梨、皆瀬地方にて一萬五千圓以上なり、家禽雞一萬二千五百九十五圓其他二百圓雞雛五千四百四十六圓其他三百二十五圓産卵雞二萬五千三百二十八圓其他百九十八圓なり、水産の部にては横堀小野稻庭に於ける鯉二千六圓横堀の金魚二千七十六圓なれども横堀町民にて他町村に於て養殖する四十九町二歩よりの産額九千三百圓を合すれば壹萬一千三百圓にて此他の水産物約二千八百九十五圓なり、蠶業は本縣の本場と稱せられ桑十八萬九千五百八十五圓春蠶三十九萬四千九百三圓夏蠶八千八百九十四圓秋蠶六萬百四圓蠶絲五十六萬六千七百七十八圓真綿一萬五千五百二十圓家畜牛一千二十三頭馬三千五百五十七頭豚四十三頭年出産の歩合は牛百五十三頭馬百八十頭豚五十一頭の割合なり二歳駒糶場に於ける出場頭數二百二十頭價格一萬一千七百七十二圓年馬の成績一萬八千四百圓林産にありては丸材六萬九千九百七圓角材三千八百三十二圓挽材五千百六十圓下駄材九百八十九圓板材八百五十圓木羽類一千七十五圓木炭十二萬八千六百六十二圓薪材六萬六千七十二圓杉皮三千十三圓椎茸百八十八圓菌類一千二百四十八

圓獸皮百九十五圓樹實三百六十一圓自然蔬菜一千四圓計二十七萬四千七百五十六圓工業にありては湯澤の絹織物九千四十五圓雄勝製絲場の生絲二萬六千四百七十圓湯澤木工場の挽材十三萬四千四百三十三圓木材會社の曲木細工三萬七千七百三十九圓雄西挽材會社の挽材三萬圓白土四千三百圓岩崎の素麵餛飩二萬五千圓清酒は縣内一の醸造地として知られ三十四萬七千四百六十四圓石數七千七百四十一石醬油一千四百三十三萬六千十圓漆器は川連獨占の製造にて十五萬三千四百五十圓を産す織物は如上以外に絹織一萬五千六百四十五圓粉麵類如上の分ともに六萬二千圓工産雜物五萬九千三百三圓なりとす、

■諸鑛山 本郡處在鑛山豊富にて院内鑛山及び松岡鑛山を主とし田子内、大倉、増田等其他枚舉に遑あらず、

■三關風穴 明治四十一年の創業にて湯澤驛より約一里十町三關村役場所在地たる關口の東方僅に二十餘町を距るのみにて通行便なり同風穴は既往三ヶ年間の實績に徴するに氣溫激暑の時季と雖も三十八度を昇らず溫度亦適度加ふるに其設備構造完整したるを以て改正蠶糸業法の規定に照らすも些の欠如せる所無し嘗て其實地視察せられたる農商務技師も其溫度に於て其設備に於て他に比肩すべきもの極めて稀なり

りと稱せられたり、

■川連漆器 元和寛永の頃信州京都地方より來れるもの製造を始め其後文化文政の頃に至り従業者漸く増加し京都方面より繪具等の取引を許され技巧も漸次進みたり又天保の飢饉に際し土地の百姓が他に離散するの慘狀を來たし若松方面に往きたるもの偶々板物師を同伴歸來せる以來其技術を傳授し丸物角物類を製作するに至れり後嘉永二年蒔繪師會津より來り蒔繪漆器之れより製出を見明治十三年頃に至り漸く川連漆器の名を社會に知らるるに至れり爾來長足の進歩をなして現今十五萬三千圓の産出を見るに至れり微々たる一閑村の産出としては實に驚くべしと云ふべきなり(此項復出)

■曲木工藝 秋田木工株式會社の製作するものにて同會社は明治三十九年九月の創立に係り雜木利用の新生面を闡らけるものなり原料は掬を主とし檜、杉、榿、樺、櫻、壽香樹、白楊等にて年産約三萬七千七百三十九圓なり、

■重なる都邑 郡衙の處置地たる湯澤町は清酒の全國有数の稱あるのみならず養蠶業は百餘年前より開らけて本縣唯一の稱あり而して本縣唯一の曲木工藝品は更に一の名産たらんとす郡會議事堂あり圖書館あり警察署あり區裁判所あり小林區署あり

銀行には雄勝銀行、湯澤銀行、雄勝貯蓄銀行の三あり郡立蠶業講習所あり工業地として將來益々有望なり岩崎町は醸造地として知らる川連村は漆器を以て知られ横堀町は鯉魚の養殖地として知られ院内は鑛山を以て稲庭は餛飩を以て信淵翁の生誕地たる西馬音内町小野小町の小野村等いづれも特色を有して本郡は鑛山地として將た温泉地としても全國有數の稱あり湯澤愛宕山の櫻花は鐵道沿線の勝として夙に其名高し。

由利郡勢概観

▲▲▲**地理沿革** 本郡は縣の西南に位し西南は山形縣飽海最上の二郡に界し東は本縣仙北郡、平鹿郡、雄勝郡に北は河邊郡に接し西は日本海に瀕し東西八里南北十七里面積七十四方里河川には子吉川、石澤川、芋川、白雪川等あり山岳には鳥海山、稻村岳、觀音森、八汐山、日住山、甌嶽、黒森、原野には冬師野、西由利原、南由利原東由利原等あり港灣には古雪港、平澤港、象潟港、金浦港等あり瀑布には本瀧(一三五尺)白糸瀑(九五尺)奈曾瀧(七〇尺)ホツタイ瀧(一六五尺)等あり海陸の産物多くして其重なるものは米麥、馬匹、生魚、鐵鑛、石油、清酒餛飩、白玉粉等にて戸

數一萬五千五百三十六戸人口十萬二千八百三十八人を有す、本郡は古書に由理と書せしが如く其一郡となりしは賴朝時代の由理八郎よりなれりと傳へらる八郎の子孫鳥海氏と干戈を交わて争亂絶わざりしを以て里正相謀りて鎌倉に陳情せしが應仁元年足利義政十二人の武士を下して之れを分領せしむ之れを由利十二頭といふ慶長後全部最上義光の有に歸せしも元和三年之を沒収せらる六郷氏は本莊、岩城氏は龜田仁賀保氏は平澤、生駒氏は矢嶋を分領して維新の際に至る廢藩置縣後秋田縣に編入せられ今日に及ぶ、

▲▲▲**産業概観** 本郡は本縣内に於て鐵道の敷設なかりし唯一の郡として産業の振興上頗る遺憾とする所なりしが近く羽越沿岸線起工せられ横莊私設鐵道の起工も近きて彼の陸羽横斷線と相聯絡せんとするの機運に際會し將さに大に新生面を拓らかんとしつつあり今其の産業状態を略記せんに全郡の農養戸數は九千八百一十一戸漁業六百二十七戸工業九百七十八戸商業九百九十六戸の專業者を有すると共に兼業者は農業にありては三千六百六十五戸漁業七百四十二戸工業七百九十戸商業一千六百三戸の割合にて農産物にありては計參百六十六萬九千七百五十三圓其内米産額十七萬七千五百七十九石三百十萬七千六百三十三圓麥六萬五千圓大豆二十萬三千二百圓小豆二

萬七千八百三十二圓豌豆四千二百二十五圓大豆三千九百七十八圓粟三千九百六十圓黍一千六百八十八圓蕎麥四千八百九十圓甘藷二萬五千四百二十五圓馬鈴薯三萬八千八百五十七圓奇芋一萬七千四百三十七圓漬菜一萬二千六百二十圓甘藍五千九百二十八圓蘿蔔四萬四千四百圓蕪菁五千七百七十二圓葱八千六百四圓牛蒡七千三百圓南瓜四千五百七十九圓西瓜七千二百圓甜瓜六千六百圓胡瓜八千八百八十三圓茄子二萬三千三百三十六圓筍六千五百八十圓菜種一萬一千八百五十圓大麻五千二百二十圓藺四千二百十二圓其他の農産八千五百四十九圓之れ其の農産の概観なり、工産物としては竹製品七千六百五十九圓絹製品千四百五圓金銀細工一千四百四十二圓銅器一千六百六圓鐵製品一萬四千八百四十圓指物類四千五百三十七圓履物類四千五百五十六圓藁工品五萬一千二百七十圓其他一千四十五圓鹽表三千四百二十一圓蕪産四百圓清酒二十五萬四千二百二十九圓燒酎八千四百五十一圓味噌一萬七千七百十六圓醬油二萬九千六百四十九圓計三十九萬七千四百二十六圓なりとす、鑛産は仁賀保方面の石油十八萬二千圓を産するに過ぎざれども採掘盛んになると共に將來最も有望視せられつつあり、水産約十萬八千九百三十九圓にて其重なるものは真鱈の二萬九百五十圓鱈の一萬四千四百十七圓鰈の一萬八百二十二圓鮭の九千七百二十圓鮭の六千五百五十一圓鱒の

四千九百九十圓鰻五千二百二十圓鮪の二千二百圓鯖の二千六百十五圓小鯛の二千八百七十二圓鱒一千九百三十圓鯛の一千八百十圓鮫の九千百圓白魚一千二百六十七圓八ツ目一千八百六十圓烏賊の千四百一十一圓鮪の九百二十八圓其他海草類の一千圓特産たる牡蠣は百四十八圓に過ぎざれども養殖其宜しきを得れば將來有望の特産物たるべしなり、果實にありては其重なるものは梨、林檎、苹果等にて特産無花果の産額少なからず、林産額六十八萬五千二百三十七圓養蠶五萬六千二百五十五圓畜産にては牛三百九十九頭馬一萬二千三百三十一頭家禽五萬九千三百羽等とす、

官衙公衙其他本郡に於ける官衙其他は左の如し
 由利郡役所(本莊町) 區裁判所(同上) 事務所(同上) 小林區署(同上) 警察署
 (同上) 分署(龜田、象潟、矢嶋) 郡立圖書館(本莊) 産米検査支所(同上) 農
 事試験場(同上) 縣立中學校(同上) 本莊銀行(本莊) 安田銀行支店(同上) 秋
 田銀行支店(同上) 四十八銀行支店(同上)
 郡邑概観 本莊町は一部の主都にて羽越線横莊線の開通と共に將來の發展期して待つべきものあり桑酒、諸越、無花果、羊羹、芭蕉煎餅等は其の名物なり、矢嶋町は醸造地として知られ矢嶋酒の名聲喧傳するや久し紫麻織の龜田町は綿織物を以て

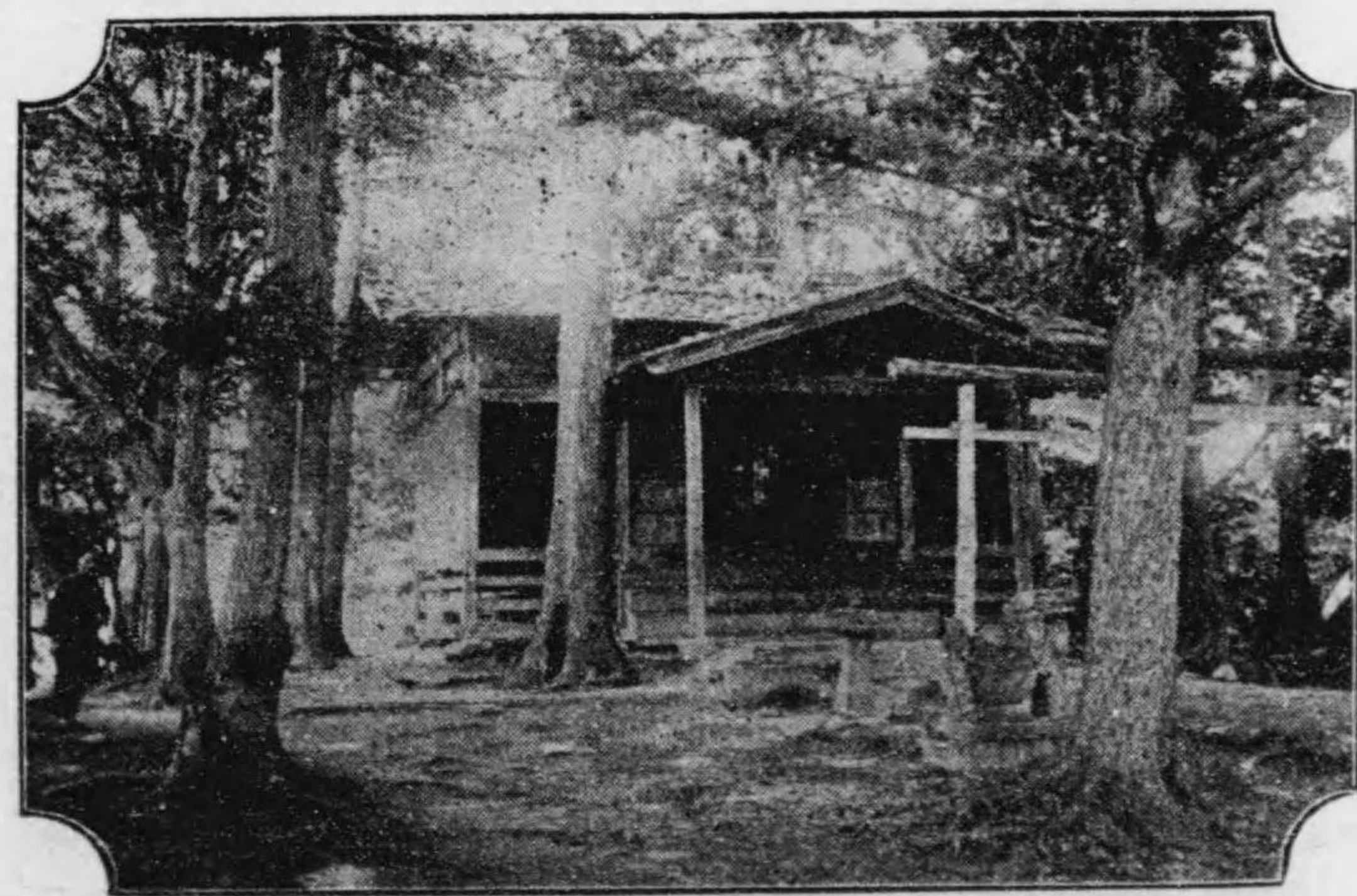
横手と相稱せられ、鯉鮓は稻庭と相對の稱あり、海水浴の平澤象潟地方は鐵道開通に期待せらるること頗る多きを覺えらる

景勝の秋田

■山水總説 本縣は景勝の地として山にも水にも風韻の饒かなるを誇りとしつつあり、今之れを地勢上より觀察するに西方日本海に面して七十餘里の沿岸線を有するも所謂長汀曲浦の優艶なる風趣乏しく北岩館の海岸より男鹿半島の周圍に多少の屈曲あれども南方三崎岬角に至る間沙濱弦の如くに約五十里が間洪濤の響ただ轄々たるのみ、而して平澤灣より三崎岬に至る間に多少の景趣之れ無きにあらざれども平澤灣より北船川港に至る間は森茫渺漫たる海の眺めの雄大なるの外沿岸には何等の多奇だもなし、然れども七百三十四方里の面積を有する疆域は道がに山嶽の美に富み其東境には中央火山脈を負うて幾多の峻峯攢列し南北兩界も亦峯巒重疊を極め地勢概して東より西に陵夷すれども中央火山脈の兩脈は縣内に走りて中央に森吉山、太平山等の山嶽を形つくり或は男鹿山脈となり八郎湖を隔て、半嶋を爲し地層は第



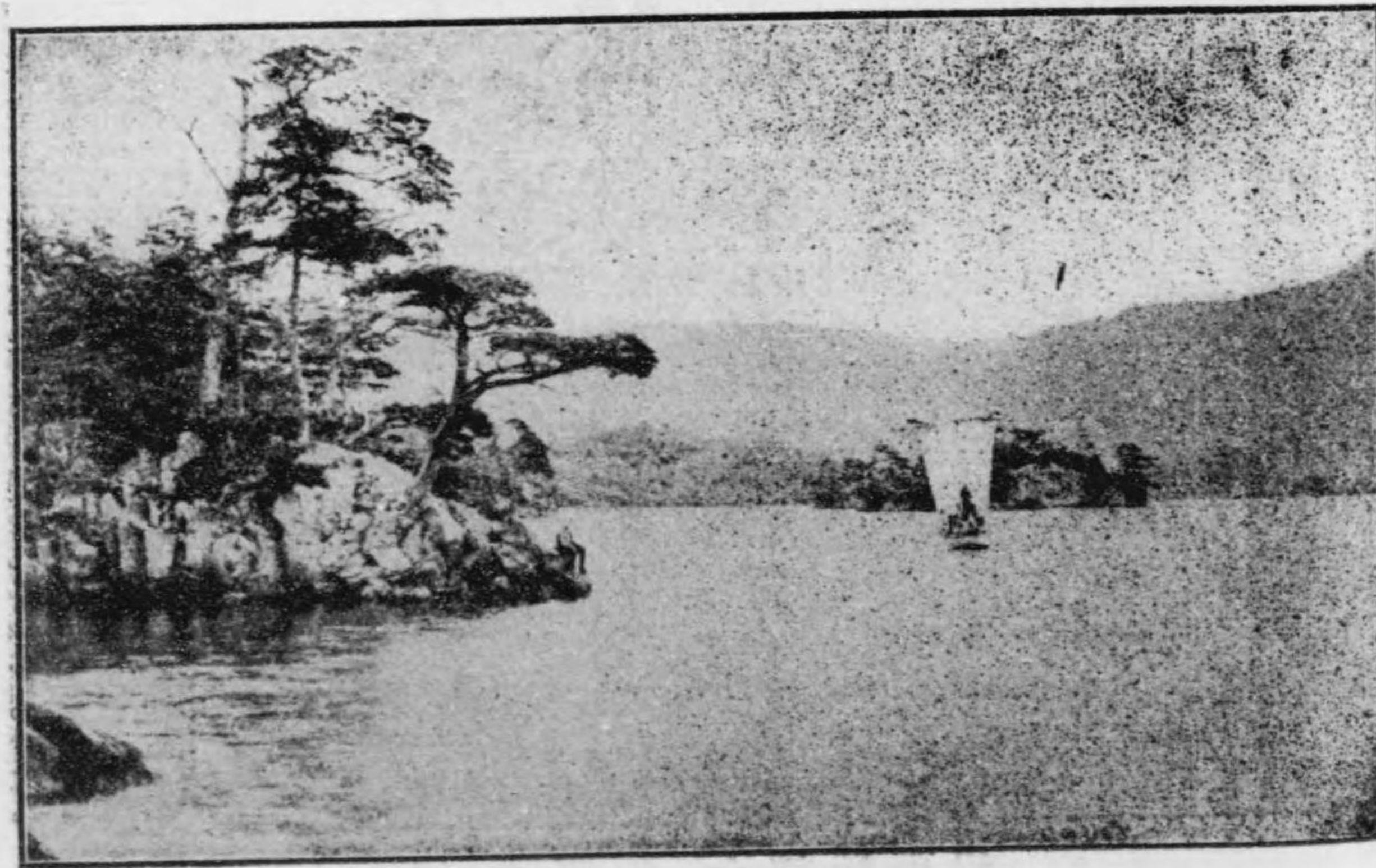
寺 滿 蚶 潟 象 郡 利 由



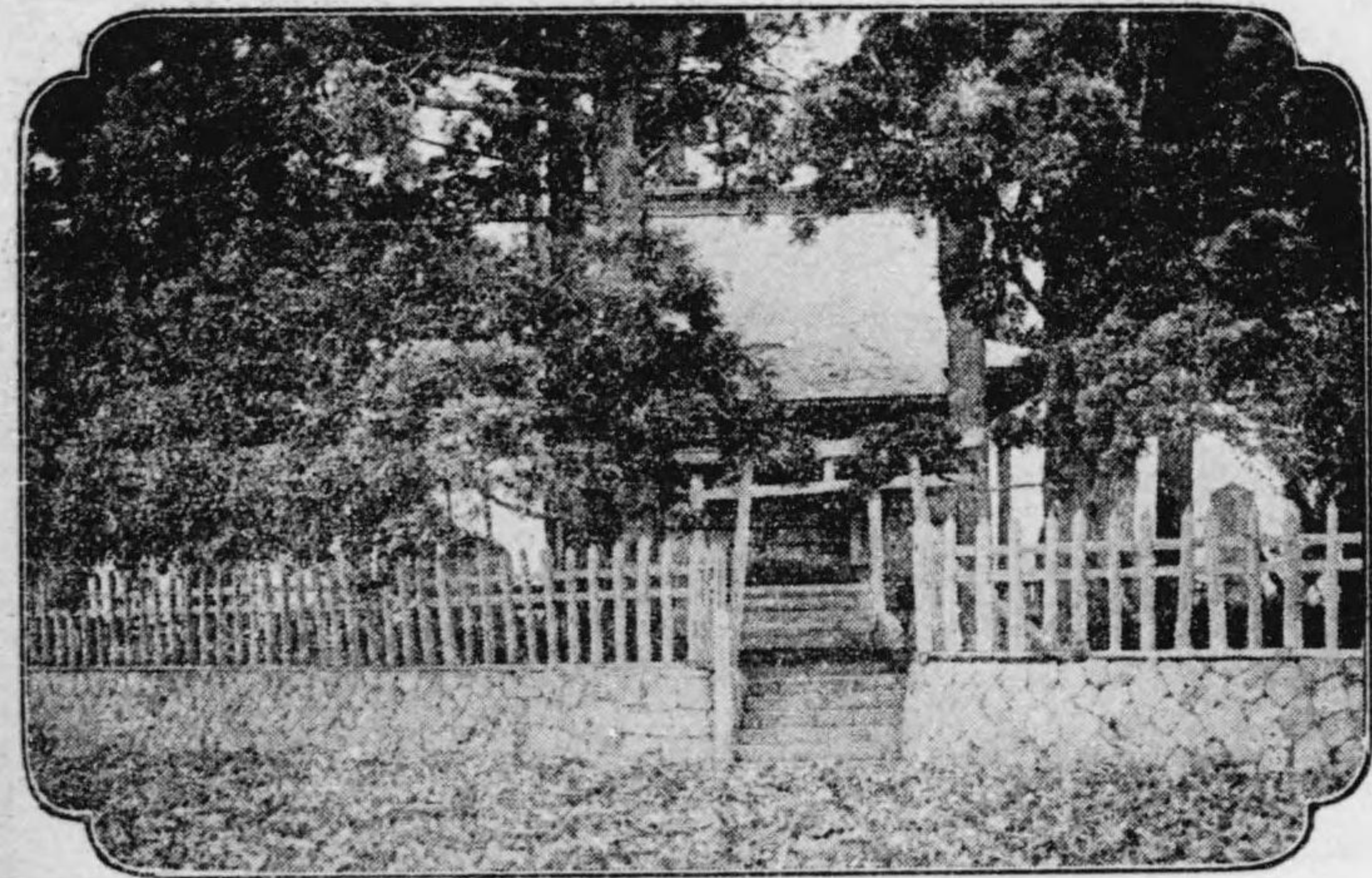
社 幡 八 衡 泰 村 田 井 二 郡 田 秋 北



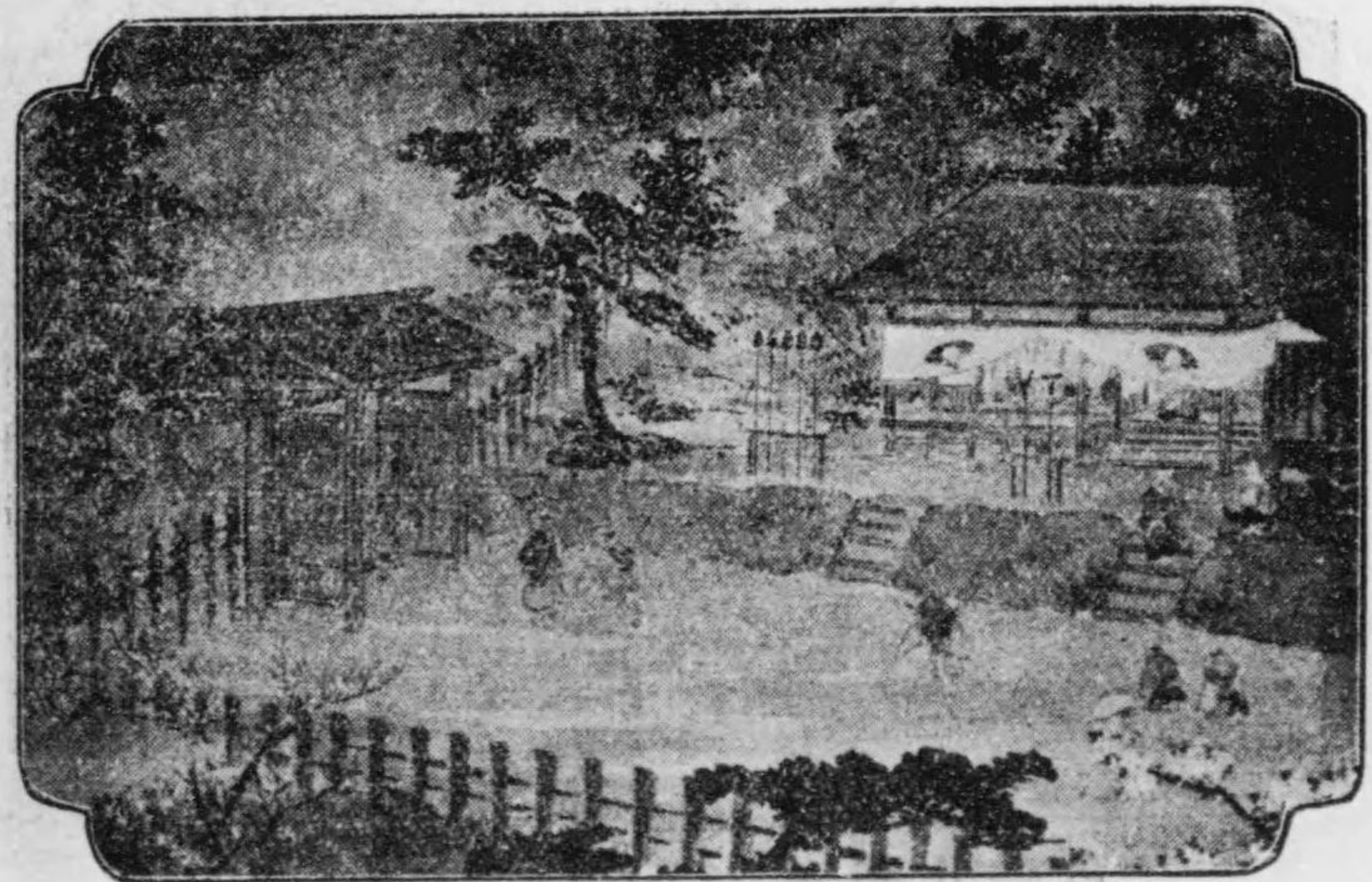
松の上尾 湖田和十



嶋 鏡 同

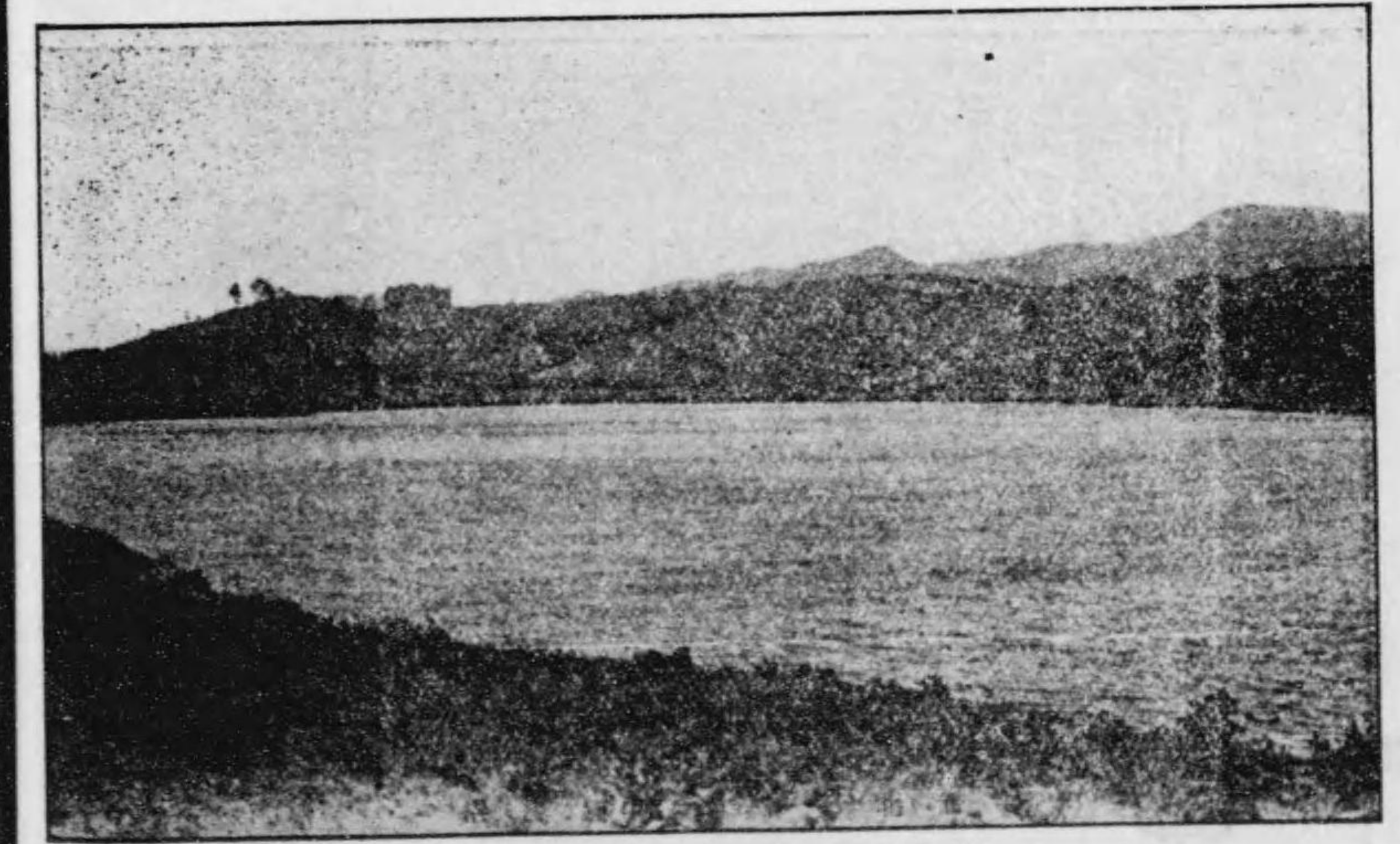
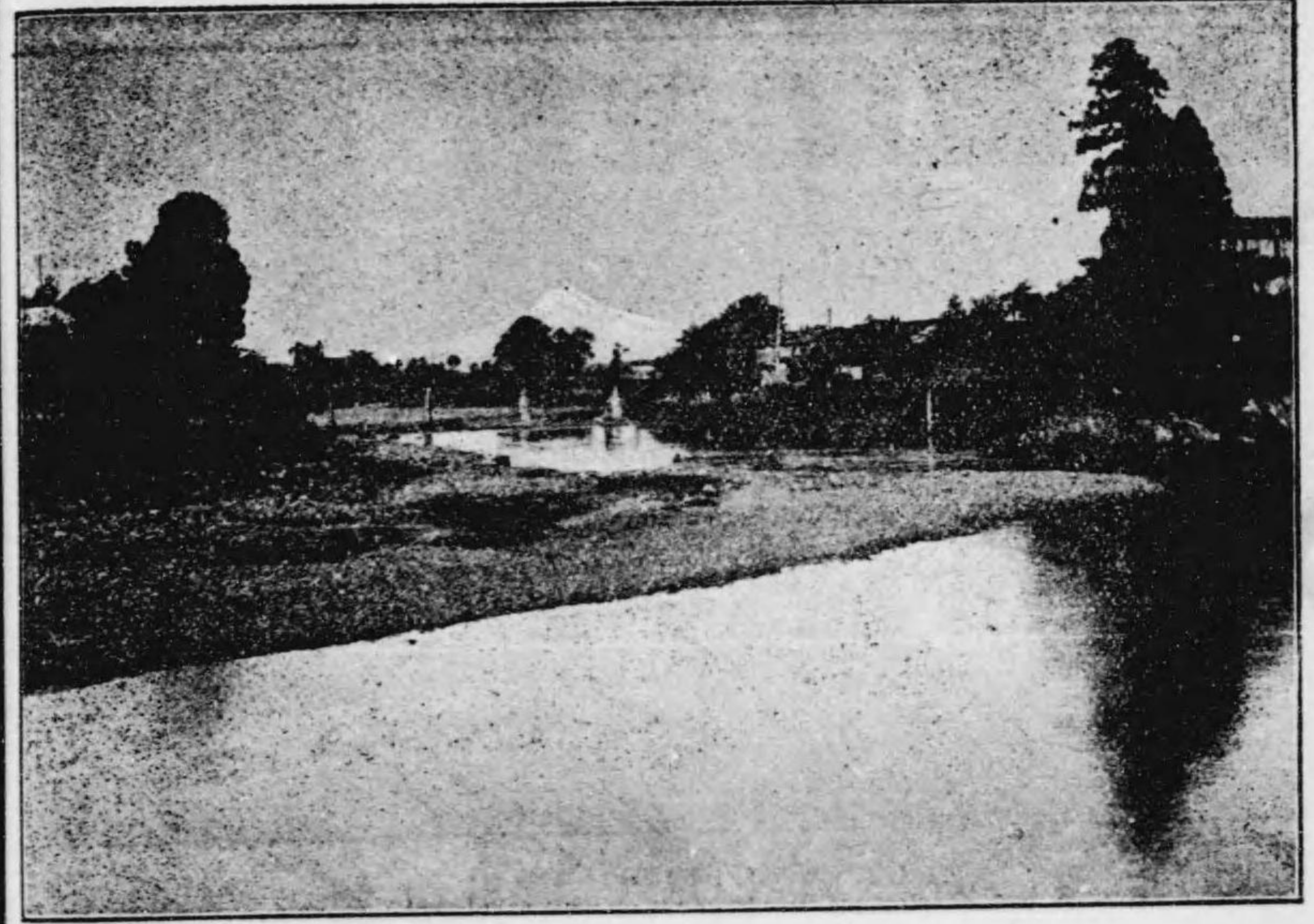


社 神 賀 猿 村 木 錦 郡 角 鹿



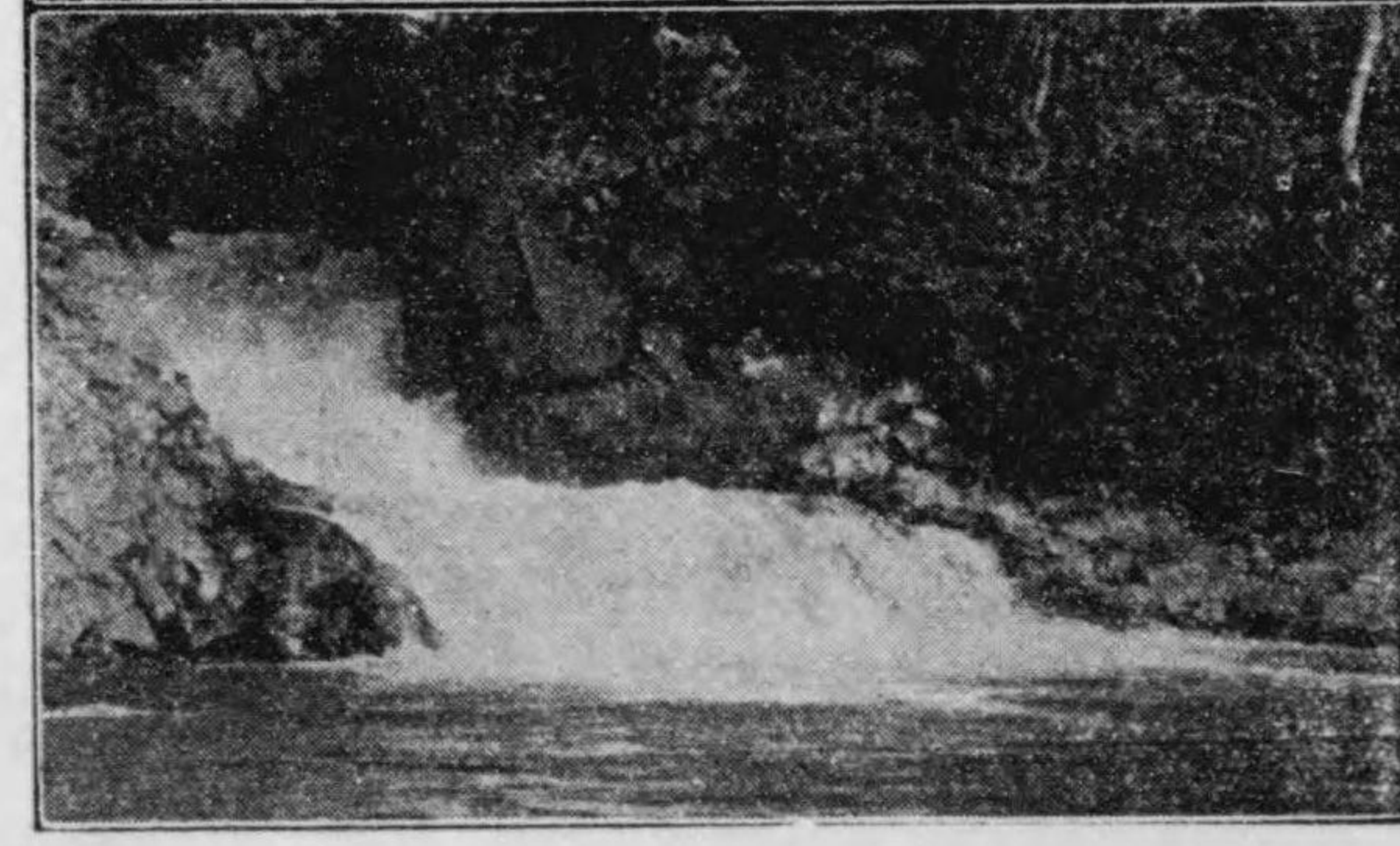
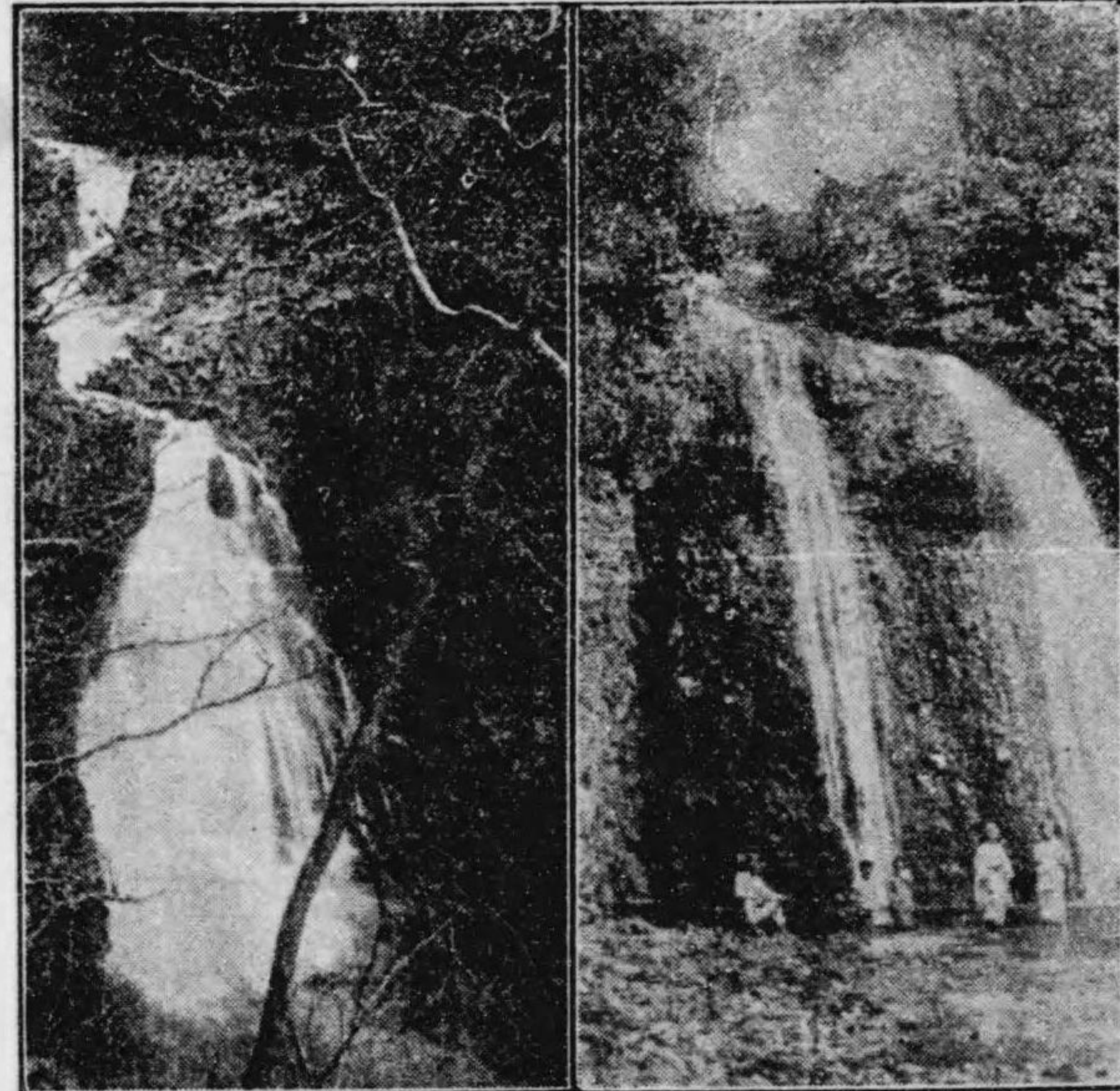
昔の 關内院 町内院 郡勝雄

横手町富士見庵より鳥海山遠望



沼藻蛭澤金 郡北仙

鳥海山中 ほつたいの瀑布



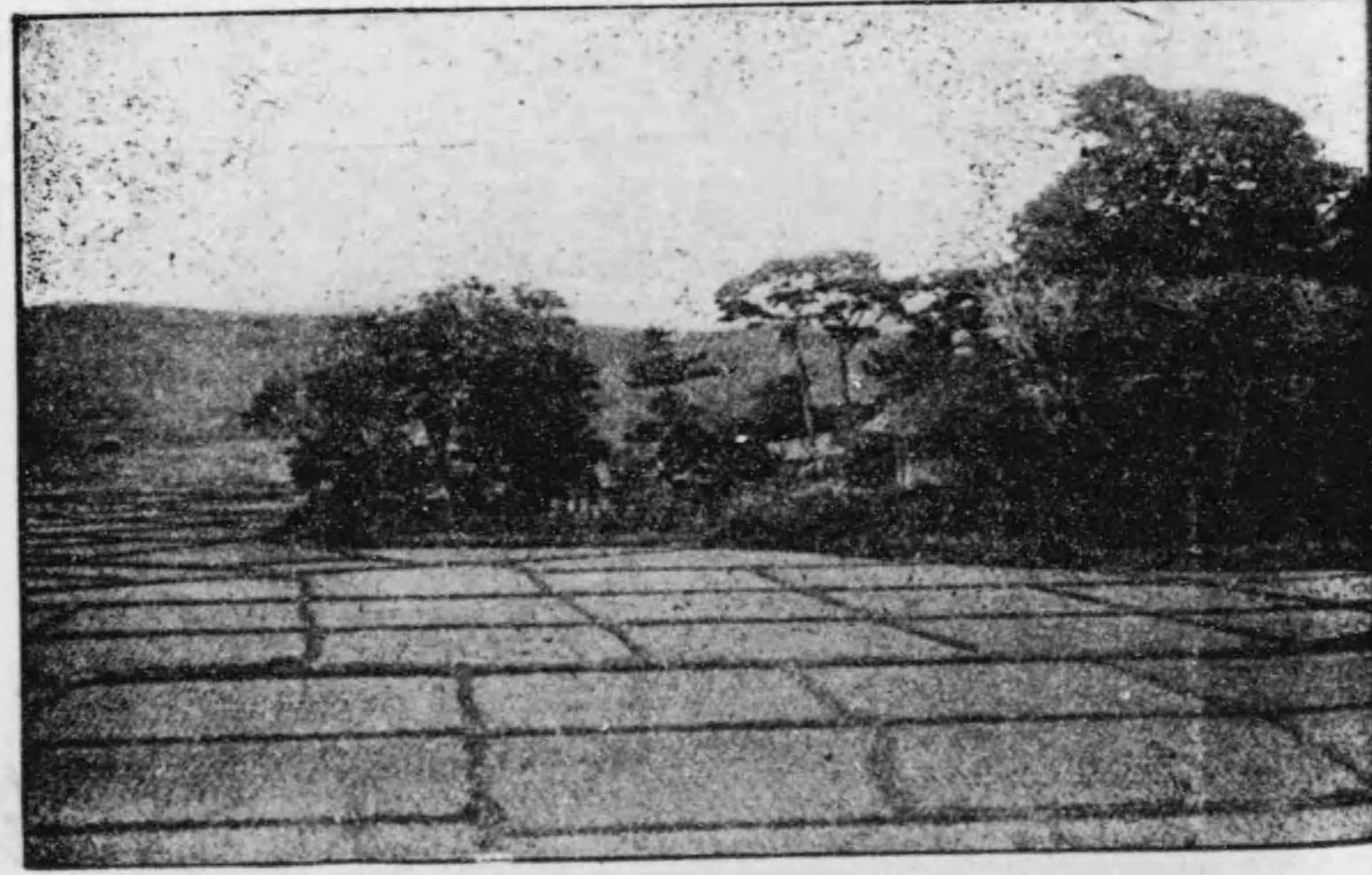
瀧 中 村 湯 大

山本郡椿中瀨 白瀧





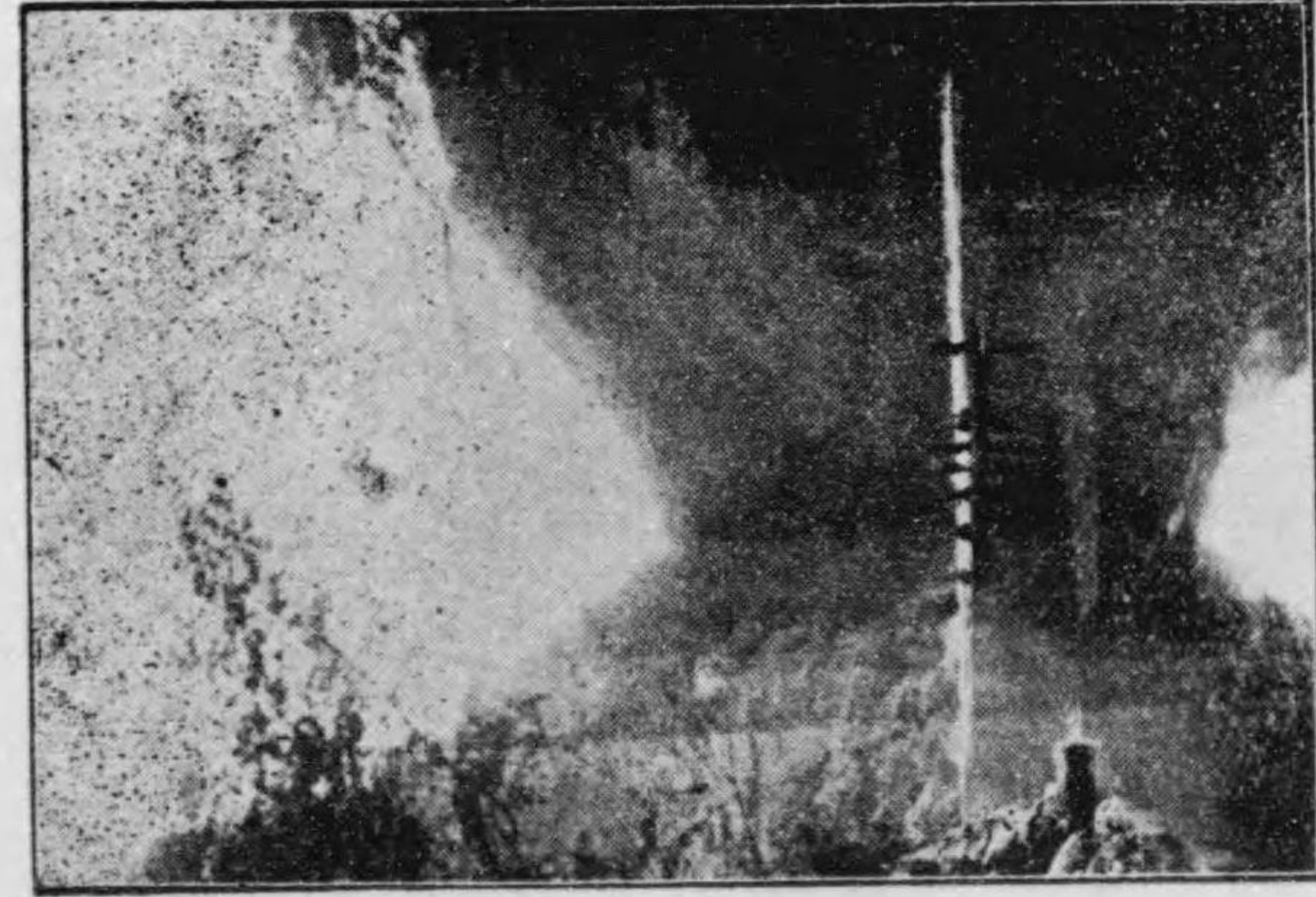
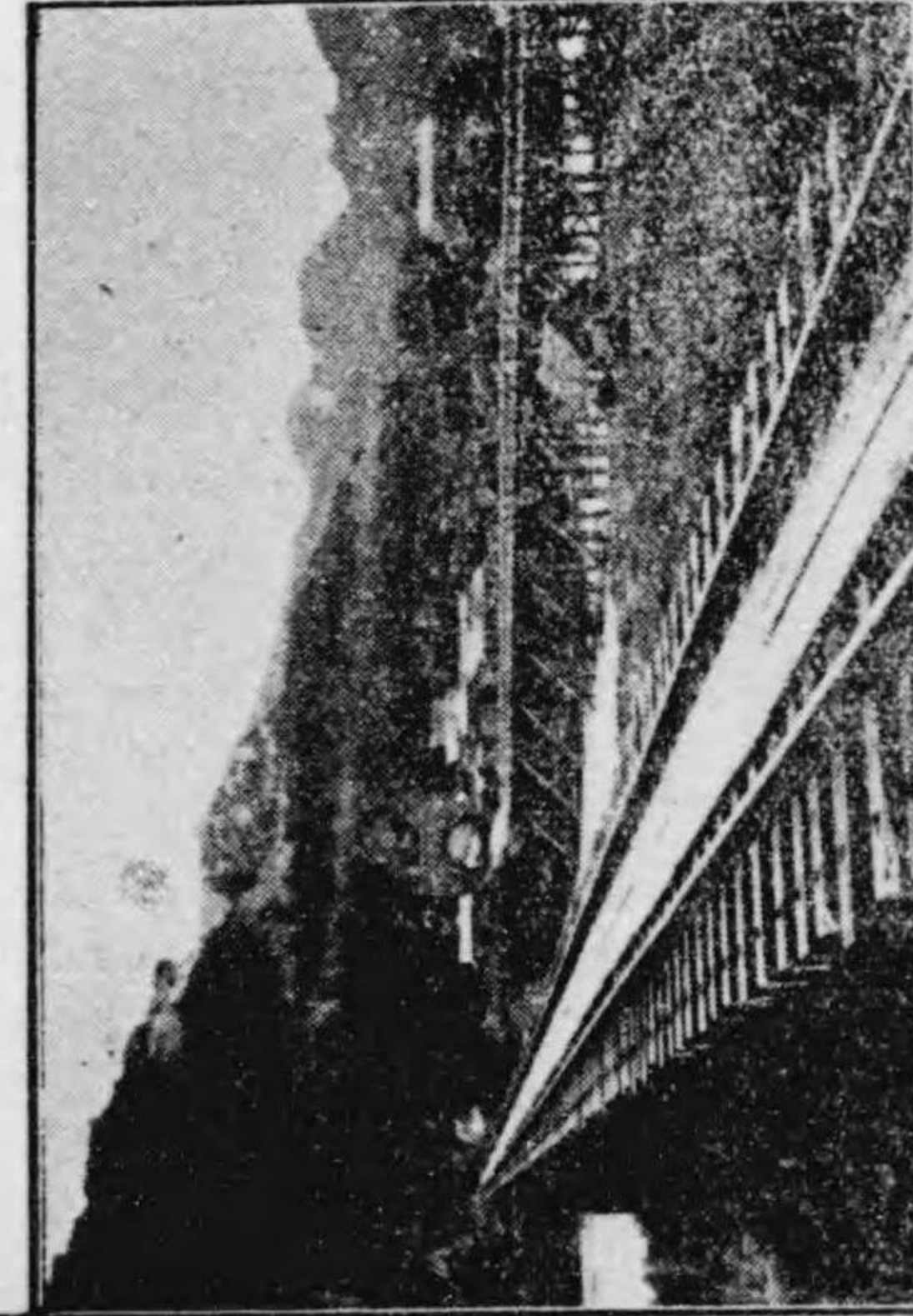
飯田川公園



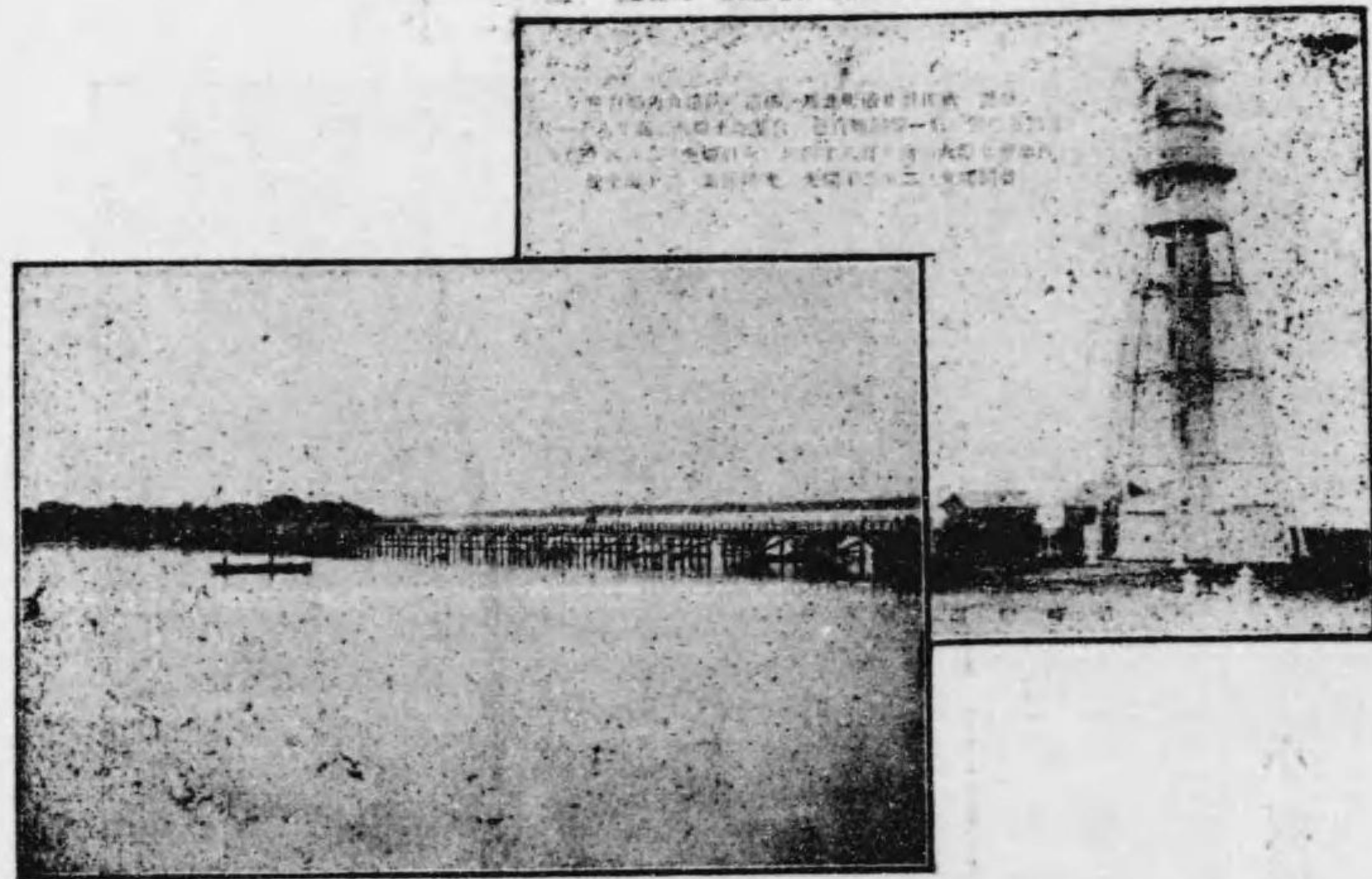
象潟風景

飯田川公園

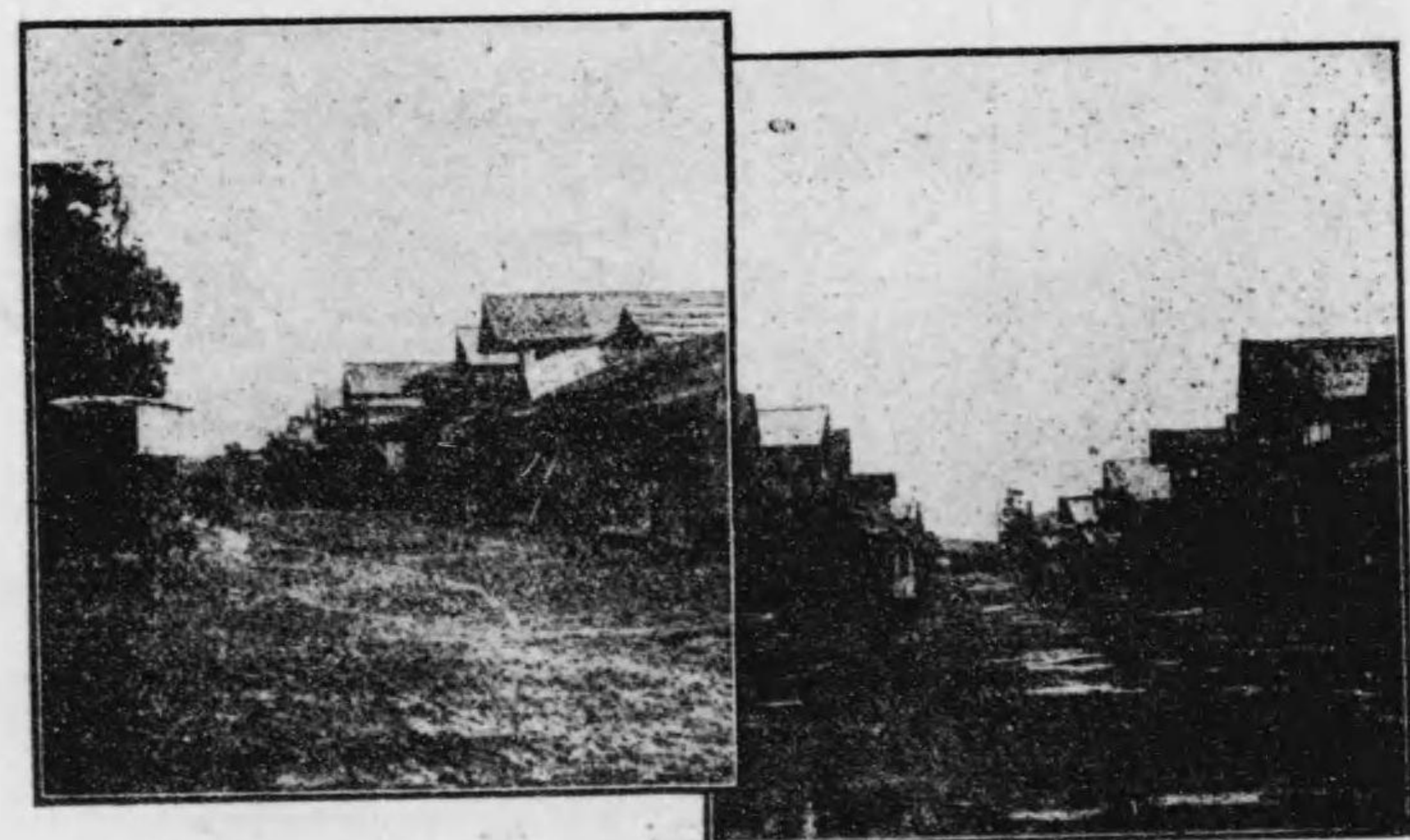
山本郡柏毛村
縛りの奇崎



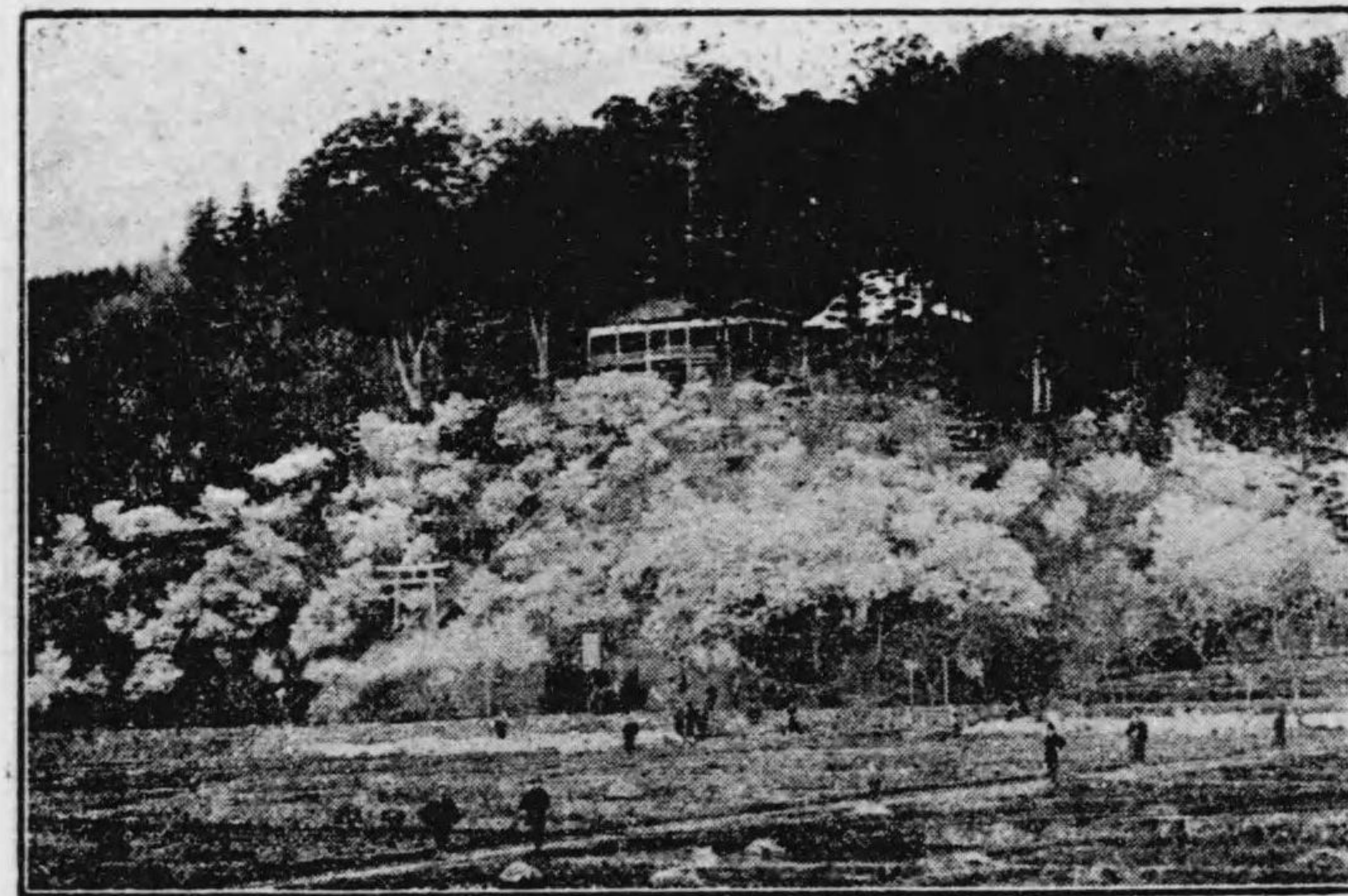
後溪坂



臺燈の岬道入と橋郎八



町目城五

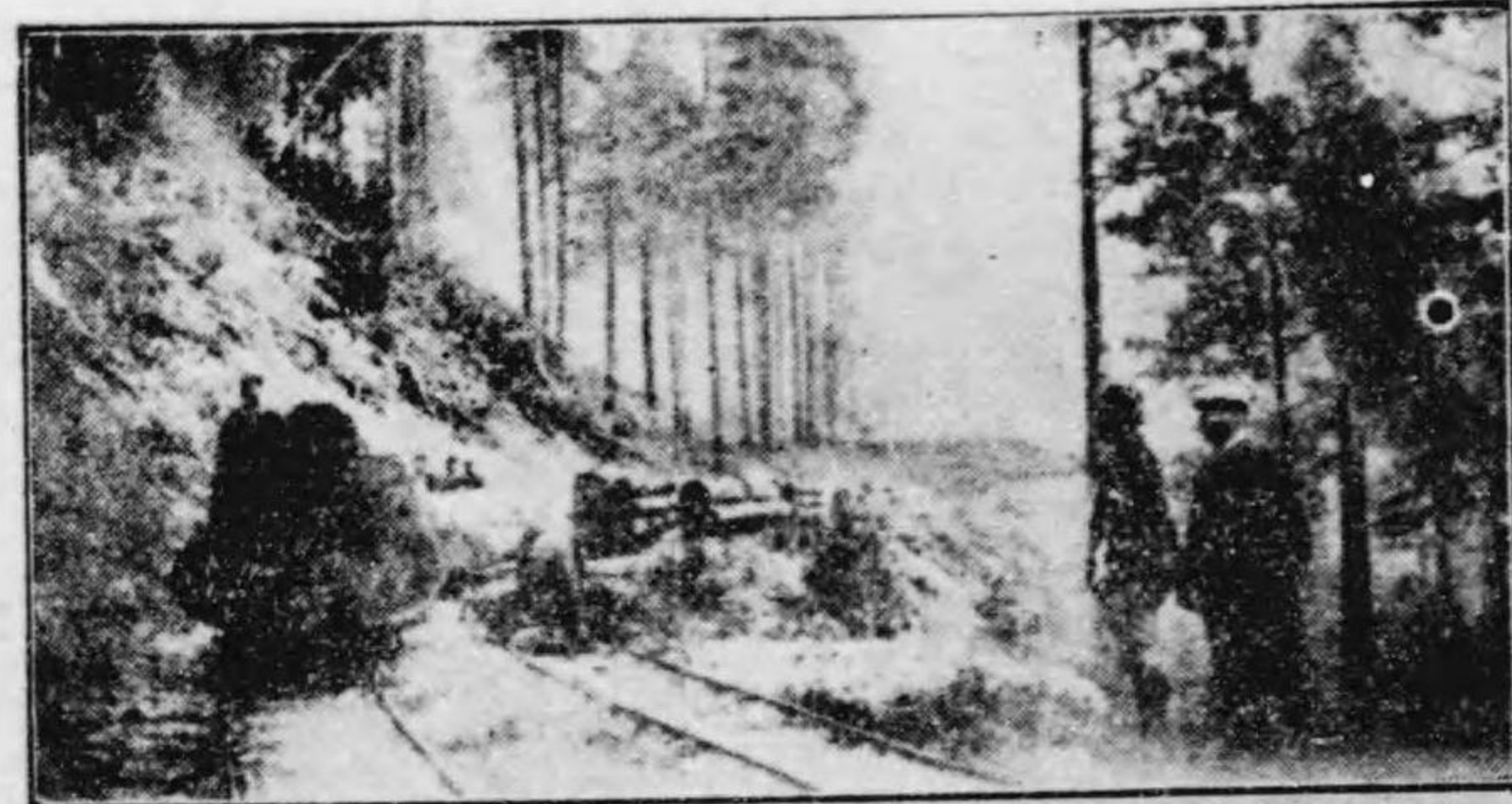


櫻の山宕愛 町澤湯

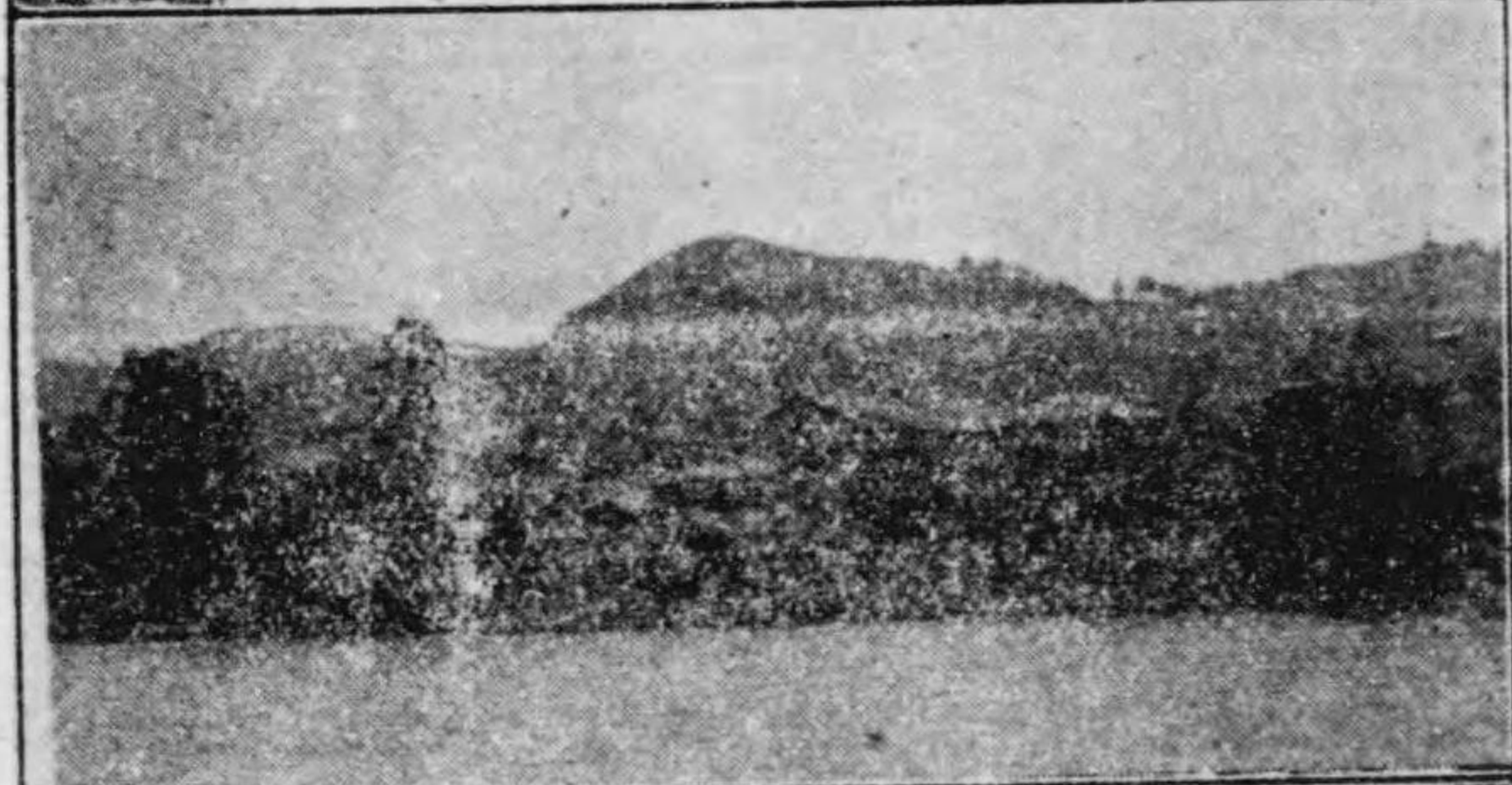


園公舞淺

材運口ト澤木長

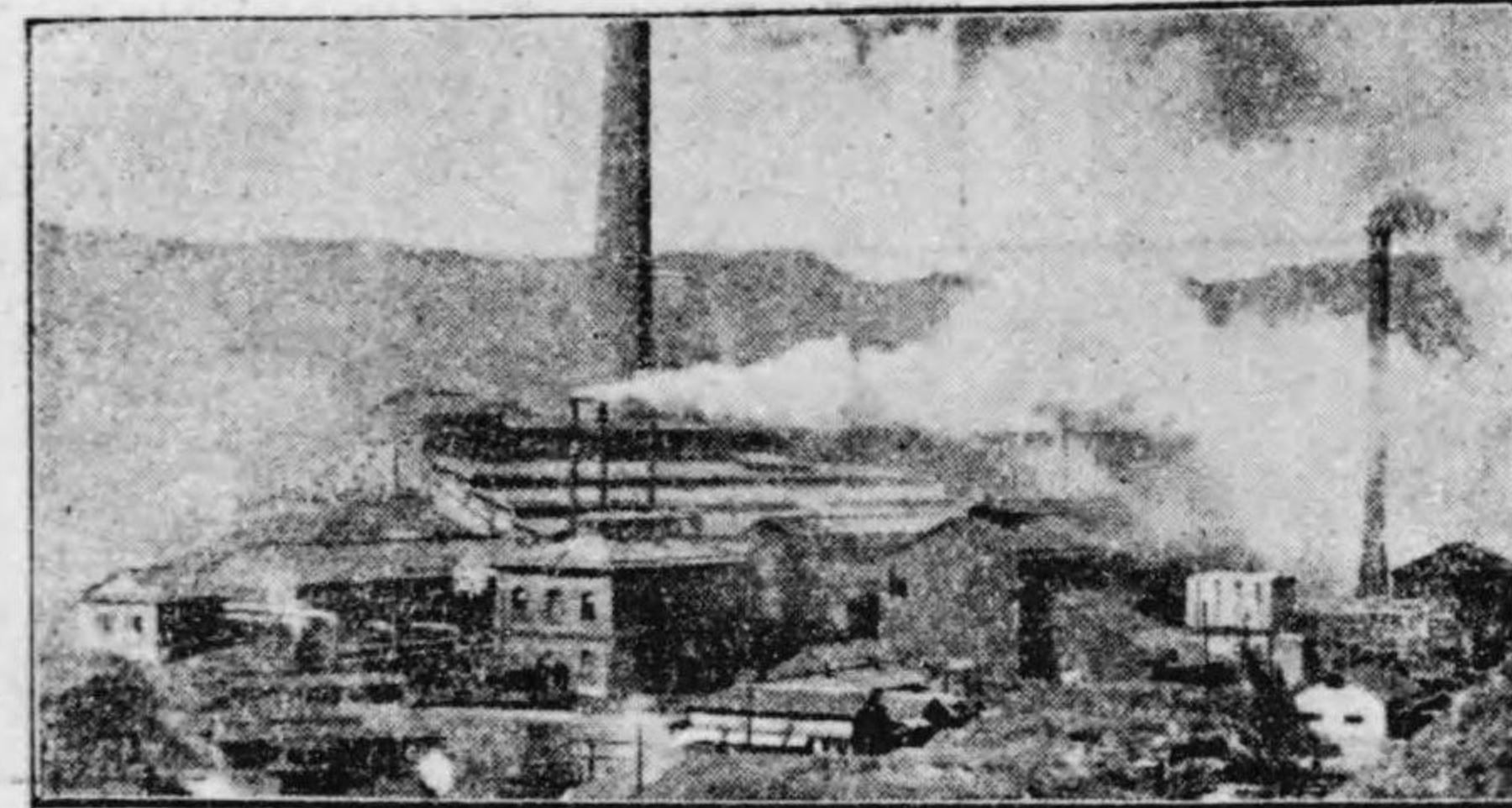


大瀧温泉

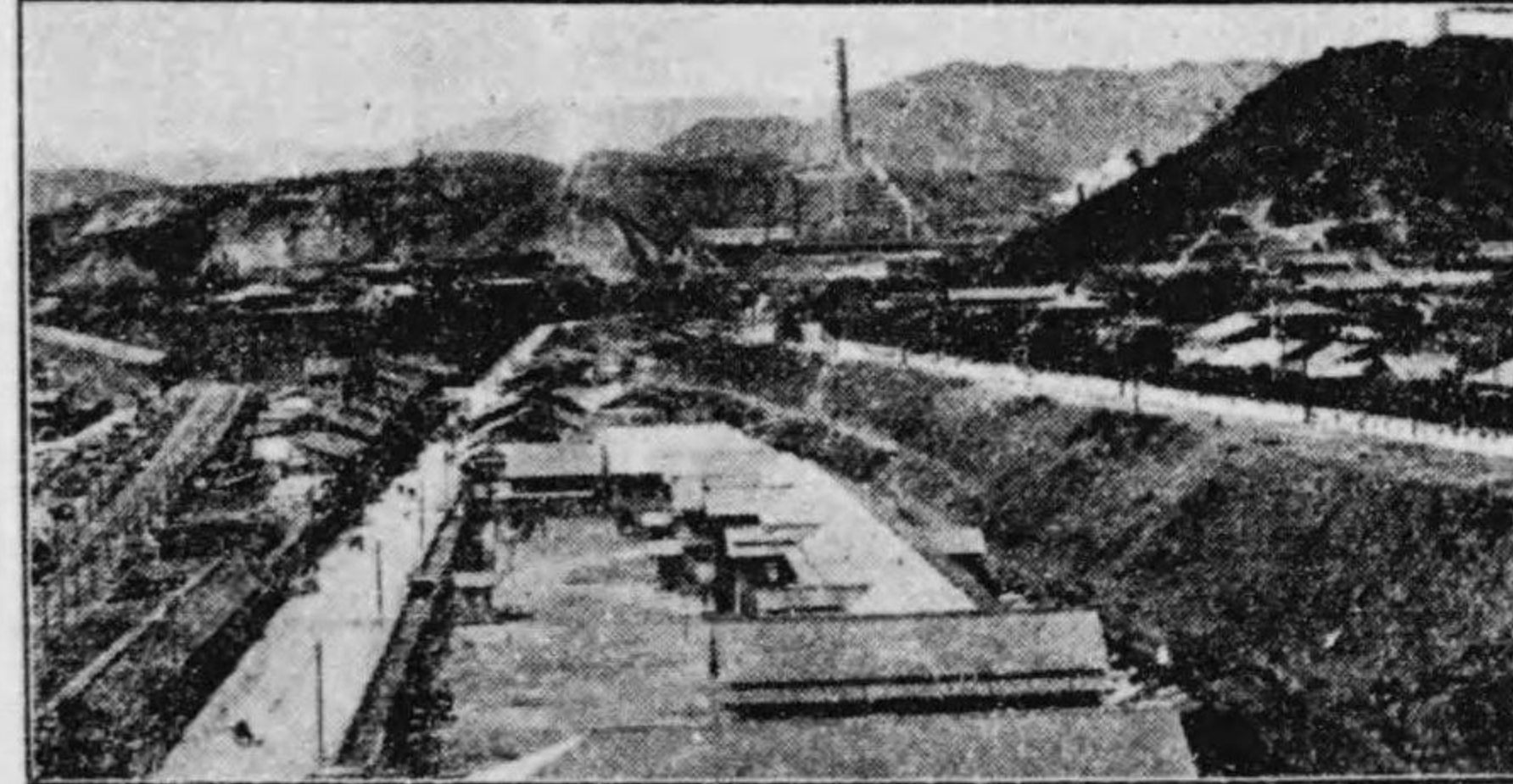


櫻の寺應伊淨館大

所煉製坂小



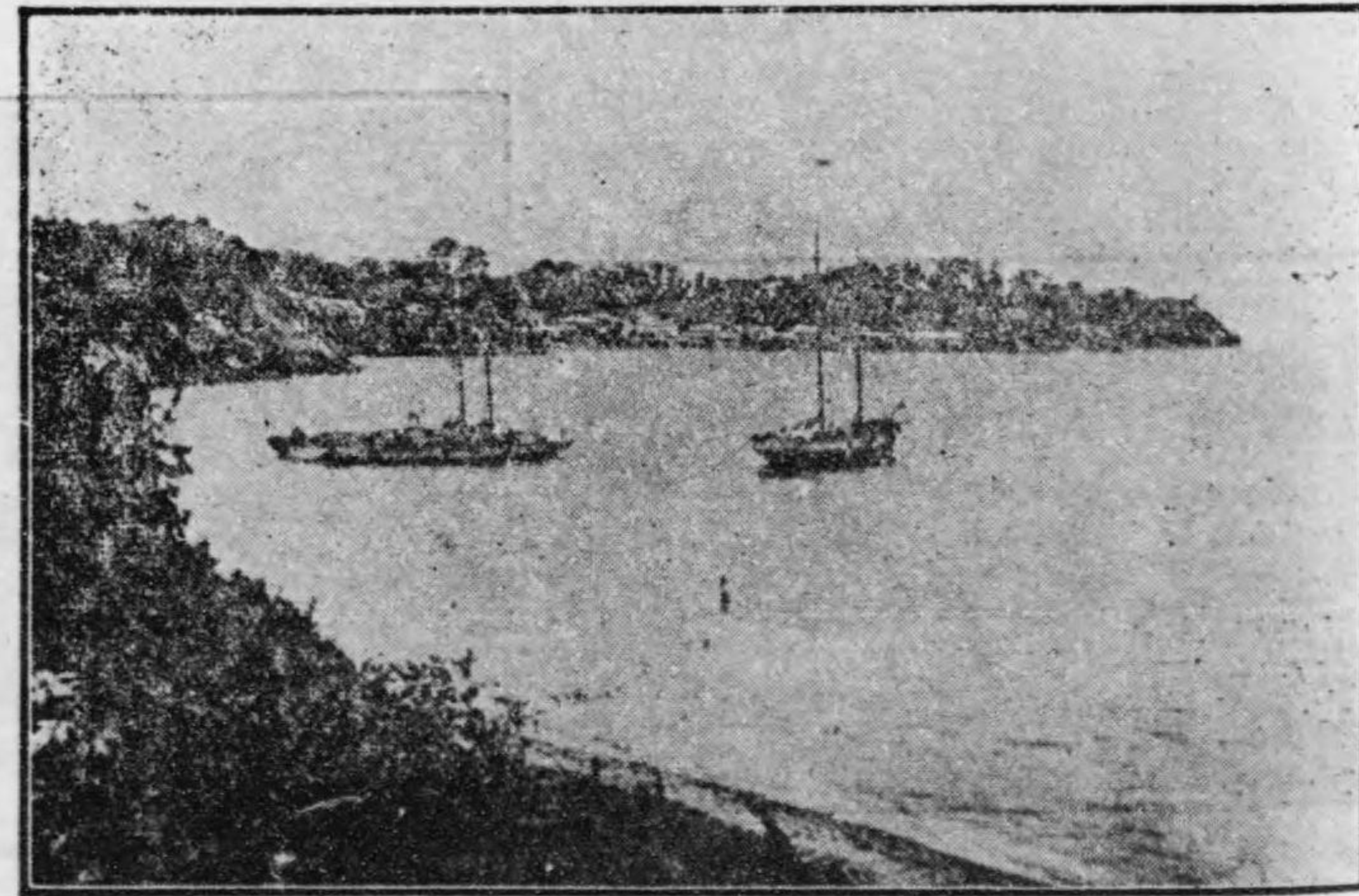
小坂鑛山全景



堀天露

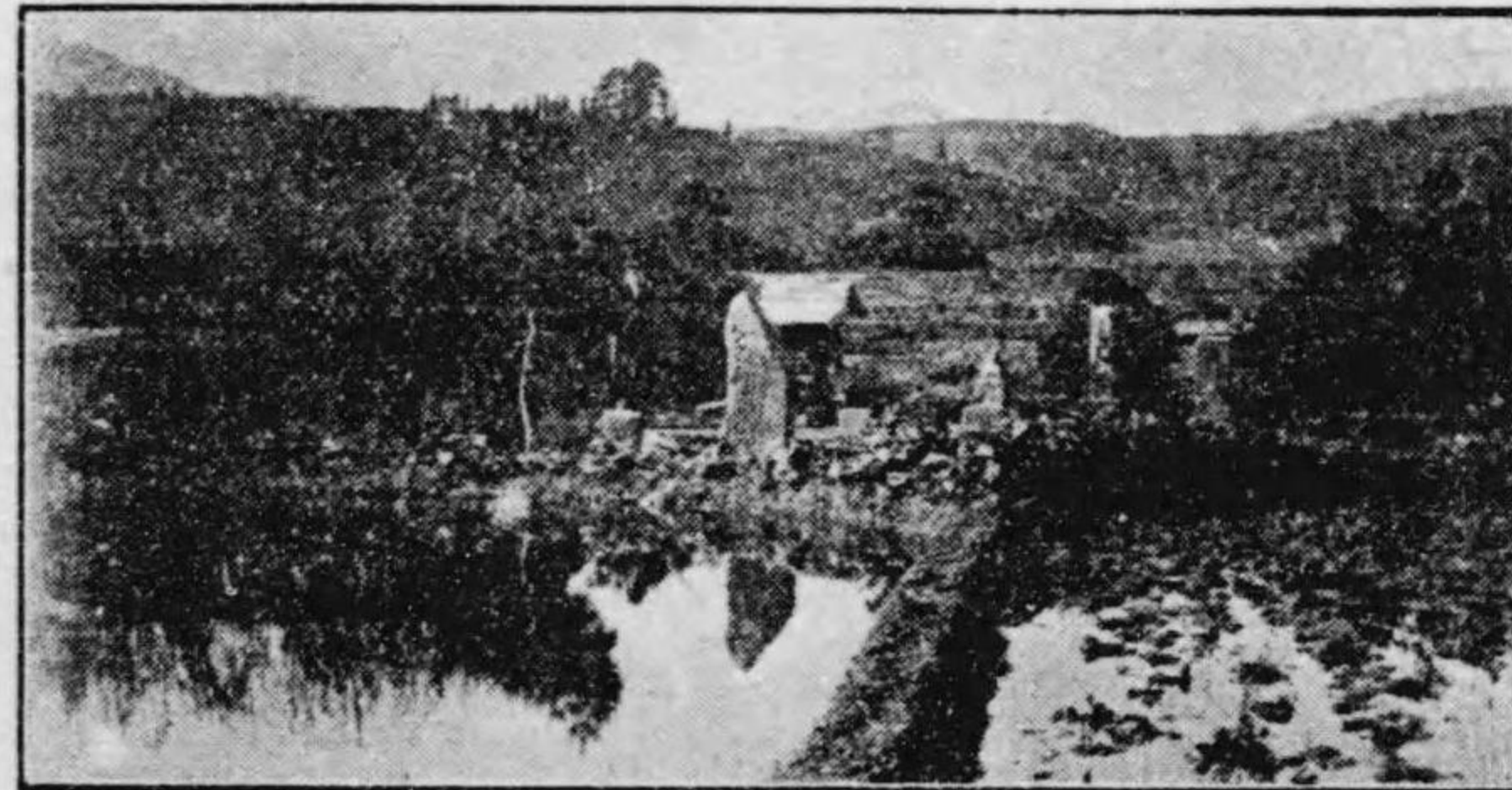


港 川 船

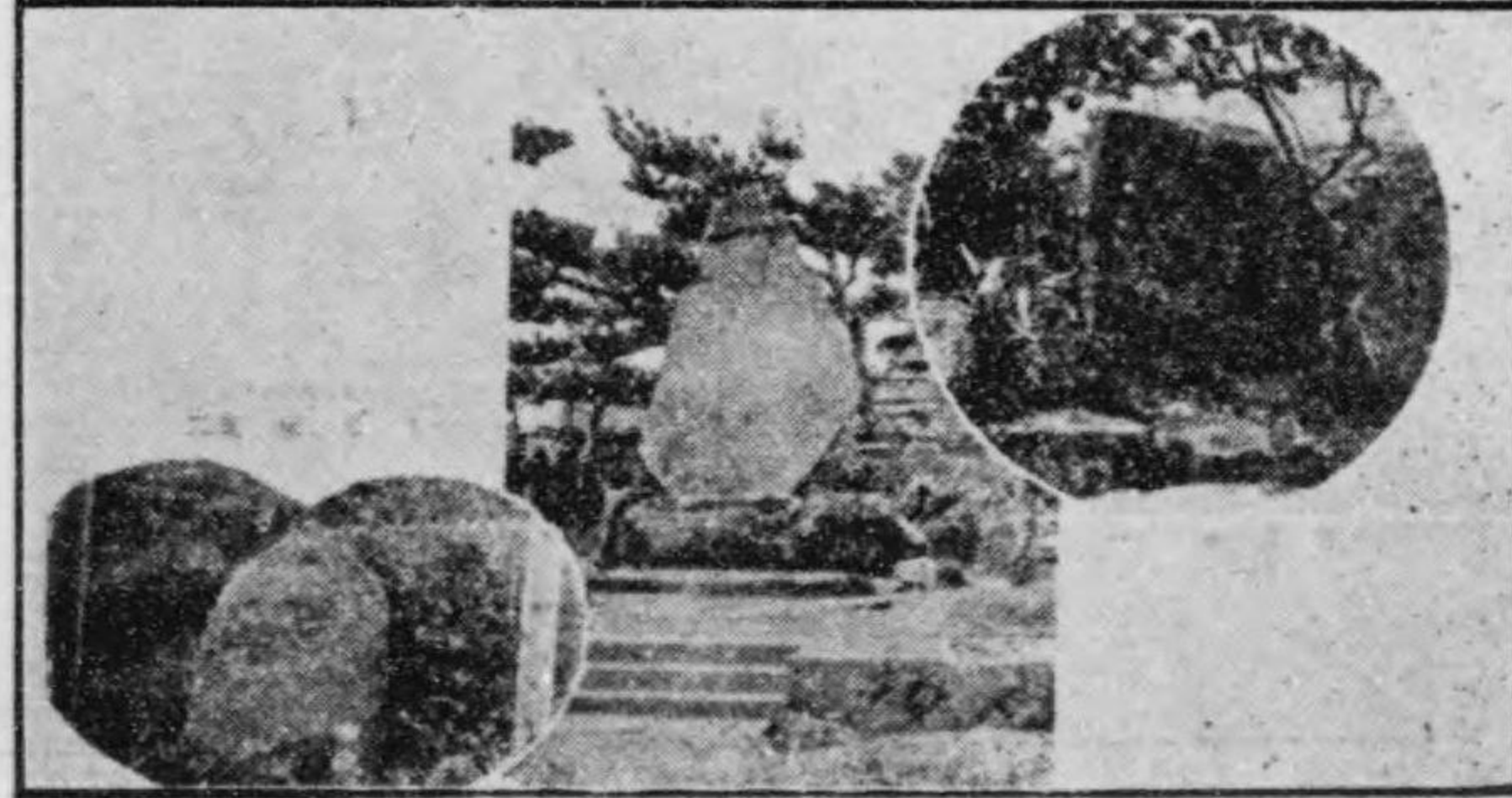
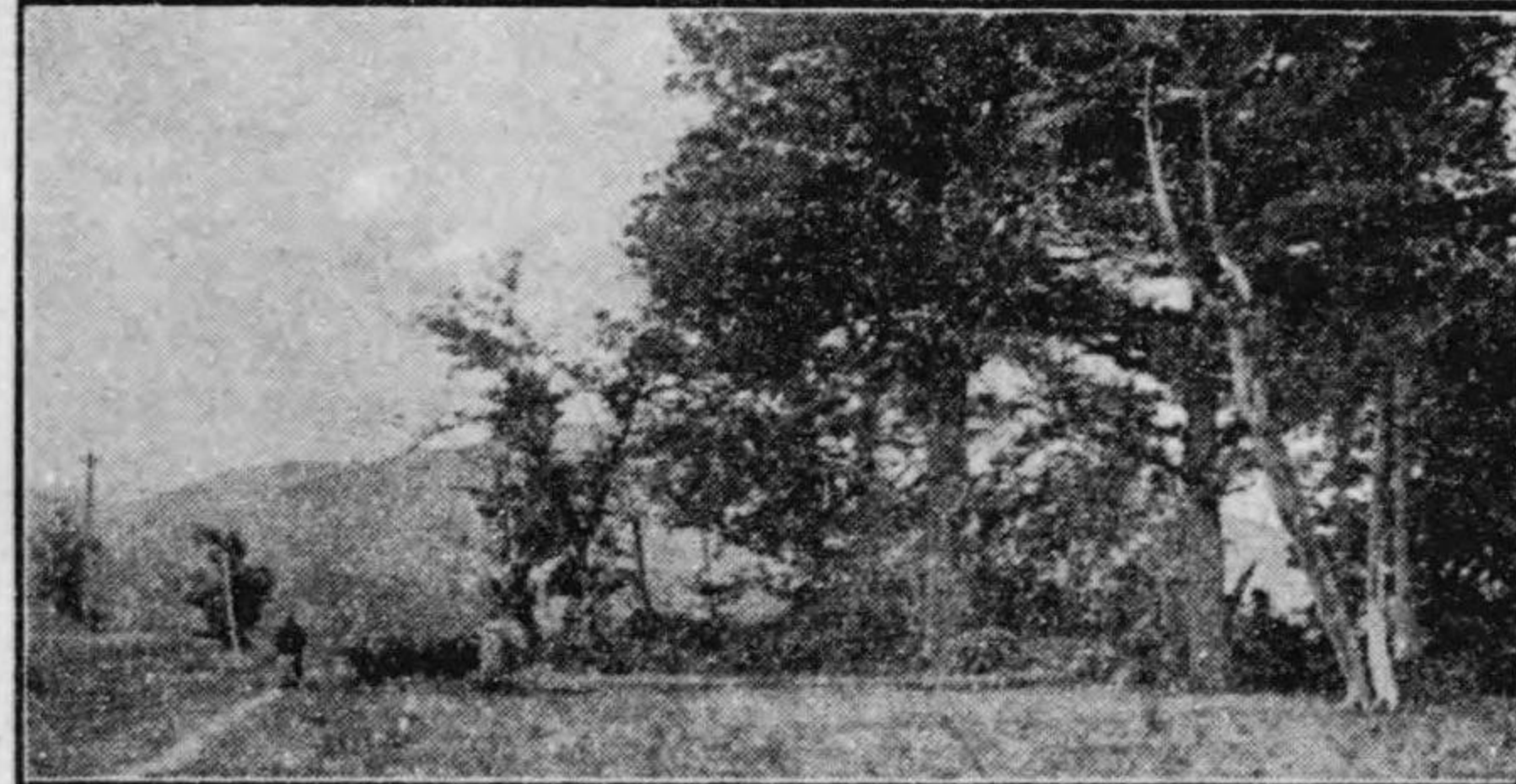


北
浦
港

塚 藥 芍

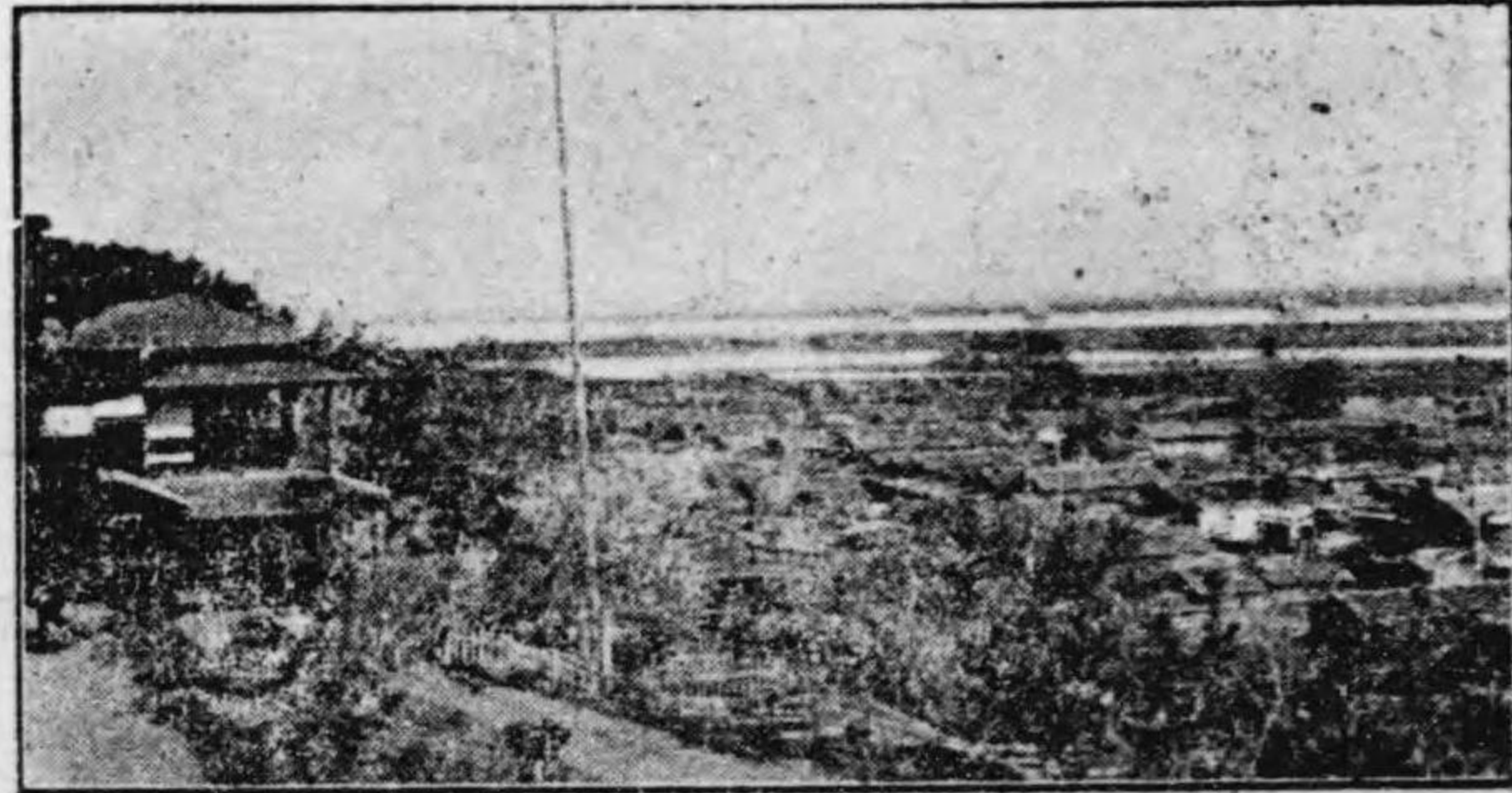


錦
木
塚

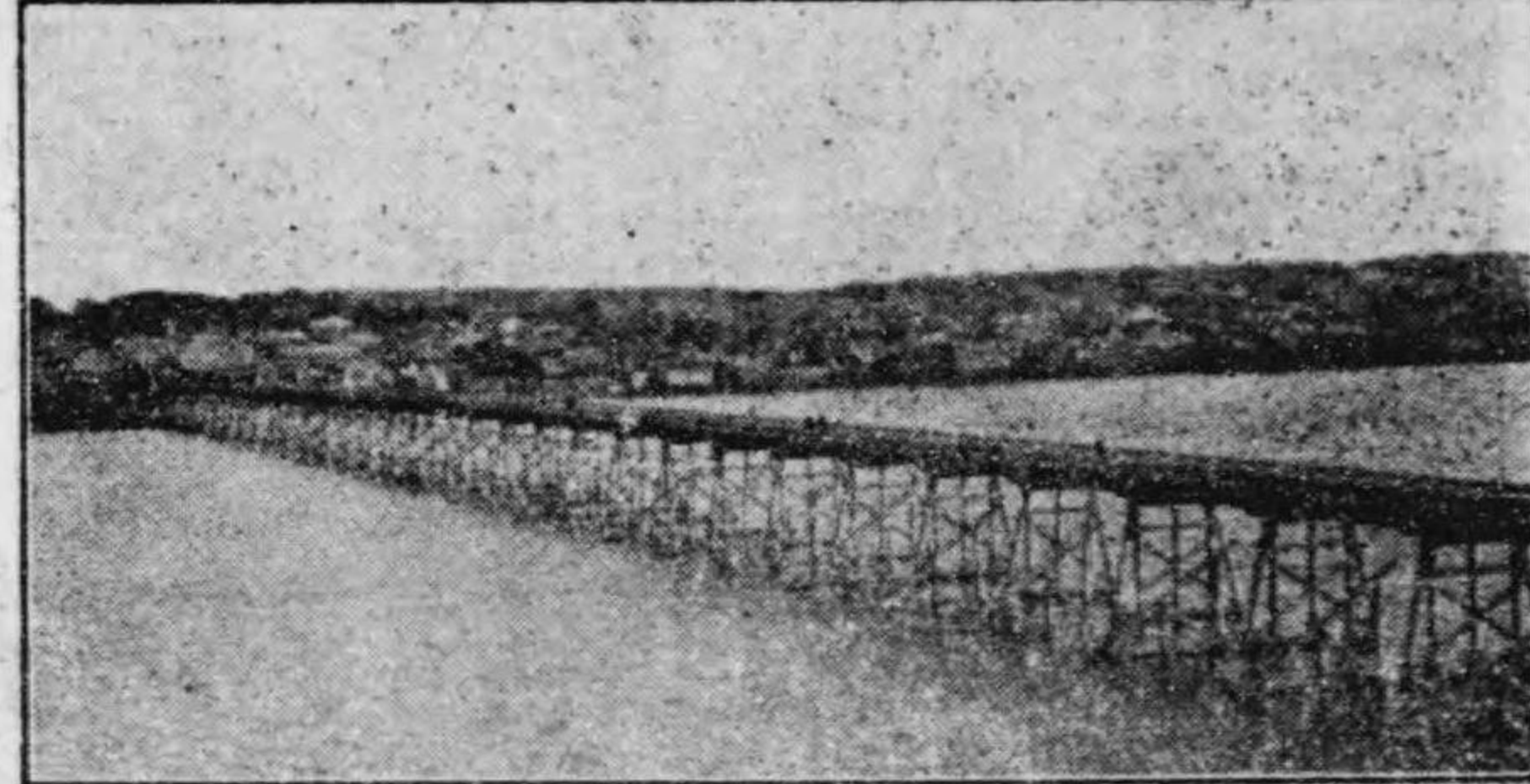


塚 乃 丁

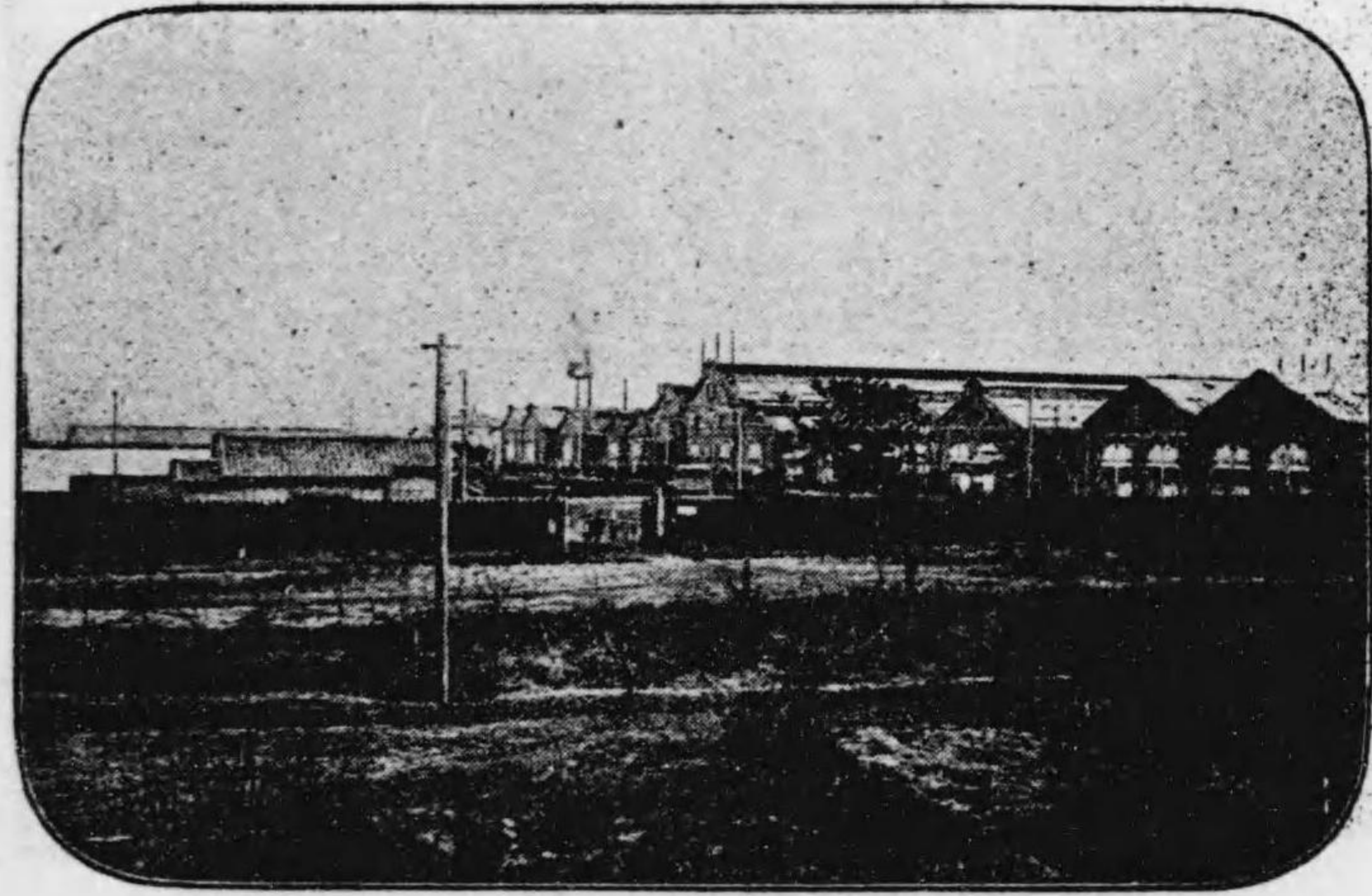
能代公國より市街観望



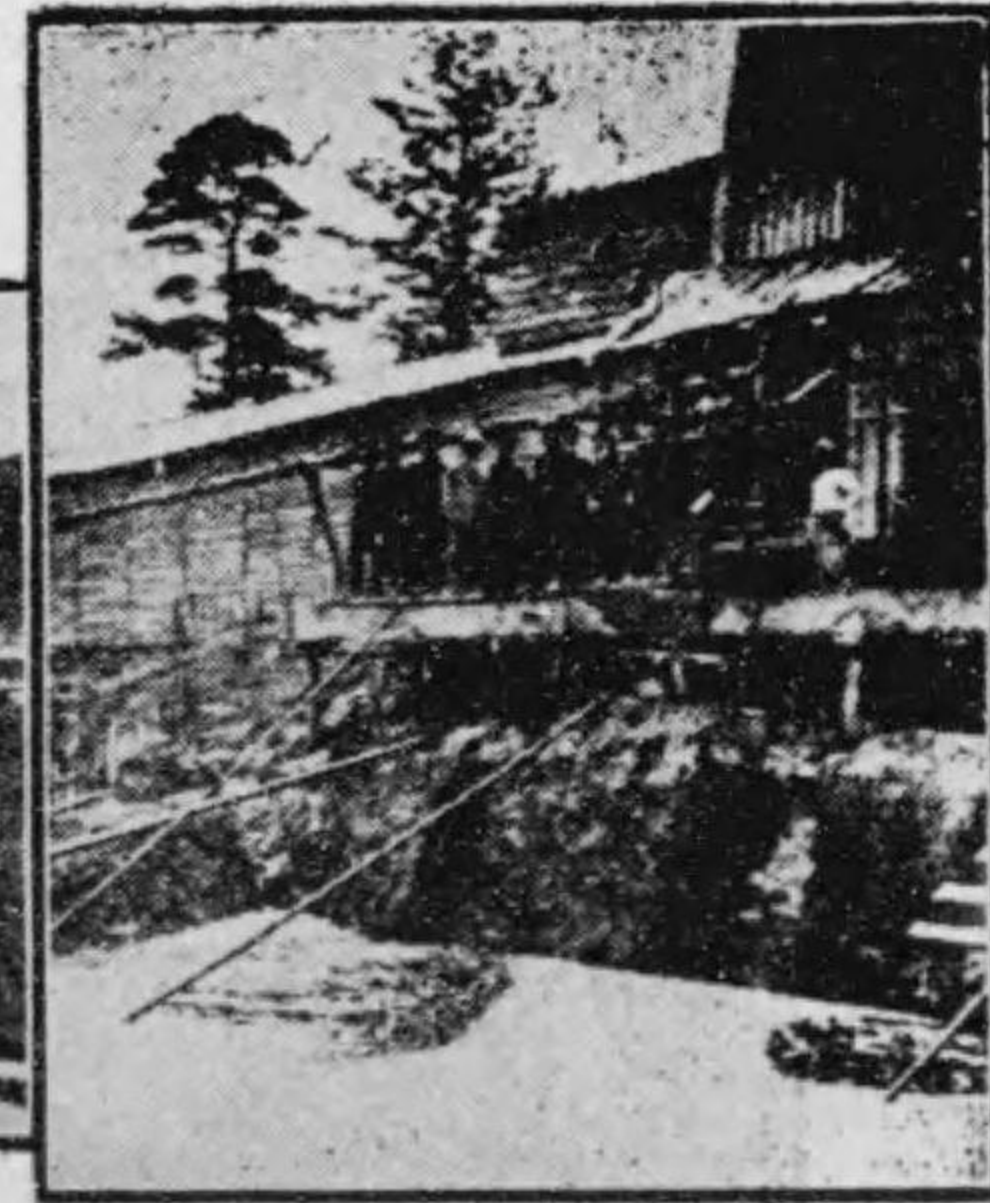
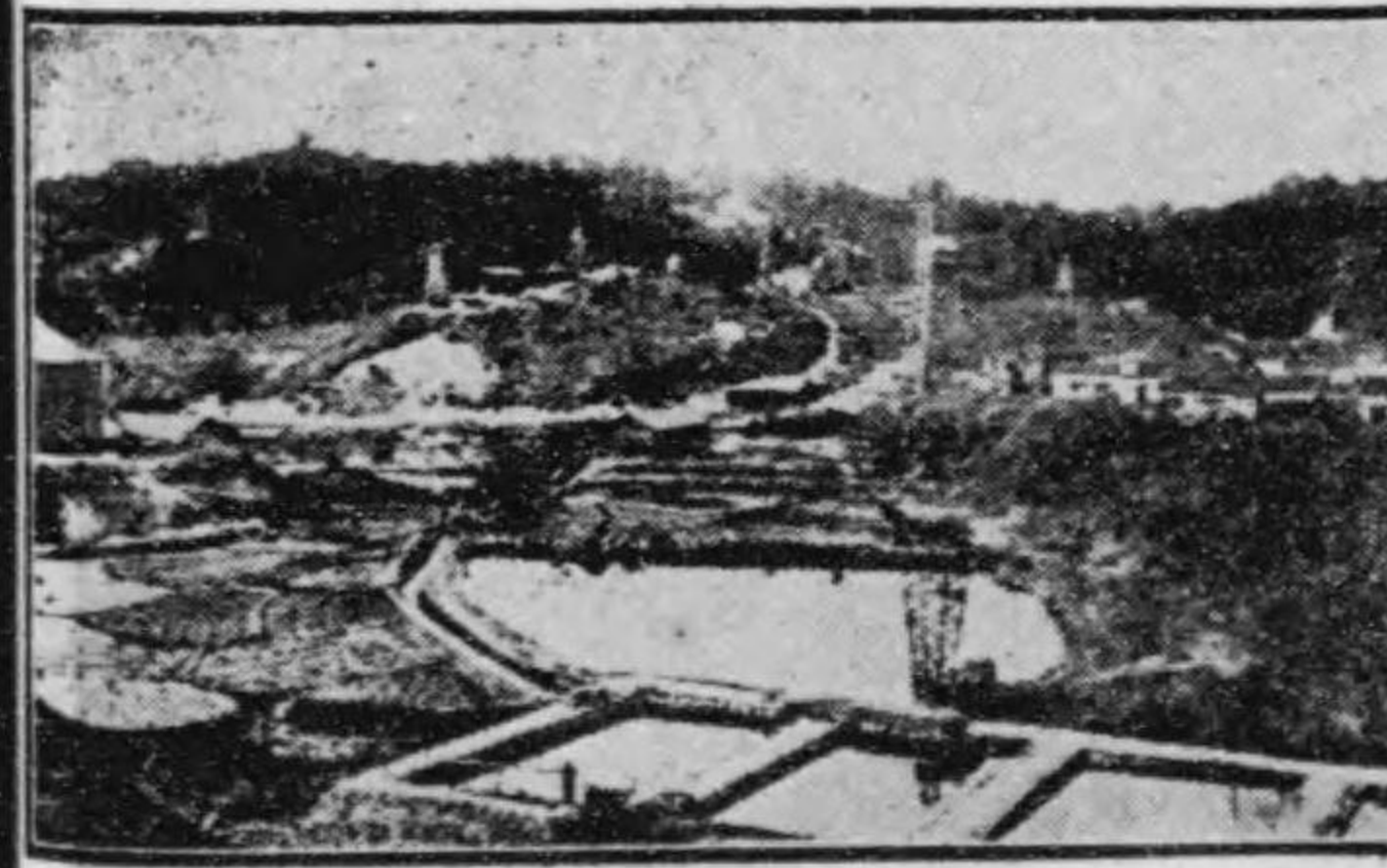
能代港全景



山本郡岩館の風景

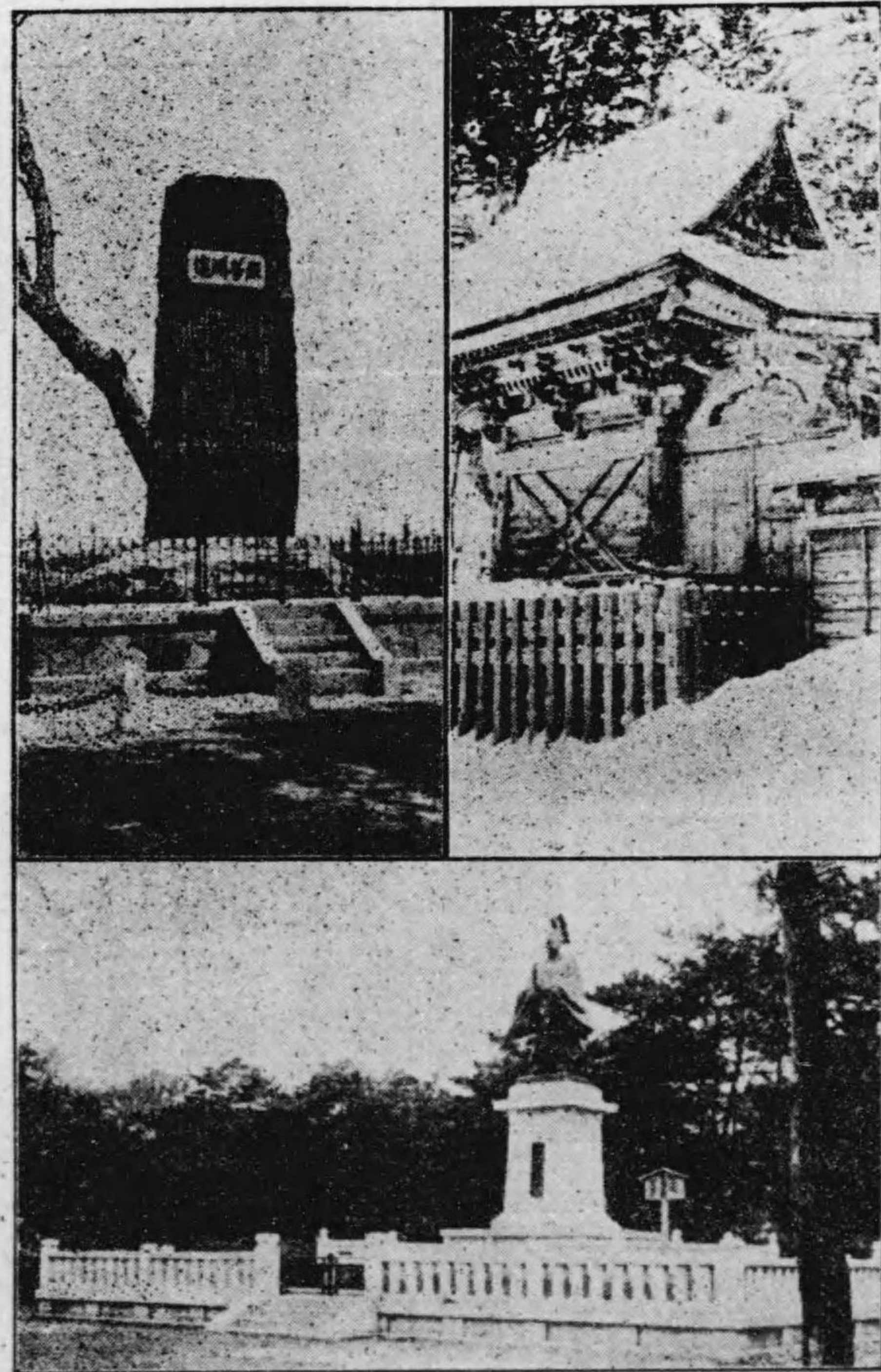


土崎鐵工場鐵道院



黒川油田

仙北郡大曲町 古四王社(特別保護建築物)



(像銅 堯義竹佐 王龍辰戊) 園公秋千

仙北郡刈野公園 根本羽嶽先生の碑

三紀層に属するもの約半ばにして火山岩より成るものは殆ど之れに伯仲し第四紀洪積層は其の兩岩の脚部を占めつゝあり、御物川米代川、子吉川の三大川の沿岸并びに仙北平鹿兩郡一帯の平野及び秋田市附近には大面積を占むる沖積層あり地勢斯くの如くにして秋田縣は奥羽山脉中最も峻嶒なる山嶺に其の三方は包圍せらるゝ、而して山容の最も秀美を稱せらるゝは南境の要鎮たる烏海山なり、烏海山は羽前方面より之れを眺むれば徒らに高峻なるのみにて何等の景趣もあらざれども、秋田方面より遠望すれば詩趣畫趣溢るるが如し秋田富士と稱せらるるは之れが爲めなり、其他太平山、駒ヶ嶽、森吉嶽、燒山、眞書山、東鳥海山、本山、眞山、寒風山、明澤山、保呂羽山、高尾山、神宮寺嶽等の諸山或は淋しく仙骨を帯びたるあり或は温情を有する大人の風あるあり或は清艶にして瀟灑なること貴公子の風を帯びたるなど其山嶽の美致横溢して居るのみならず自然は未だ原始的なるが故に従て其靈韻印象を深からしむ、而して更に山嶽美の要素たるべき森林美饒かにて就中米代川の流域は林積の八割を占め既に天下に定評ある三大美林の一たる長木澤の森林は此の地域に在り、針葉樹と云はず潤葉樹と云はず縣内いつれの地に至るも鬱蒼として密生し而かも數千年を経たる靈樹少なからずして風に磨れ合ふ葉音も尙且歴史的憧憬の念を深

からしむ、此の山の美と自然の調和を保つべく河川湖沼は靈秀の地に其清韻を浮動せしめつつあり、河川は水概して清冽にて激湍奔流の趣を有するもの少なく流れの平和なる秋田縣の河川は隨て雄雋の觀を欠く、然れども其の山嶽は雄渾にて飽迄も男性的なるに對して川は概して女性的姿態を帯びて自然の生面は其儘なる所に所謂調和の妙を有するが如し、まことに秋田縣の河川は之れを物質的方面より觀察すれば未だ文明的に活用せられざるを遺憾とすれども、原始的なる處に自然美が太古ながらの清韻を浮動せしめつつあり、河川總じて高雅の趣あるは之れが爲めなり、單に河川のみならず其湖沼の美なる所以も原始的の靈秀を保ちつゝあるが爲めなり、輒ち秋田縣の山水の美韻優越し居る所以は尙まだ文明の壓迫より遠ざがり其氣分物質的の穢れたる色彩に浸蝕せられざるが爲めなり、斯くて一景一勝のいつれに接しても其の印象深く強く、まことに美なりと云ふべきなり、而して秋田縣の山水には其美を引き立たしむべく、いづれも歴史的の詩趣繚繞す、此れ實に其美をして優雅崇高ならしむる所以なり、到る處に景勝の地と相伴うて古趾舊蹟錯在して其の感興を切實ならしめつつあり、久保田城の昔を偲ばしむる千秋園の花に埋もるる春の眺めは云ふも更らなり八橋寺内の舊跡偕ては愛宕山の櫻花、芍藥塚、真人山、金澤の柵、

象潟の古跡、倭后坂、七座の勝、錦木塚、根井權現贊の柵其他の古跡枚舉に遑あらず、また神社佛閣にして往々千有餘年前の靈場を誇りとするもの少なからず、一國幣小社、十四縣社はいづれも千古の靈場として信仰の中心たりしものなり、秋田縣の自然美は其内容に於て欠くる處なき總じて斯くの如し尙更に深山幽谿の間には所謂瀑布布美あり温泉美あり、瀑布は百尺以上のもの殆ど數十百ありて就中其優なものは鹿角郡に於ける銚子の瀧、七瀧、止り瀑、男鹿半嶋の白糸瀧、櫻が瀧、大瀑、仙北郡峯吉川の白糸瀧、平鹿郡山内の白糸瀧、雄勝郡成瀬村の白糸瀧、由利郡龜田の不動瀧、小瀧村の奈會瀧、七釜瀧、仙北郡生保内村の雨瀧、山本郡は八森の白瀧常盤村の岩見瀧等なり、而して温泉に至りては處在頗る多く縣南雄勝郡にありては院内の湯の澤温泉を始めとして皆瀨温泉、泥の湯温泉、稻住温泉、河原毛温泉等全郡いづれの地にも之れあらざるなし、雄勝郡と相對の稱あるは鹿角郡にて大湯温泉湯瀨温泉等山水美の間に抱擁せられて清涼の氣横溢す、北秋田郡にありては大瀧温泉、大湯澤温泉、小又温泉等あり、仙北郡には生保内田澤兩村の山中には黒湯温泉蟹湯温泉、鶴の湯温泉等あり、其他冷泉温浴の湯治場海水浴場は縣内また其数少なからず、若夫れ公園に至りては千秋園は云はずもがな古韻の浮動する八橋公園、土

崎公園、さては能代公園、本莊公園、天鷲公園、愛宕公園(刈和野)、横手公園、淺舞公園、千年公園、飯田川公園、三倉鼻公園、真人公園等いづれも詩趣史興横溢して時代の疲憊せる精神に一脉の生彩を帯ばしめつつあり。

▲景勝と特色 秋田縣の山水は總じて靈を失はず美にして而かも玄なり、今更に地勢上より強て其特色を擧ぐれば東西南北景勝おのづから多様の趣あり、否其反映異なり氣分同じからず、山のある處、川のある處、海のある處いづれも其地勢の相違によりて特色を發揮しつつあり、

▲縣南の山水 縣南上三郡の地は山嶽の美あり、森林の美あり、川の流域まことに廣やかなり、而して歴史上の古趾少なからざるが故に其景趣おのづから高雅優婉なり、一道の寂味津々として旅愁を惹かしむるの情興あり、院内あたりの荒れたる山々が膚もあらはに青春の血の燃わたつ若やかさが失せて戀も憧憬も今は覺束なきが如き荒さるる心の寂びしき趣仄めくが如し、春の花も秋の紅葉も眺めは決して鮮やかならずして沈靜せる空氣の中に漂ふ情味は宛ながら牽引するが如くに浮動しつつあり、野徑草繁げく駄馬の蹄の痕に寂びしう荒れ果てたる「芍藥塚」のあたりは道がに山と水とのただすまゐるに野情の幽婉なるを覺えられ、「愛宕」の景は其の氣の沈

めるがなかにも清興を惹いて詩趣繪の如くに美はし、皆瀬川や成瀬川を舞臺の中心とせる川連駒形一帶の地平遠にして景趣頗る瀟洒なり、「増田」には出羽の國府を置かれし其昔の史跡を有する「真人公園」の雄觀あり、翠雲のたぢまふが如く滿山松樹密生して沈靜幽閑なる縣南の風趣に始めて晴れやかなる感じを與ふ、而して「横手」より「淺舞」「角間川」にかけて平鹿の地野に山にも風韻の懐しみ溢るれども氣分の寂びしみは失せず、「仙北」の大平原は玉川と御物川との流域にて其景に多様の變化あらずと雖も、「神宮寺嶽」の雲を抽んずる偉容に自ら森嚴なる靈の力か潜めるがやう神々しき閃めきあり、清水湧く「六郷」あり偕ては小京都の面影を有する「角館」の如き景物いづれも優婉にて而かも古韻の溢るるありて清涼の氣流るるが如し、明媚なる田澤湖は嵐光水色の美譬ふべからずして我れも人も繪巻物のなかに彷徨するが如き心地せらる、靜かなれども空氣は軽くいささかの陰影だも其印象にとどまらず

▲秋田市附近 此の幽靜韻沈寂なる靜の野情を掬して足一度秋田市に入れば興おのづから俗に塗みれんとして僅に郊外の天地其の清趣を保ちつつあり、然れども綺巧を加へたる「千秋公園」の眺めはまことに晴れやかに華やかなり而して郊外「八橋公園」は幽靜にして閑雅なり、騷人は千秋園に遊興を縦にすべく詩人は八橋公園に

行樂して史的古韻に親むを得べし、千秋園は飽迄現代的にて八橋は古代的色彩を失はず、旭川を中心とせる郊外一帯の地東手形山あたりに木立の繁げみなきものから風にたわめく千草の花に春の景の優婉にして秋の眺めの閑寂なるには追がに捨て難き風韻あり、白馬寺あたりの野趣は宛ながら平家物語の繪巻物を繰りひろげたるがやう古代趣味のおのつから湧然たるを覺わらる、天徳寺山上の空氣常に晴れやかならず巨人の如き石油タンクは油田の採掘場より吐き出す煙のなかにかぐるひつつ文明のくすぶり人の心をあせらせつつ物質的の壓迫は黯然として其の靈域を侵害せんとしつつあり八橋より寺内にかけての古趾錯在をぞろに史的憧憬に耽らしむ、而して更に郊外川尻に至れば總社境内の靜閑は云はずもがな小夜庵あたりの風韻頗る興を惹き新川橋より眺むる遠山近水の景趣また凡ならずして青松白砂新屋は百三段時代の名残り失せたれども渡船の昔尙偲ふに足る。

▲由利街道「春の海ひねもすのたり」哉「由利街道の景趣は旅びなれば春と夏とが最も興多し、袖に袂に滾ぼるる如き潮の香の懐つかしきにけふるが如き大海原の波靜かなるに白鷗の夢靜かなる眺めには心も平和に落ちつくが如し荒磯の飛沫浴びつつ葦たんばの花美しく咲き出でたるが風にたはめく若草の野にも山にも緑り

なるなかに仄見えそむる清楚なる風趣の譬へんやうもなきに汲む蜃女の姿はこころの磯に見えざれども夕暮れの歸帆悠々たるなど氣も暢びやかに雅興おのつから湧く而して雨に西施が合歡の花の昔を象潟に偲びて櫻花散る春の夕べ物思ふ旅の哀れの身にしむものから海の眺めの晴れやかなるには追がに風懷を舒ふるに足る、歌枕奈曾の白橋、丁及が杜に歴史の古韻をなつかしみ矢嶋路の幽靜雅趣に憧れて一峯秀出描けるが如き烏海山の靈氣に觸るれば人生忽ちにして黙化せしめられ高邁にして神聖なる山氣に俗興や一洗せられん總じて由利の自然は清新の趣饒かにして氣分に落ちつきを有す悠々として逼らざる底の奥行あるが如し山嶽の感化海の感化は人の心に餘裕を興へて焦躁的ならしめざるが如く自然の風物は飽迄も原始の趣を失はずにおつとせし情味溢れ居るが如し文明の壓迫は未だ郡の一角にだも其の勢ひを逞うせざるが爲めなり

▲南秋田郡方面 秋田市より以北南秋田郡の風趣は幽婉もあり深玄もあり輕達もあり然れども由利の天地に於けるが如き晴れやかなる氣分に乏ぼし傳説の太平山男鹿の三山に靈秀の氣浮動すると共に山水のただすまる八郎湖を中心として四圍の景物歴史的な古韻線繞するありて轉た感傷的情懷を惹く然れども「飯田川公園」「三倉

鼻公園」の勝景は其沈み行く千古の色の寂びしき湖水を隔てて遙かに男鹿半嶋の陰影に雲の去來するを眺むるは雄々しきが如きも一種の寂しみを有す、八郎橋の遠望には森山の紫霧を吐くありて朝暾鮮やかなるに田園の野趣悠遠たるが故に其の落暉に對するが如き寂しみの影薄き心地す、而して船川港を眼下にせし茶臼坂上より渺漫たる海洋に對する雄觀はげに天空海濶の眺めなり、然れども其海も空氣も由利郡に於けるが如く晴れやかならず氣分何となく重き感じあり、由利郡の海は南國的の温味あれども男鹿半嶋より以北の海は頗る北國的の豪宕なる趣ありて其景實に奇峭峻拔なり秋田縣は山水の美あるのみならずして巖石の美をも有することを男鹿半嶋は立證し居れり風濤激する間に其景の髣髴たるが却つて床しき懐ひせしめらる、まことに神工鬼斧の玄妙を極盡せるものにて其奇巧の纖細ならずして飽迄も豪放に男性的なる點は能く此の北國の風光と調和し居るが如し

▲山本郡方面 男鹿半嶋北方の海は多様の趣あらずして陰濕の氣に咽ばざるを得ざる程寂寥なり山本郡の海岸八森岩館は一灣春の波靜かなるの趣なきにあらずと雖も其景や男鹿の奇峭の小なるものにて北國の寂びしき氣分森々と心頭を掠めて哀愁を覺わしむ、能代は磐若山の公園山海自然の雄觀を縦にする點に於て縣内比すべき

もの稀れなり、流れ悠々たる米代川は白う清く無韻の詩を漂はして遠き山近き野のただすまる艶に惱やましげなると相對して北海風濤の跌宕なる景致が朝暾落暉に反暎す、されど能代の地は此の自然の野趣と相調和せざる脂粉の氣が空に漂ひ白砂青松の間を縫ふが如くに高樓櫺比し伊豫簾を漏るる嬌態艶姿は漸く自然の趣味と放からんとしつ々あり人事の美に憧がるる能代人は道がに自然の美をも欲するに急なる傾向あり岩館の風光を稱し僂后坂、七座山の勝を介すべく頻りに顯勝上の企劃に努力しつ々あり、

▲北秋田方面 米代川に沿うて北秋田の天地に至れば山も野も粗剛の氣苛立ちが如くにて風物情景轉々蒼蒼雄森なり七座の奇勝は此の雄森なる北秋田の景寰内に入るの關門なり、阿仁川を溯る流域には森吉嶽は更に其の豪放の氣を白雲の外に吐きつつ此處ら一帶の風趣を凄壯ならしめつつあり、自然今尙原始的の靈韻を浮動せしめて其一景一勝は太古なからの重く強き印象を與ふ、阿仁の自然は其凄壯に更に深沈玄妙の趣を加ふるは之れが爲めなり激潭奔流に一葉の舟飄漾として下る、文明の壓迫も時代の進運も此には道がに打忘られたらん心地す砂子澤の奇趣寧ろ幽玄なりと共に文明の威力も亦如何ともすべからざる「萩形」の一小天地の自由境もあり、斯

くて大館を中心として北にも東にも南にも其景の存する處必らず歴史上の古跡錯在す、而して長木川の流域奥深く白澤矢立に至る間所謂森林美なるもの横溢す、木曾人の誇りとする里謠に「おもしろいぞや木曾路の旅は笠へ木の葉が舞ひかかる」といふあり、秋田藩政時代より林業の保護奨励に努めた結果として秋田杉の誇りは今尙聲名を恣にしつつあり其の三大美林の一たる長木澤の杉樹の轟々傘立するの状はげに千早振香椎の宮のあや杉ならねと神のみそぎに立てるところを思はるれ嵐氣冷やかに禽鳥の聲凄う聞え來りて晝も尙陰々たるには人誰か其心の自ら寒からんとするに顫かざるあらんや木曾の旅路も何のその落の葉笠をかざして此の深峽幽溪の境に臨まば靈樹の通力か知らず他も我れも恍焉として自然と同化せずんば止まざるが如き心地せしめらる、而して米代川の流域鹿角郡に入らんとして大瀧温泉の勝、十二所の風韻史的感興と相伴うに於て尙更に一段の趣を添ふるあり、

▲鹿角郡方面 斯くて胸あはぬ細布の哀れを狭布の里錦木塚にとぶらへば荒徑蕭條として幽草深く春怨空しく草苔の下に埋もれし戀の面影其あわかなるに惆悵の念切なるを覺えられ大湯温泉湯瀬温泉何れも山容水態の美と伴ふあり天下の絶勝たる十和田湖は崇高なる山の精純美なる水の靈と變化百出の怪嶽奇峭幽邃と閑雅と而し

て深遠なる樹木とが造り出せる自然の權威の強大なる印象の瞭らかなる整頓せる大規模の仙境なり、森嚴なる靈秀の地としては其景にまことの重い強き力が潜み居るが如し鹿角郡は十和田湖を中心として山光水色いづれに至るも美韵浮動して而かも歴史上の趣味繞繞しつとあり然れども此處には景と勝とを蝕害せんとする鑛煙のくすぶりは純清なる空氣を濁らしつとあるを忘るべからず此のくすぶりより放かるべく鹿角郡の野趣は人爲の加工によらざるべからず、十和田湖の存在する限り鹿角の景にはまだく、奥行を有す而して飽迄も幽にして玄なるのみならず太古なからの野趣なるものは永へに失せざるなり、

秋田縣の三勝地

——十和田湖、田澤湖、男鹿半嶋——

▲▲▲三勝の特色 ▲▲▲ 自然の眞趣は崇高にして純美ならざるべからず、十和田湖は其美天工の奇を極め景致雄大にして而かも幽玄なり一念俗と放かりて心鏡濶然として明らけく何人も其玄にうたれて縹渺の氣に慄かざるはあらざるべし、詩趣横溢せりと云

ふより寧ろ神韻が浮動すると云ふを當れりとす、田澤湖に至りては其景趣瀟洒にして明媚なり而かも神話の女性的詩興を繚繞せしめ人をして轉た憧憬の念に堪へざらしむ、若夫れ男鹿の奇峭に至りては其律率の景に抑も十和田湖の幽玄なく繊細なれどもまた田澤湖に於けるが如き優婉瀟洒たる趣なし日本海を舞臺として山巒風濤其景と相對して天空海淵おのつから特色を有す、自然美の更に雄なるものと稱すべし、

▲「十和田湖」湖は海拔一千四百五十尺の高峻なる山中に存在して盛夏猶七十度を越えず、氣温は避暑地として絶好なり東西三里南北二里半周圍十有二里に近く山中湖としては我國第一なり其の位置西南は秋田縣鹿角郡七瀧村上向に屬し東北は青森縣上北郡法興澤村奥入瀨に沿ひ四圍の山岳更に湖面を抜くこと六千尺の八甲田山あり其他群巒連峯聳立して此の靈秀の地に神韻を浮動せしめつつあり湖の北方最も廣くして隨て岸の屈曲も少なし而して巨腕の如く相並びて突出せる湖中の二大半嶋によりて自ら三大灣を形つくり東湖、中湖、西湖に區別せらる、南なるは中山半嶋北なるは御倉山半嶋と稱す全嶋の奇岩怪石松楓枝を交へて景を描き翠色水に流れて之れを彩る、中山半嶋は十和田神社の靈座する所にて自ら湖の中心美たる觀あり明媚にして幽玄而かも繊細の美に饒かなり、御倉山半嶋は中山半嶋の繊細に加ふるに

更に雄大莊重の趣を添へ神代ながらの靈韻が山の美水の美岩石の美樹木の美の總べてに浮動しつつ自然の權威の強大なるに其の印象を明らかにす、湖心最も深き處は中湖にて約一千百尺に達し恰も瑞西のジュネーブ湖と其深さを同うす、十和田湖は避暑地として絶好なれども單に觀光を目的とするには五六月頃より十一月上旬迄の間を擇ばざるべからず淺寒の風尙冷やかに殘雪溪間に散點する比合湖岸到る處に躑躅の花新緑の間を點綴して殊に中山崎の西北面と中湖の南岸御倉山半嶋の北端には老櫻萬朶の花雲をたなびかして紅葩白葩が碧水に反映して光彩實に燦たる眺めあり漣波碎けて蘚苔軽く洗ふの時花縵紛風尙薫するが如し斯くて清嵐綠葉を吹いて節漸く盛夏となるの時十有二里の湖畔山緑りにして氣澄み風輕く老鶯の聲頻るには尙春去りやらぬ心地す、夕暮れて寒煙紗よりも淡く立ち罩め四山鳥影蒼然として夜の衣を被ぎ煙を綴り月を篩ひて搖曳の影を水に落し臙ろびなること夢の如く天地寂々儉むが如くに微風をよとばかりに虚空を渡り縹渺たる湖中いづれの邊よりか河鹿の聲清う響きよる、忘れぬは十和田湖の夏なり、若夫れ秋光天地に滿ちて雲影日に薄き十月の候に至らば湖を回ぐる險峰嶂崖は云ふも更なり松の翠りを地にして刺繍を施せるが如き島の影水に映るひて千柯萬條灼々として紛絮し蜀錦よりも眩き其の美

觀は崇嚴にして而かも沈痛なり十和田湖の紅葉は松の翠りと色彩の調和を保ちてけに天下稀見の美觀なり

▲趣味ある傳説▼ 十和田湖の景神韻を添ふる所以のものは趣味深き神話を有するが爲めなり此の神話は而かも秋田縣の三湖に相關聯するが故に興更に深きを覺ゆ十和田湖に先住せるは鹿角郡草木村の久内なるものの子にて八之太郎と稱するあり身長七尺に餘まり怪力人を驚かせり常に人跡至らざる深山に入りて樺の皮を剥ぎて町に鬻ぐを業としつつありしが或日谿谷より一尾の石魚を得て食せしに遽に渴を覺わ流るる谷水を飲み續けて不圖水に映りし己が姿を見れば忽ちにして大蛇の形と變じ谷を傾けて飲めども其渴依然として止まざりしが故に遂に山を割き岩を劈きて水を堰き一大湖を作りて其中に棲息することとせり此の傳説は三湖ともに同一にて田澤湖の女性なる點のみ異なるのみ然るに清和天皇の貞觀十三年五月四日綾小路關白藤原是真卿には其子是行卿夫妻と讒者の毒舌に觸れ流浪して三戸郡斗賀村權現堂の別當藤原式部方に寄食し熊野神社に祈りて一子を擧げ熊之進と名づく熊の進は永福寺月体和尙の門に入り南祖坊と名を改めて熊野神社の靈夢に依り鐵鞋の砕けたる處錫杖の折れたる地に永住せんと諸國を遍歴して十和田湖に至り八之太郎を撃退し

て此の湖を占領せり八之太郎は敗走の途次毛馬内に至り米代川を堰き止めて鹿角全郡を海とし十和田湖に換へんと試みしも神々の逐ふ所となり更に北秋田郡七座に據りて米代川堰き止めを再びせんとせしが七座天神の忿りに觸れて目的を達せず八郎湖を造りて永住し田澤湖の辰子姫と相思の仲となれりとは傳説の筋書なれども之れを歴史上の見地よりすれば八之太郎は十和田湖最初の發見者にて郷里を捨てて十和田に移住せし最初の殖民者たりしならんか而して南祖坊は公卿の落人にて八之太郎を服従せしめて十和田を占領せし第二の移住者たりしならんか

十和田湖は斯くの如く自然美の靈秀なるのみならず其の養殖事業の成功によりて聲名天下に比なきに至りしなり而して沿道また景勝の地に乏しからず錦木塚に戀の古韻を懐つかしみ大湯温泉に旅の疲れを癒して大湯川に添うて進み行くほどに一景一勝は幕を換へて油繪の如くに展開し來る瀑布の美森林の美いづれも未だ太古ながらの靜寂の趣を失はずに夢みるが如くに恍惚と眺めらる、まことに十和田湖は外形内容ともに整へる天下の絶勝なり

▲田澤湖は槎湖又は辰子瀉とも稱し仙北郡の北部田澤生保内檜木内西明寺の三箇村に跨りて周圍四里三十五町四十一間餘あり海拔九百五十尺餘の高處に水鏡を湛へ

て水深最も深き處三百九十七米突日本第一の最深湖と稱せられ水色の美なること之れまた世界第一なり而して透明の度も日本第一と稱せらる田澤湖は水色の美なる點に於て誇るべき景勝の地なるべきなり其極めて綺麗なる瑠璃色はフォーレル氏の第一に相當す氏の標準と云ふは濃き藍色より漸次薄く黄色と成る迄十一種の色を試験管に入れ一號より十一號迄の番號を打ちて海水湖水の色を規定するものなり此の第一號は海にては伊豆の三宅嶋より八丈嶋間の黒潮の中にあらずんば見られず湖水にて珍らしき程藍色なる十和田湖すら漸く三號なり歐洲にて有名なる藍湖はアルプス山中とピリリース山中となるが之れ等も第二に相當するのみなり其透明の度は日光の奥なる白根山麓に菅沼と稱し深さ八十米突の湖水ありて漸く二十米突迄は透明測定板判然すれど田澤湖は實に三十米突迄歷々と見ゆ、亦秋田の海岸より日本海に行き百十五米突の深さを求むるには餘程の沖合に進まざれば能はざるが海岸を去る陸上十二里の山中而かも海拔二百八十七米突の湖面に於て四百十三米突の深さを測定し得るが如きは實に珍らしき事にて果して四百十三米突ありとすれば深度に於ても世界に優越し居るものと云ふべし、湖の景趣は瀟洒にして而かも明媚なるのみならず風物頗る優婉なり女性的神話を有する爲めならんも此處あたりに暢ひやかなる空

氣が軽く漂ひ居るが如き感じを與へらる、見よ山峰四周を擁して靜かに嵐光翠色の美韻を漂はす湖面の悠々たるを晶々として宛ながら碧瑠璃の如し而して東方に矗立する駒形の峰頭は實に海拔一千五百九十五米突西に對する芙蓉に似たらん如き大石嶽亦海拔九百米突雲晴れて風輕う朝暾落暉彩光金波と搖るれば水聲玉琴の鳴るが如くに清く爽やかに櫻花妍を競ふ春の眺めは更らなり楓葉霜に飽きて紅影波に碎くる秋の景皆悉く詩人の吟情を喚る湖山綠深く微風靜に涼を送る夏の湖上は獨木舟を浮べて古雅の清興を掬すべく水湛々波連々嚴冬氷を見ざる湖中は宛ながら太古の戀を夢みるがやう冬の寂びしき趣に興の深きを覺ゆ、げに山秀づると雖も水を得ざれば生動せず水清しと雖も山を得ざれば光彩なし故に秀麗の山と明媚の水と相俟にあらざれば景勝の地其全きを稱すること能はず然るに田澤湖の山光水色は自然の調和宜しきを得て五奇四勝三秀は其の美韻の印象を深からしめつつあり、傳説によれば往昔仙北郡院内村神成澤(今の神代村領)三之助と云へるに天成の美人辰子と稱する女ありしが辰子毎日毎夜氏神たる大藏山の觀世音の祠堂に參籠して年老ゆるも二八の妍麗なる我が面影のとはに渝らずあれかしと祈りを捧げ百夜滿願の日御告げあり此の山嶺を北に越ゆれば清らなる泉の湧き出づる處あり爾行きて其清水を掬し見よ

然らば豫ねての願叶ふべしと辰子家人に秘して潜かに高森山の邊りに來りしに小流に遊び居る名の知れぬ小魚を炙りて食せしに俄かに渴を覺われば更に清水を谷間に求めて飲み續け飲み續くる程に身体忽ち異形と變じ見る／＼大龍と化し雲を起し雨を降らし山を崩し谷を埋らし漫々たる湖水に金鱗を揮はしてかぐろひ去りぬ母親は歎き悲み毎夜通ひ續けしも逢ふことの叶はぬ怨らめしさに松明を水に投じて歸りぬ其の焼け残りは今「キノシリ」鱒即ち國鱒となりぬと語り傳へ冬の氷りを見ざるは八郎湖より冬籠りに來る八之太郎が此處に春の彼岸まで辰子と戀の睦言を樂むが爲めなりと八之太郎は南祖坊と戦ひに負けたれども辰子を得て戀の勝利者となりじなり更に此神話に靈韻を帶はしめつつあるは秋田藩の奇才と稱せられし匹田松塘氏の書せし「龍神への申渡」なり今は御座石神社の寶物たり田澤湖を遊覽せんとするものは奥羽線を大曲驛に下車して更に其の野趣溢るるが如き街道を角館を経て或は生保内或は西明寺の兩街道を擇ばざるべがらず平坦砥の如く車上悠々湖岸に達するを得べし而して沿道其勝少なからざるのみならず歴史上の古趾山にも野にも其景と伴ひて錯在す山の峽深く幽靜閑寂の間を辿れば旅愁のすすろあらたまるやう頗る感傷的の氣分に惱やまさる時代は一千年も二千年も逆轉して落の葉蔭に潜み居りしコ

ロボツクルの棲家に自分は囚はれの身となりて行くやう淡き夢を擁ぎながら想像の翼が擴がり擴がる山岳忽ち左右に開けて湖面が鏡のやうに自分の眼前に現るる一刹那バツと急に明るくなつて自分は夢から醒めたがやうに思はずアツと叫び出さざるを得ず重き強き力に牽引せらるるがやうなる十和田湖に行きし時の氣分と違ひ田澤の感想には優さしい懐つかしみあり景に青春の若やぎあるやう覺わらる

■男鹿半嶋及び八郎湖 男子一艘雄鹿嶋松洲始覺屬妖繞と頼三樹の詩は實に男鹿半嶋の風光を生動せしめ居るを覺ゆ而して琵琶湖に似たるの故を以て琴湖とも稱せらる八郎湖は半嶋の背を繞りて清波漂ふこと二十四里浩蕩として風趣頗る明媚なり琵琶湖の幽邃は寧ろ之れを我が十和田湖に比すべく八郎湖に接觸せし氣分なるものは頗る晴やかなり斯くて半嶋は南より北に其沿岸七里が間神斧の奇巧を極盡せし怪石奇巖錯在せしめ風濤激して花と碎け而かも森茫たる日本海が北國特有の豪宕なる景勝美を添へつつあり而して其門前より加茂に至る三里が間の奇峭こそは是に實に男鹿嶋の名を成す所以にて天下の奇觀なり其の巖石の最も雄大にして怪奇を極むるは「龍ヶ嶋」なり突兀波を抜くこと二十丈にして瘦削石の如からずして宛ながら樹の如く眞に活龍の天に昇るの勢ひあり海中に自然の石門を成し「大棧橋」は云ふもさら

なり若夫れ「喬雀の窟」に至つては洞内波響百雷を崩し其巖皆五彩の紋をなして水の紺碧なるに映じつつあり巖頭に聳立するもの皆悉く雄大五六丈に上り八翅の怪鳥波を搏して空に飛翔せんとするあり六首の妖獸紛糾して混闘惡戰するが如きあり更に之れに懸りて銀河を九天より下すの瀑布もあり幾百千の巖石單に形狀の怪奇に優なるのみならず其色彩また多種多様にて或は全然玄武岩の本色を發揮せる深黒漆の如きあり其の酸化して血を塗りたる如きあり黄色にして琥珀の如きありやや紫を帯びて水晶に似んとするあり相掩映して波濤の間に百花の彩光を漂はすが如し海底は全然巖石を以て成立し水を濁らすべき點塵もなきが故に清澄無双數十尋の底また透觀すべく而かも萬種の海草を之れに附着し千紫萬紅色鮮やかに繁茂し魚族の悠々として其生を樂みつつあるなど嚴飾せられたる海底の美は寧ろ凄婉極まりなし半嶋の奇峭は其餘情と餘韻とを生せしめ難きも自然の靈の力の如何に斯く偉大なるかに想到して何人も玄にして玄なる跌宕なる光景に驚歎せざるはなかるべきなり、舟行して此の奇峭の間を廻覽するを島廻りと稱す順序は船川よりするも可なり或は陸路船川より門前に至りて夫れより船に乗して加茂迄三里が間其雄觀を縦にするも可なり半嶋の奇峭雄觀を更に玄ならしむる所以のものは陸上の古韻なり見よ風煙渺綿たる高

原に抽出する「眞山」「本山」の双峯を全面杉に蔽はれて深鬱影おのつから陰にして幽なり其黒き色凄き底には何とも云ひ知らぬ程の生氣活力とを潛まし居るがやう浮動して勢鬚煙の如く鎮靜せること水の如く其剛きこと鐵の如く其柔かなること絨の如し斯くて風の如くにして而かも風よりも濃き氣の襲ふ時「マワウ〜」と叫ぶ禽鳥の聲聞ゆる杉の精の俗を壓する絶大の叫びかともおもほはれて凄愴眞に極まりなきばかりなり半嶋の奇峭に凄婉の美を添へつつある「白絲の瀧」の水源は魔王の叫び凄き本山の溪谷より發するものなり他と殆ど獨立せし此の溪谷は峻峭にして人の到るを得ざる處巖石盡く水晶質にて滿地薄荷以外の生草なく芳烈數町に及び谷底暗澹たる巖際より水噴湧して清徹玻璃の如く而かも冷削肉を縮ましむると傳へらる「赤神神社」は此の山中にありて景行天皇の御時代始行菩薩の草創なり、戸賀灣より北浦港あたりに至る古趾舊蹟また少なからずして「眞山神社」は眞山にありて境内に一千有餘年を経たる樞の大樹あり「寒風山」は一名妻戀山と稱し半嶋の雄觀を縦にすべく絶好の地なり、八郎湖は周圍二十有餘里單に風光の明媚にして雄大なるのみならず頗る生産的の價値あり湖上の張切網、卷網、馬手網、氷魚曳網等の漁業は自然の景趣に人事上の興を添ふるものなり、

各地の公園

●**千秋公園** 關東北第一の公園として其名天下に喧傳せらるるは千秋公園なり秋田城址の本丸二の丸帶曲輪を範圍として規模雄大山海の眺絶佳なるのみならず庭園花卉等人爲の技巧を極盡して加ふるに遊戯場の設備も完全し數萬の櫻樹今や著るしく繁茂し花時紅雲を漲らして春の眺めは殊に華やかに鮮かなり廣小路に面せる殘濠の水湛々として夏は紅蓮白蓮の花清香を浮動せしめ市塵の俗と放れる心地す松下門より二の丸に至れば廣やかなる芝生一面に若やぎて運動具の備へあるを以て常に群童嬉々たるを見る本丸跡は東西六十五間南北百二十間樹木茂り合ひて春は花の墜道と稱せらるる美觀あり而して此處に招魂社あり秋田神社あり與次郎稻荷あり其他勤王の表象たる佐竹義堯公の銅像ありいつれか其昔を偲ばさるべき、西曲輪は昔の百軒長屋跡にて一望市街を眺臨するに足るべく御隅櫓跡に至りては更に一段の爽塏地にて遠山近水のただすまる最も晴やかに眺めらる靈泉臺址は天主閣に擬したる樓臺の故址にて俗に「お出し」と稱せし處なり蓮の花幽香を漂はす小池の邊り藩主が群臣

を會して詩歌管絃の清遊を縱にせし其昔を追想せしめ馬場先趾の梅林七草の園躑躅の丘路の畑さては鯉魚放泳する小池の藤花等見るからに心も爽やかに清興を惹かざるなし千秋園は部分的に花の美の特色を配在せしめつつあり先づ本丸全部は櫻花にて之れに交るは紅楓馬場先の梅桃七草本丸側堤の躑躅武庫趾の花菖蒲路傍の萩、山吹、内濠の白蓮外濠の紅蓮等を始め所謂花鳥風月の哀れ饒かに公園としては全國有数の定評あり、

●**八橋公園** 秋田市外十町の賑を隔てたる西、日吉神社境内の地を稱す秋田市經營の公園なり昔は士民遊樂の地として今尙「圓兵衛のがん子」「八橋のお春子」等の名は秋田音頭に名残りをとどめつつあり秋田土崎間の鐵道馬車通せしより往來稀れとなりて漸く衰頹せしも公園計畫が其人爲的加工を進むるに従つて幽靜閑寂の詩趣と歴史上の古情とに憧るるもの多くなれば其昔の繁榮を再びするを得べし日枝神社境内と神明社山と毘沙門山とを中心として此處ら一帶の山と野とのただすまるを詩化し繪化して晴れやかなる千秋園と相對する清觀を添ふるに至るは之れからのことにて八橋寺内はけに「秋田の鎌倉」と稱せられつつあり、

●**土崎公園** 元の秋田縣公園招魂社跡にて兩津五輪山の地一萬坪青松潮風に瑟瑟た

る間を縫へるが如くに櫻樹花雲を漲らし山海眺曠佳にして雄なり西方の高處たる五輪臺は明治十四年明治天皇陛下明治四十一年には今上天皇陛下の御駐輦遊ばされて風光を賞させ給ひし所なるを以て石に彫して紀念を止めつつあり此界限古趾舊蹟の錯在すること限りなく真に史趣詩興の横溢する名公園なり南秋田郡にては今上陛下御即位大典の紀念事業として郡費二萬圓を支出して該公園の經營費とせり、

飯田川公園と三倉鼻公園 八郎湖畔にありて眺望の雄大なるを以て推賞せらる三倉鼻は明治天皇陛下明治十四年に御駐輦遊ばされし聖跡にて附近面瀉村眞坂佐藤四平氏宅には行在所昔の儘に保存せられつつあり而して飯田川公園は最近公園の計畫を立て頻りに人爲的加工を進めて自然の丘陵に松樹密生し櫻花の其間に點在する春の光景轉た詩腸を惱めしむるあり兩者ともに南秋田郡經營の公園なり、

能代公園 能代町の西、盤若山一千三百一十坪の地をトし明治三十四年公園とせしものなり規模大ならざれども眺望絶佳にして山海自然の雄觀は恐らく縣内唯一なるべく園内既に人爲的加工の技巧を盡くして公園としての設備完きを稱せられつつあり、

本莊公園 本莊町尾崎城趾に明治四十一年九月今上陛下東宮にいましし頃東北行

啓紀念として一萬三百二十六坪の地をトして新設したる處なり本莊神社官祭招魂社境内にて櫻樹の植栽木石の裝置等人爲的加工に至らざるなく四望開豁遠山近水の勝景四季眺曠頗る佳なり而して烏海千古の雪子吉洗櫻の清流日住峯頭の山月耕圃萬頃の青嵐菜花黄金の野趣等は特に掬すべく賞すべく此他本莊には愛宕山上に於ける光風園には桃花の清韻を縦にすべく石脇公園の雄觀は所謂海の詩趣に靈の力の慄きを覺わしむ、

天鷲公園 龜田町の城趾たる同公園は明治四十年九月三百坪の地をトして新設せられたるものにて高城山麓なり其の高城山上は赤穂津城趾にて由利十二頭前赤穂津孫九郎の居城にて自然の天險なりしが所謂文明の壓迫は全山また一木も止めずなりぬ、斯る地に公園を拓らきて愴古繕春の情を惹かしむる企劃は趣味を向上せしむる所以の最も切實なる意義を有するものなり地は山海自然の眺曠雄大なるのみならず歴史上の古韻を繚繞せしめつつあるを以て衣川の流れに夜る河鹿の聲聞く程の寂びしみある龜田の古代趣味が胸に新愁を湧き立たしむれど其新愁は却つて詩的清怨の感じを興ふるが如し。

愛宕公園 櫻の花を以て有名なるは湯澤町に於ける愛宕公園なり古杉老松蒼鬱た

る神域を中心として奥山六右衛門氏三代が殆ど献身的に經營されし異彩ある公園なり高閣に登りて眸を放ては鳥海の山容皚々富士の如くに現はれ雄平仙の太平野近、遠く其勝を繪の如く展開す其の八景として稱せらるるは鳥海の晴雪、青田の白鷺、雄物の漁舟、古館の孤松、箕輪の翠嵐、松澤の水色、高橋の牧笛、善明の鐘聲等なり地は鐵道沿線に於ける櫻花の勝なり。

眞人公園 増田町の東端に在りて斷崖絶壁の下成瀬川繞流し全山翠松蒼鬱として繁茂し楓葉點綴して飛泉石に觸れ石に碎けて珠の如くに散る眞人橋は成瀬川に架せられ橋上の眺望興雅を惹くこと限りなし昔時出羽の國府を置かれたる處にて鎮守府將軍清原眞人武則の居城たりし地として顯はる今や増田町は繼續事業として此の公園の企劃に着手し既に其大觀の勝景に人爲的加工を試みたるものなり池を造り嶋を築きて櫻樹の艶を添へ運動場四阿を新設して更に其の溪其岩其水其樹の一切を利用して面目を一新せんとしつつあり嵐山の景に似て夫れよりも尙優さる雄觀あるは眞人公園なり其風趣に興行きあると共に間口の晴れやかに濶やかなる點に於て尙其の古韻の浮動しつつある點に於て本縣有數の公園なり

千年公園 岩崎城趾に人爲的技巧を加へて歴史上の感興と自然美との調和を全うす

べく明治三十二年四月一千五百坪の地をトして新に設けたるは此の千年公園なり天喜五年源賴義下向の時鎧を奉納せし八幡神社は園内に在り地は岩崎川に臨みて老樹蒼蔚風景の佳なるを以て稱せられつつあり

横手公園 阿櫻城趾一萬二千坪の地をトして明治四十一年九月開設せしものなり城山公園とも稱す滿山松また櫻の老樹稚樹が自然美の配在を調和して春の花秋の紅葉の風韻饒かなるのみならず其天空曠豁の雄觀其の歴史的感興と伴ひ心暢びやかに氣も爽やかなり

淺舞公園 淺舞八幡神社の境内に接續せる三千二百四十坪の地をトして明治三十八年四月公園とせしものなり櫻花の名勝としては湯澤町の愛宕山と相對の稱を縦にす、丘陵あり池沼あり而して數千の櫻樹は此間に植栽せられて櫻雲靉靄し殊に淺舞街道に通する七八町の間は香雲天を蔽ひて玉露滴り花の露道をなすあり伊勢胤守翁の町民と相謀りて經營せるものにて頗る風趣に富み清雅の趣溢る

其他の公園遊園 仙北郡刈和野町には「愛宕公園」ありて野趣饒かなる間に羽嶽根本通明の碑建設せられ北秋田郡大館町には「大館公園」ありて櫻花清韻を浮動せしめ鹿角郡花輪町には「櫻山公園」ありいづれも歴史上の古韻と自然美の詩趣とが繚繞して興懷を惹きつつあり

温泉の秋田

秋田縣の温泉小誌

豊富なる秋田縣の温泉を紹介すべく、各部の所在梗概を記さうと思ふ、然るに温泉と云つてもなかに冷泉にして温泉以上の効驗あるもの少なからずとせられて居る。故に純粹の温泉のみならず各部別として紹介の傳値ある温泉と冷泉との一切を書いて世人の參稽に供しやうと思ふ

▲南秋田郡

▲湯本温泉。男鹿半嶋北磯村湯本の地に在り、實に大同年中の發見にかかる田村將軍東征の砌り既に入浴したと傳へられ居る寶永年間幕府が浴場を設立したが後年大地震があつて温泉の通路を失したが村民再び之れを發見して幕府から銀若干を賞され爾來一村にて營業せしが元文二年十二月より再び幕府普請となり當時湧出三ヶ處あつたが明和四年正月の地震で二ヶ處湧出は止まつた安永九年六月の震災で全部の湧出が止まつたが天明の末年から又々漸次湧出するやうになつて今日に及んだもの

で田村將軍の詠歌がある、なにしおふ男鹿の湯本の神風はか世も吹かすに何處も涼しき」一源泉は居村中央の土中巖の隙より湧出して海面を抜く百五十尺餘である、東南は赤神山を負ひ西北は海濱に面し近く水嶋の風煙を望み、遠くは岩館の山色を眺め僅に二十餘町にして海濱に至るを得るから散策には眺め向きたばかりでなく附近には一の目潟二の目潟三の目潟等の風趣清興を惹くに足るので北浦町民は其の浴場客舎の新設備に時代的の試みをすべく企劃中で現在二軒の旅舎がある、船川港より三里北浦町より二十五町である、泉質は炭酸泉である

▲鶴の湯冷泉。は富津内村中津又字滑多羅の地にあつて源泉は山澤の岩石の間から湧出し筧を架して之れを導くこと五六十間にして浴場に達し附近は樹木鬱蒼として風趣頗る幽邃閑寂である五城目町より僅に二里平坦にして車馬の往來容易である、文化二年四月の發見で文化五年本村の郷士伊藤五兵衛氏の先代は一村を奨勵し浴場を建築し明治十二年浴舎を増築修繕して現今にては更に其の規模を擴張して鋭意發展に注着しつつある泉質は硫黄泉である

▲薬師の冷泉。は内川村淺見内字後田の地にありて源泉は湯越山の麓に湧出し浴舎は其傍に在る、五城目町より約二里道路平坦車馬を通ずる正保年中の發見にかかり

該泉は較々温度あるので熱泉を得んと工人をして開鑿をさせて見たが下底磐石であつたので不成功に了はつたさうで泉質は硫黄泉である

▲鹽湯の冷泉は金足村堀内字小栗にある國道を距る僅に一里小栗の神足川中に湧出し鹹味あるので鹽の湯と稱して居る大久保驛から一里發見年月は今より二百年前享保年中である天明の洪水に湧出所を破られたので一時廢休したが明治八年に一村商議して再び之れを開設した右泉質は鹽類泉である

▲湯の澤冷泉は上新城村白山字湯の澤の地にあり山巒四面を圍繞し山間豁谷中二ヶ處に湧出し土崎町より約三里の道路は未だ拓けない

▲瀧の下冷泉は上新城村湯の里字湯の下にありて源泉は湯の又川の傍に湧出し土崎町より約三里浴場の創立は永正以前だと傳へられて居る泉質は硫黄泉である

▲神の湯冷泉は上新城村道川字愛染にあつて源泉は山麓の池中より湧出し葱樹四面を圍繞し深水浴場に沿ひて流れ景致幽肅にして紅葉の秋景殊に美るはし土崎町より約四里浴場の創立は元和寛永の時代ださうで泉質は硫黄泉である

▲鶴の湯冷泉は旭川村山内字女夫石の地にあり秋田市を距る二里弘仁年中の發見にかかり泉質は單純泉である

▲旭冷泉は旭川村泉字五庵山にあり此地高地高燥にして西南山を負ひ東北は旭川の清流に臨み太平山の雄姿を仰いで四望開豁風趣撫すべきを覺ゆる源泉は山麓に湧出し明治二十二年十一月の創設である泉質は鹽類泉で秋田市より僅に二十町だから設備宜しきをうれば將來ますます有望であらう

▲北秋田郡

▲大瀧温泉は北秋田郡十二所町大瀧にありて米代川に沿ひ水面より高さこと一丈五尺源泉は三ヶ所ありて甲を鶴の湯乙を芒の湯丙を新湯と稱して各戸に引用して居る發見年月は遠く一千年前で浴場の創設は十二所町の創立より餘程以前であらうと傳へられて居る、傳説に曰はく往昔一の病鶴米代河畔に休ふ事數日にして飛去つた土人其の跡を探ぐりて温泉を得たので鶴の湯と名づけた、また近傍に芒茂生してたので芒の湯と云ひ後れて開場せるは之れを新湯と稱しいづれも鹽類泉である、大瀧は本縣に於ける温泉のうちで鑛道に沿うて最も便宜の位置を占めて居る大瀧温泉驛で驛名までも新たに稱せらるるやうになつた現在に於ては藤嶋前田の旅舎を始めとして浴客を收容すべく幾多の客舎はある